

22

61

法律博士
控訴院評定官

リビエール氏原著
東京岡田治郎

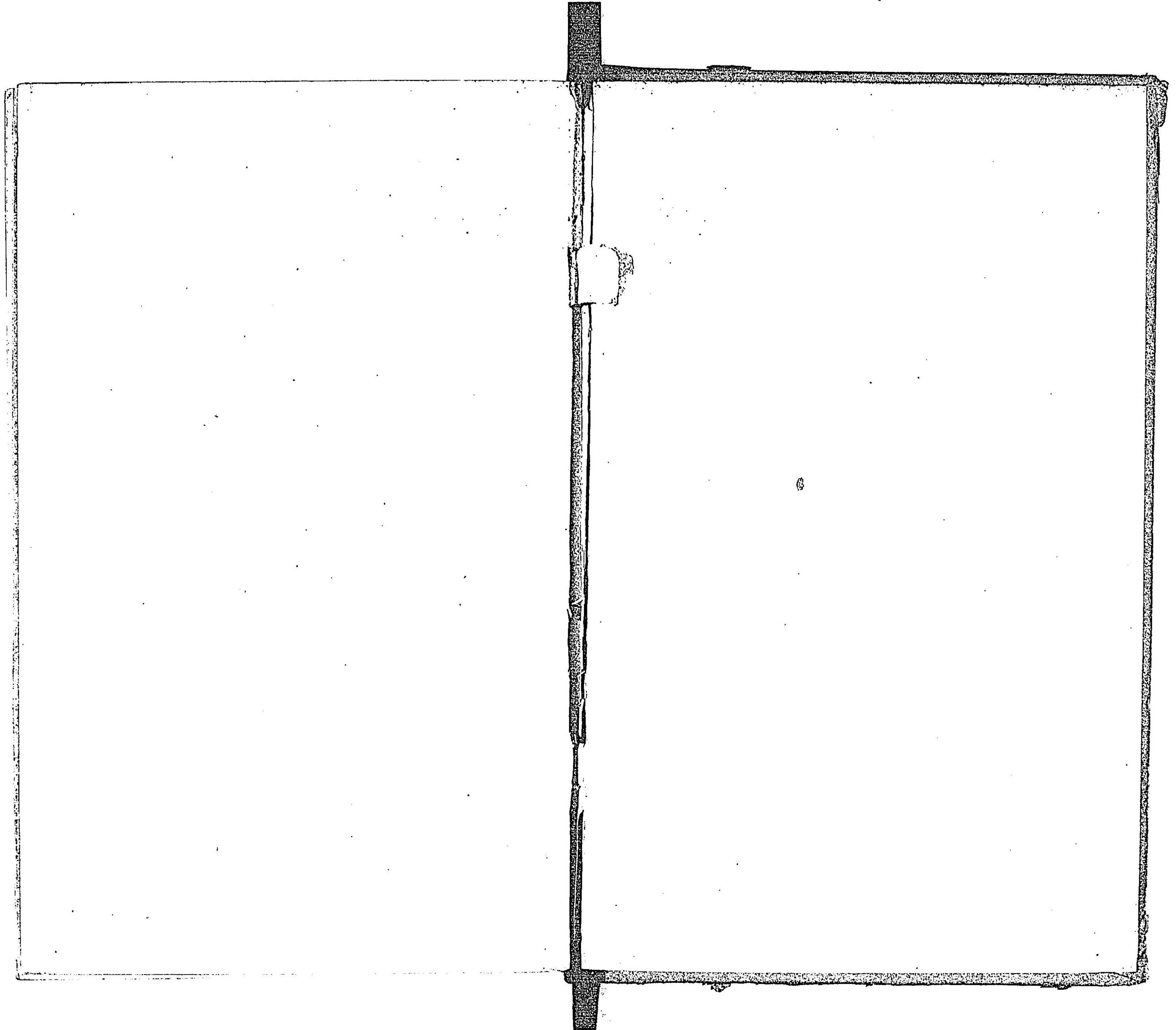
佛國法律博士
司法省參事官
日本判事登用試驗委員

熊野敏三君校正
代言士橋本好正

佛商法
國覆義
會社篇

發兌
書肆

東京東崖堂藏



佛國法律博士
里昂控訴院評定官
佛國法律博士
司法國法律博士
日本判事登用試驗委員

リビエール氏原著 東京岡田治郎

熊野敏三君校正 代宣士橋本好正

譯

佛商法
國覆義
會社篇

發兌
書肆

東京東崖堂藏

商法 會社篇 目次

第壹章

總論

第二章

合名會社

第三章

差金會社

第四章

株式差金會社

第五章

無名會社

第六章

資本増減會社

第七章

會社ノ證據ノ一

第八章

廣告ノ手續其手續ヲ遵守セサル時ノ制裁

第九章

共分組合

第十章

會社解散ノ一 精算分配

第十一章

社員ニ對スル訴權ノ期滿免除

第一追加

社員間ノ爭論ヲ判決スル一

第二追加

「ト」ン「チ」一「マ」及保險會社

商法會社篇



佛國法律博士 熊野敏三校正

東京 岡田次郎作

同 代言士橋本好正

共譯

商法第三卷之目的
ナルニ在リ然レ民事會社ニ關スル普通ノ規則ニシテ往々之ヲ商事
會社ニ適用スヘキモノアリ(民法第三章編第九章)故ニ結約者ノ意思ヲ以テ或ハ商
法ノ規定ヲ以テ特ニ民法ヲ除棄セサルハ必スヤ其規則ニ從ハサル
ヘカラス

會社トハ二人以上ニテ物ヲ共通シ其由テ生スル利益ヲ分タンヲ約
スル契約ヲ云フ(民法第一千二百八條)請フ左ニ此定義ヲ説明セン
會社ハ一ノ契約ナリ故ニ會社ハ必ラス一個ノ契約ヨリ生スルモノナ

リ此契約ハ其完全スル爲メニハ敢テ共資トナルヘキ物件ノ引渡ヲ必要トセサルヲ以テ是レ全ク合意ノ契約ナリ然レモ余輩後ニ至リ一般商業會社ナルモノハ共分組合ノ場合ヲ除クノ外民事會社ノ如ク單ニ合意ヲ以テ完全スヘキ契約ナル乎將々之ニ反シ有式ノ契約即チ其契約ノ有効ナル爲メニハ多少ノ法式ヲ要スヘキカ如何ノ問題ヲ研究セントス又會社ノ契約ハ要償ノ契約ナリ何トナレハ是レ締約者相互ノ利益ノ爲メナレハナリ又双務ノ契約ナリ何トナレハ其契約ヲ締結スルヤ直ニ締約者互ニ多少ノ義務ヲ負擔スルニ至ルヘケレハナリ加之善意ニシテ且ツ萬國法ノ契約ト謂フヲ得ヘシ

第一 締約者各持出物即チ差入物ヲ爲サ、ルヘカラス

差入物ハ利益ヲ謀ルニ足ルヘキ用具ニシテ且之ヲ金額ニ査定スルヲ得ヘキモノタル以上ハ敢テ其物品ノ如何ヲ問ハサルナリ器械及ヒ華主ハ十分ノ差入物ト爲スニ足ルヘク加之勞力及ヒ商業上ノ信用即チ社員中ノ者業務ニ熟練ナル爲メ若クハ誠實ニシテ常ニ自己ノ契約ヲ履行スル爲メ其世上ニ博シタル愛顧モ亦タ以テ有効ノ差入物ト爲スニ足ルヘキナリ

第二 社員全体ノ利益ヲ計ラサルヘカラス

然レモ此要件ノ解釋ニ至テハ論者ノ其意旨各同一ナラス或ハ曰ク社員全体ノ利益ヲ計ルノ意旨ハ會社契約ノ性質上欠クヘカラサルモノニシテ若シ社員中特ニ一名ノ利益ヲ計畫スルニ過キサルキハ是レ乃チ代理契約ニシテ會社契約ニアラサルナリト又他ノ論者曰ク所謂全体ノ利益トハ各社員カ共同ニテ利益ヲ得ヘキヲ云フモノニシテ敢テ各社員カ順次此利ヲ得ルノ謂ニアラサルナリト是レ曩ニ「ルリ」氏及「トロール」氏ノ間ニ於テ貳千「フラン」ノ金額ヲ共通シ其異ニスル商業ノ爲メ各三ケ年間之ヲ利用スルノ約束ヨリ生シタル爭論ニ付大審院カ

判決シタル所ナリキ

四

第三 會社ハ利益ヲ得ルヲ以テ目的トセサルヘカラス
故ニ共濟保險契約ノ如キハ一個ノ會社ニアラサルハ世人ノ説ヲ同フ
スル所ナリ何トナレハ此ノ契約ニ於テハ社員ハ各利益ヲ得ルノ目的
ニアラスシテ各人ノ損失ヲ社員全体ノ負擔ト爲シ各其一部分ヲ分擔
スルノ契約ニシテ所謂相互ニ其損失ヲ防クニ過キサルナリ

第四 會社ノ利益ハ之ヲ各社員ニ分配セサルヘカラス
社員タルモノハ各利益ノ一部分ヲ所得ト爲スノ希望ナカラサルヘカ
ラス故ニ社員中ノ一名其利益ノ全額ヲ專有スルノ契約ハ無効ナリ(民
法第五拾五條)是レ獅子會社タルヘケレハナリ

第五 會社ノ目的ハ法律ニ適セサルヘカラス即チ法律凡俗若クハ
社會ノ秩序ニ背戾セサルヲ要ス

故ニ高利貸ノ業ヲ爲シ或ハ密賣ヲ以テ目的ト爲ス會社ハ法律上禁止
スル所ナリ

論者又之ニ附言シテ曰ク第六資金ノ利用ヨリ生スヘキ收利ニ着視ス
ルト是ナリ故ニ一種ノ組合ニシテ會テ勞動ヲ爲スコトナク亦タ收利ヲ
得サルモノ、如キハ決シテ會社ト混淆スヘカラス是レ全クトシテ
又會社ト稱シ數名ノ資本家多少ノ金額ヲ蒐集シ先キニ死去シタル者
ノ持出高ノ全額若クハ一部ハ最後ニ生存シタル者ノ所得ト爲スコト
約束スル所ノ組合ニ適用ス故ニ當初定メタル資本金額ニハ敢テ増減
ヲ生セス社員中ノ最後ニ生存シタル者ハ敢テ勞動ニ據ルニアラス亦
タ技藝ニ關スルニアラスシテ天賦ノ長壽ヲ保チタルカ爲メ己レノ意
思ニ任カセス又勤勞ニ出テサル不測ノ幸福ヲ受クルモノナリ
又二名若クハ數名ノ間ニ於テ共同利害ノ存スル場合ヲ以テ之ヲ會社
ト混同スヘカラス例ヘハ遺物相續ニ依リ若クハ共同ノ贈遺ニ依リ數
人一物ヲ共有スル場合是ナリ抑財產共通ハ大概契約ノ一種タルヘシ

五

ト雖モ會社ニ至テハ必ラス一ノ契約ナリ又假令ヒ時アリテ財産共通ノ契約ノ結果ニ依リ生スルコアルモ是レ其地位ヲ保有スルニ過キスト雖モ會社ニ在テハ社員其共通スル所ノ財産ヲ利用シ因テ以テ其利ヲ收メ之ヲ分配スルニアルヲ以テ到底其間同一視スヘカラサルナリ夫レ會社ヲ爲サンニハ數人或物品ヲ共用スルヲ欲スルモ未タ以テ足レリトセス尙ホ其共有ニ供シタル物品ハ收利ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルノ意思ナカラサルヘカラサルモノナリ故ニ二名ノ人共同ニテ或物品ヲ購求シ然ル後之ヲ分配センカ爲メ契約ヲ爲スト雖モ是レ單ニ其物品ヲ共有スルニ止マリ敢テ會社ニアラサルナリ

會社ニ民事會社ト商事會社トノ別アリ乃チ其會社ノ民事會社ナル乎將タ商事會社ナル乎ヲ識別スルニ三種ノ說アリ

第一說 會社ノ性質ヲ定ムルカ爲メニハ其組織ノ如何ヲ研究熟慮セサルヘカラス故ニ其會社ノ組織ハ無名會社ナルカ將タ株式會社ニシ

テ稍ヤ商事會社ノ常態ニ近キキハ是レ即チ商事會社ナリ

第二說 凡會社ハ其業務ノ性質ニ隨ヒ或ハ商事會社トナリ或ハ民事會社トナルモノナリ故ニ之ヲ區別セント欲セハ須ラク單ニ其業務ノ如何ニ據ルヘシ商事會社トハ商業ト爲ルヘキ業務即チ商法第六百八十二條及ヒ第六百八十三條ニ列擧シタル業ヲ營ムモノニシテ民事會社ハ毫モ商業ニ關セサル事項ニ從事スルモノヲ云フナリ是ニ因テ之ヲ觀レハ其會社ノ民事ナル乎將タ商事ナルカヲ探知セント欲セハ敢テ其名義ニ拘泥スヘカラサルナリ社員カ其會社ニ附與スル所ノ名稱又ハ其會社ノ組織ノ如キハ毫モ其會社ノ種類ニ關スル所ニアラス故ニ會社カ其資本金ヲ多少ノ株式ニ分ツハ概テ商事會社ノ慣習ナルモ或ハ民事會社ニシテ如此場合ヲ生スルコアリ然レモ單ニ株式ニ分チタルノ理由ヲ以テ其會社ヲ目シテ商事會社ナリト云フヘカラサルナリ此說ハ頗ル卓越ナルモノナリ

然レモ或論者ノ主張スル所ニ據レハ會社ノ眞ノ性質ヲ識別スルニ際
シ民事會社ナルカ將タ商事會社ナルカノ區別分明ナラスシテ尙疑團
ヲ生スルニ當テヤ若シ其會社ニシテ商事社ノ組織ヲ採用スルキハ之
ヲ目シテ商事會社ト看做サ、ルヘカラス加之尙ホ論者ノ說ニ依レハ
商事會社ノ組織アルキハ裁判官ハ其會社ニ業務ノ性質ヨリ寧ロ契約
者ノ意思ヨリ生スル商社ノ結果ヲ生セシムルヲ得ヘキナリ即チ其結
果トハ雙方之ヲ明言シテ民事會社ニモ隨意ニ移スヲ得ルモノニシテ
例ヘハ社員ノ連帶義務又ハ支配人ノ權利ノ擴張ノ如キ是レナリ

第三說 會社ノ民事會社ナルカ將タ商事會社ナルカヲ區別スルハ其
業務如何ニ在ルハ實ニ然リ假令民事會社ニシテ商事會社ノ組織ヲ用
ユルモ尙ホ民事會社タルノ性質ヲ失ハサルハ實ニ然リ然レモ論者ハ
一步ヲ讓リ左ノ說ヲ爲シテ曰ク若シ社員カ會社ヲ結フニ際シ陽ニ其
會社ハ商事會社ニシテ民事會社ニアラサルヲ明言スルキハ單ニ其

意思ノミニ依リ以テ其會社ヲ商事會社タルノ性質ヲ有セシムルニ
足ルヘキナリト

民事會社ト商事會社トヲ區別スルハ頗ル緊要ナリ然ル所以ノモノハ
第一民事會社ハ其有効ナルカ爲メ毫モ公式ヲ要セサルモ之ニ反シ商
事會社ハ大概多少公式ノ手續ヲ遵守スルニアラサレハ設立スル能ハ
ス第二民事會社ニ於テハ社員ハ支配人ニ對シ特ニ支配權ヲ與ヘタル
事項ニアラサレハ其締結シタル契約ニ付他人ニ對シ其義務ヲ負ハス
ト雖モ商事會社ニ於テハ支配人ノ權利廣クシテ其締結シタル契約ニ
付社員ヲシテ義務ヲ負ハシムルヲ得第三民事會社ニ於テハ社員ハ普
通ノ期滿免除ノ外述フルヲ能ハサルモ商事會社ニ於テハ會社ノ精算
人ニアラサル社員ハ五ヶ年ノ期滿免除ヲ述ルヲ得(商法第六十四條)第四民事
會社ニシテ破産スルキハ家資分散トナルモ商事會社ニシテ其支拂ヲ
停止スルキハ身代限ノ法律ニ處セラル第五民事會社ニ於テハ其ノ社

員間ニ起リタル爭論ハ普通ノ裁判所ニ訴フルモ商事會社ニ於テハ其社員間ノ爭ハ商事裁判所ニ於テ之ヲ判決ス
 商事會社ハ大概一個ノ無形人ヲ組織ス會社契約ヲ以テ造リタル共同利益ハ各社員ノ外ニ於テ一種特別ノ無形體ヲ成立スルモノナリ
 民事會社モ亦タ一個ノ無形人ヲ組成スルヤ否ヤノ問題ハ頗ル議論ノ紛然タル所ナリ

然レモ商事會社ヲ無形人ト看做スハ大概論者ノ說ヲ同フスル所ニシテ其意旨ハ殊ニ民法第五百二十九條ニ基因スルモノナリ該條ニ規定スル所ハ商事會社ニ於テハ假令其會社ニシテ不動産ヲ所持スト雖モ社員ノ權利ハ全ク動産ノ權利ナリト論者曰ク果シテ社員ノ權利動産ナルキハ必然其不動産ハ毫モ社員ノ所有ニ歸セサルノ故ナラン否ラサレハ其權利ハ不動産タラサルヘカラス是レ乃チ不動産ハ無形人即チ會社ニ屬スル實証タルヘシ

斯ノ如ク商事會社ヲ無形人ト看做スルキハ之カ爲メ生スル所ノ重要ナル結果ハ左ノ如シ

第一 會社ハ一個ノ無形人ナルヲ以テ獨リ會社ノミ資本金ノ所有者タルモノナリ故ニ會社ノ成立スル間ハ社員ハ其資本金ニ所有權アラサルハ勿論亦共有權ヲ有スルヲ能ハサルナリ
 第二 會社ニ對シ負債ヲ有スル者其社員ノ一名ニ對シ債主權ヲ有スルモ其間義務相殺ヲ爲スヲ能ハサルナリ何トナレハ其權利ト義務トハ同人ノ間ニ存セサレハナリ第三ノ人ハ乃チ會社ノ義務者ニシテ其債主權ニ至テハ會社ニ對スルモノニアラスシテ社員ノ一身ニ關シ成立スルモノナリ故ニ第三ノ人ハ會社ノ負債者ニシテ社員ノ權利者タルヲ以テ義務相殺スルヲ能ハサルヤ明ナリ
 第三 會社ノ權利者ト社員ノ權利者トハ同一ノ人ニ對スル權利者ニアラサルヲ以テ社員ノ權利者ハ決シテ會社ノ權利者ト共ニ會社ノ資

本ヨリ其辨償ヲ受ケンヲ要求スルヲ得ス社員ノ權利者ハ曾テ會社ト契約ヲ締結シタルヲアラサルヲ以テ會社ヨリ其負債ノ辨償ヲ受ケンヲ要求スルヲ得ス故ニ社員ノ權利者ハ毫モ會社ノ資本金ニ權利ヲ有スルモノニアラス是レ他ナシ會社ノ資本金ハ特ニ會社ノ債主ノ抵當物タルモノナレハナリ

第四 會社ノ業務ニ關シ他人ト生シタル爭論ニ於テハ其訴訟ニ交渉スルモノハ會社ニシテ毫モ社員ノ關與スル所ニアラサルナリ

商事會社ハ第一結約者ノ契約、第二商法、第三民法ニ基キ支配セサルヘカラス(民法第千八百七十三條商法第千八百七十八條)

又地方ノ慣習ハ商事會社ニ適用セサルヘカテサルヤ否ヤニ至テハ疑團ノ存スル所ナリ

民法第千八百七十三條ハ慣習ヲ採用スルヲ明記シ且ツ千八百七年九月十九日ノ法律第二條ハ先ニ商法制定ノ時ニ當リ之カ基礎ト爲リ

商事ニ關スル舊法律ハ都テ刪除スル旨ヲ公布シタルモ其慣習ナハ依

然トシテ現存セシメタルカ如シ

然レモ商事會社ハ如何ナル原則ニ基キ之ヲ支配スルヤ否ヲ定ムル所ノ商法第十八條ハ敢テ慣習ノ事ヲ掲載セス且一千八百七年九月十九日ノ布告ハ舊來ノ法律ヲ廢除シタルヲ以テ況シテ法律ニ比スレハ其勢力ノ遙ニ薄弱ナル慣習ハ自ラ廢棄ニ歸スヘキノ理ヲ主張シ以テ前說ヲ論駁スル者アリ

余輩ハ以下民事會社ノ規則ニシテ之ヲ商事會社ニ適用スヘキ重要ナルモノヲ掲載セントス

然レモ會社ノ證據ニ關スル民法ノ規則ニ至テハ余輩茲ニ喋々セサルベシ何トナレハ余輩ハ他日商法カ特ニ商事會社ノ爲メ證據法ヲ制定スルヲ叙述スルヲアルヘケレハナリ即チ商事會社ニ在テハ之ヲ証明スルカ爲メ必ラス證書ヲ要スルモノニシテ仮令百五十「フ」以下

ノ金額ニ關スル時ト雖モ大概証人ヲ以テ其証ヲ立ルヲ許サ、ルナリ」
 民法ノ規則ニ於テ余輩カ茲ニ陳述セント欲スルモノハ僅ニ會社ノ創
 立社員ノ差入物會社ニ對スル社員ノ義務并ニ社員ニ對スル會社ノ義
 務及ヒ各社員ノ割付金并ニ分擔スヘキ損失ノ割前ヲ定ムヘキモノニ
 過キサルナリ

第一 會社ノ創立 會社創立ノ期日ヲ確定スルハ往々必要ヲ感ス
 ルコアリ而シテ社員間ニ於テ反對ノ契約ヲ締結シタル場合ヲ除クノ外
 大概會社ハ其契約ヲ締結シタル日直ニ成立スルモノト云フヲ得ヘシ
 (民法第千八百四十三條)

然レモ特ニ創立ノ期日ヲ定メ或ハ未必ノ條件ヲ以テ會社ノ成立ヲ契
 約スルコアリ即チ結社契約書ニ社員ノ義務并ニ權利ハ確定期日ノ到
 來シ若クハ或條件ノ成就シタル後ニアラサレハ生セサルコトヲ約束ス
 ルヲ得ヘシ然レモ仮令會社ノ業務ノ開始其開業ヲ或事件マテ讓ルコ
 アリト雖モ會社ノ結合ハ約束ヲナシタル時直ニ成立スルモノニシテ
 何人ト雖モ社員タルモノハ其契約ノ義務ヲ免カル、コト能ハサルモノ
 ナリ

第二 社員ノ差入物ノコト 各社員ハ會社ニ差入ル、コトヲ約束シタ
 ル事物ニ付テハ會社ニ對シ義務者ナリ(民法第千八百四十五條)而シテ各社員ノ差
 入物ハ或ハ一個又ハ數個ノ確定物ナルコトアリ或ハ金額ノ如キ量定物
 ナリ以テスルコトアリ確定物ニ至テハ單ニ其享用權ヲ差入ル、コトアリ又
 社員ハ自己ノ勞動ヲ以テ差入物ト爲スヲ得ヘシ
 社員カ差入物ト爲サンコトヲ契約シタル物品確定物ナル時社員ノ遲滯
 アルニ非ス又其過失アルニアラスシテ其物滅盡シタルモハ會社ハ既
 ニ差入ノ約束ヲ締結シタル時直ニ所有者ト爲リタルヲ以テ其社員ハ
 物件差入ノ義務ヲ免カルヘシ
 然レモ若シ量定物例ヘハ壹万圓ノ金額ヲ差入ル、ノ義務アルモハ前

陳ノ場合ト異ナリ會社ハ其金額ノ引渡ヲ受ケタル後ニアラサレハ所有者ト爲ラサルヲ以テ其滅盡ハ社員ヲシテ其義務ヲ免カレシメサルナリ又單ニ享用權ノミヲ差入タル物件確定物ニシテ之ヲ使用スルモ消耗セサル時ニ當リ若シ其物件滅盡シタルキハ其損失ハ所有者タル社員之ヲ負擔セサルヘカラス(民法第一千八百一十條)然レモ享有權ヲ差入レタル物品ノ性質上若クハ双方ノ意思ヨリシテ其物品ノ價格ヲ支拂フノ責任ヲ負ヒ會社之カ所有者ト爲リタルコト公明ナルキハ會社ハ其損失ノ責ニ當ラサルヘカラス是レ乃チ下文ニ掲クル所ノ數個ノ場合ニ於テ生スルモノナリ

第一 其差入物ハ一回ノ使用ニ依リ直チニ消耗スヘキ物件ナル時

(民法第一千八百五十一條)

第二 其差入物ヲ保存スレハ疎惡トナルヘキ時(上全)

第三 享用權ノミヲ差入タル物件賣却スヘキ商品ナル時(上全)

第四 差入物件ノ評價ヲ爲シ之ヲ目錄帳ニ掲ケ會社ニ差入レタル時

若シ社員中ノ壹名特ニ會社ノ營業ニ關スル勞動ヲ以テ差入物ト爲シタルキハ其差入物ハ終始連續シテ之ヲ供スルニ在ルヲ以テ其社員ノ義務ハ會社解散ニ至ルニアラサレハ完全セシモノニアラサルナリ又其社員ハ會社ノ目的タル技術ニ據リ得タル利益ハ悉ク之ヲ會社ニ計算セサルヘカラス

社員確定物ヲ差入レ而シテ會社其物件ヲ他人ヨリ奪ハレタルキハ賣主カ買主ニ對シ奪取擔保ノ責ヲ有スルカ如ク社員ハ會社ニ對シ之カ擔保ノ責ヲ免カレサルモノナリ又社員金額ヲ差入ル、コト契約シ之ヲ差入レサルキハ民法ノ原則ニ從ヘハ大概裁判所ニ出訴シタル後ニアラサレハ利息ヲ生セサルノ規則ナリト雖モ之レカ例外トシテ其差入ノ契約ヲ成シタル以上ハ當然會社ニ對シ其利息ヲ負擔セサルヘカ

ラス(民法第六千八百一十條)

第三 會社ニ對スル社員ノ義務

抑モ會社ノ目的タルヤ共有ト爲シタル物件ノ享用權ヲ社員ニ與フルニアラズノ獨リ會社即チ無形人ノ所有物タル會社ノ資本ヲ利用シ因テ以テ利潤ヲ獲得セント欲スルニアルヲ以テ必スヤ社員カ會社ノ金匱ヨリ取出シタル資金ハ私利ノ爲メ之ヲ使用シタル日ヨリ起算シ必ラス會社ニ對シ其利息ヲ負擔セサルヘカラス(民法第六千八百一十條)加之若シ之カ爲メ會社カ損害ヲ蒙リ或ハ收利ノ期ヲ誤リタルキハ利息ヲ負擔スルノ外尙ホ其損害ヲ辨償セサルヘカラス

各社員ハ自己ノ過失ニ由リ會社ノ爲メ生シタル損害ハ之ヲ辨償セサルヘカラス然レモ他ノ事業ニ於テ社員自己ノ技藝ヲ以テ會社ニ利益ヲ與フルコトアリト雖モ其利益ヲ以テ損失ト相殺ヲ爲スコト能ハサルナリ(民法第六千八百一十條)元來義務相殺ナルモノハ壹人ニテ債主タリ又負債主タ

ル時ニアラサレハ之ヲ施行スルコト能ハサルヤ明瞭ナリ今社員カ會社ニ利益ヲ與ヘタルハ僅ニ其職務上止ムヲ得サルニ出タルモノナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ社員ハ會社ニ對シ損害賠償ノ責アリト雖モ其利益ヲ生シタルハ己ノ義務ヲ完フシタルニ過キサルヲ以テ會社ハ敢テ社員ニ對シ義務ヲ負フタルニアラサルヤ昭々乎トシテ明カナリ

第四 社員ニ對スル會社ノ義務 各社員ハ左ニ掲クル諸項ノ場合

ニ於テハ會社ニ對シ訴權ヲ有スルモノナリ

第一 會社ノ爲メ己レノ消費シタル資金

第二 會社業務ノ爲メ善意ヲ以テ契約シタル義務

第三 會社業務處理ノ爲メ避クヘカテサル危險(民法第六千八百一十二條)

今其一例ヲ舉クレハ會社業務ノ爲メ旅行シ其途上ニ於テ盜賊ニ遭遇シ脅迫奪掠セラレタルキハ會社ハ之ヲ辨償セサルヘカラス然レモ會社ハ特ニ其用務ニ必要ナル危險ノ外之カ辨償ノ義務ヲ負擔セサルモ

ノナリ故ニ社員ハ會社ノ業務ニ必要アルニアラス惟ニ自己ノ娛樂ノ爲メ之ヲ消費スルノ意思ヲ以テ携帶シタル資金ハ假令之ヲ強奪セラレモ會社ニ向ヒ損害ノ賠償ヲ要求スルコト能ハサルナリ

第五 損益ノ分擔ヲ定ムルコト 各社員ノ分擔スヘキ損失并ニ分配ヲ受クヘキ利益ハ若シ結社証書ニ之ヲ明記セサルキハ法律ハ各社員ノ差入物品ヲ比較シ平等ニ其割合ヲ定ムルナリ(民法第三千八百條)而シテ若シ社員中ノ一名己レノ技藝ヲ以テ差入物ト爲シタルキハ差入物ノ價額最僅少ナル者ト同一ニ看做シ之ヲ基本ト爲シ以テ其分擔スヘキ損失若クハ分配ヲ受クヘキ利益金ノ割合ヲ定ムルモノナリ(同上)

法律ハ損益分配ノ割合ヲ定ムルコトヲ社員ノ隨意ニ放任スルヲ以テ社員ハ其權利ヲ利用スルヲ得ルモノニシテ其損益分配ノ割合ハ毫モ差入物ト差異ナキヲ必要トスルニアラサルナリ然レモ余輩カ既ニ叙述セルカ如ク社員中其一名ニ利益金ノ全額ヲ與フルノ契約ハ法律ノ禁制

スル所ナリ又會社ニ差入タル資本若クハ証券ヲシテ全ク損失ニ關與セサルシムルノ約束モ法律ノ禁止スル所ナリ(民法第五千五百條)

民法ニ據レハ單ニ金額若クハ証券ヲ差入レタル者ニ限り其損失ニ關スル義務ヲ免カル、ノ契約ヲ禁スルヲ以テ技藝ヲ差入レタル社員ヲシテ其損失ヲ免カレシムルノ契約ハ適法ノ契約ト云ハサルヲ得ス元來斯ノ如キ契約ハ技藝ヲ差入レタル社員ヲシテ實ニ其損失ノ責ヲ脱セシムルニアラサルコトヲ注目スヘシ何トナレハ若シ會社ハ毫モ其社員ニ利益ヲ與ヘサルキハ技藝ヲ差入レタル社員ハ徒ニ勞働苦役ヲ尽セハナリ

余輩ハ斯ニ會社ニ關スル管理並ニ第三者ニ對スル會社及ヒ社員ノ義務ニ論及セサルヘシ其原則並ニ他ノ規則ハ他日商業會社ニ關スル論辨中其處ヲ見ルヘキナリ此外余輩ハ特ニ會社解散ニ關スル民法ノ規則ヲ縷述セントス

商法ハ先ツ三種ノ商業會社ヲ掲ケリ即チ左ノ如シ

第一 合名會社

第二 差金會社

第三 無名會社

次テ最後ニ第四ノ商業會社ヲ掲ケリ之ヲ稱シテ共分組合ト云フ(商法第四條十七)商法編纂委員カ是ノ如キ編纂法ヲ爲シタル所以ノモノハ蓋シ前述セル三種ノ商業會社ト共分組合トハ余輩カ後ニ論述スヘキカ如ク全ク其規則ヲ異ニスルヲ以テ之カ混同ヲ避ント欲スルニアルヘシ又差金會社ニ於テモ通常差金會社及ヒ株式差金會社ヲ區別セサルヘカラス此二會社ハ仮令同一ナル原則ヲ有スルモ株式差金會社ハ其規則ヲ異ニスル所アルナリ加之ス資本増減會社モ亦タ會社ノ種類中ニ在ルモノナリ然レモ其會社ハ佛國商法中ニ新設シタルモノナレハ商事會社ヨリ寧ロ民事會社

ニ屬スヘク且ツ余輩カ上文ニ陳述シタル諸會社中一ノ組織ヲ具備スルニアラサレハ成立スルヲ能ハサルヲ注目スヘシ終ニ余輩ハ一千八百六十二年七月二日ノ法律ヲ以テ改正シタル商法第七十五條ヲ解説スルニ當リ手形世話人ト資本ノ貸主トノ間ニ於テ一種ノ會社ヲ組織スルヲアルヲ述ヘシ是レ差金會社ニ類似シタルカ如シト雖モ亦タ異ナル所アリテ特別ノ規則ヲ有スルモノナリ

第二章 合名會社

合名會社トハ二名若クハ數名ノ者社名ヲ以テ商業ヲ營ムカ爲メ契約シタル會社ヲ云フ(商法第二條第十條)「社名トハ會社ノ名ナリ即チ其一部分タル社員ト全ク異ナル無形人ノ名ナリ然リ而シテ會社カ契約ヲ結ビ或ハ裁判所ノ召喚ヲ受ケ或ハ登記役所ニ登記スル等ハ悉ク此名ヲ以テ之ヲ爲ス者ナリ例ヘハ甲乙兄弟結社シタルモ其兄弟ハ即チ會社ノ名ニシテ若シ他ノ一名若クハ數名ノ者之ニ加入スルモ其社名ハ某兄弟

及ヒ某ト云ヒ又全社員ノ名ヲ附セス之ヲ抄畧シテ某組合ト云フ
 然レモ社名ト合名會社ニテ營業スル製造所ノ名トハ決シテ混合スヘ
 カラス其一例ヲ擧ケレハ何々玻璃製造所ト稱フルモノアリ其名稱ハ
 決シテ社名ニアラスシテ製造所ノ名稱ニ過キサルナリ
 社名ニハ社員ノ名ノミヲ附スルモノニシテ社員外ノ人名ハ社名ト爲
 スコ能ハス而シテ此規則ハ會社ト結約スル所ノ第三者ニ對シ詐偽ヲ行
 フニアラサレハ到底犯スコ能ハサルモノナリ
 若シ社員ニアラサル者ノ姓名ヲ以テ社名ト爲シタルキハ之カ爲メ損
 害ヲ蒙リタル第三者ハ損害賠償ヲ求ルヲ得ヘシ(商法第一千三百八十二條)而シテ最
 モ至當ノ賠償ハ己レノ名ヲ記載セルコトヲ知り放任シタル者ヲシテ社
 員ト連帶シテ其責ヲ負擔セシムルニ在リ
 或論者ハ合名會社ノ性質ヲ掲ケ左ノ說ヲ爲セリ曰ク凡ソ合名會社ノ
 社員ナルモノハ世人悉ク之ヲ熟知セルヲ以テ第三者ニ對スル會社ノ

義務ハ各自身上ノ責任ヲ負フ可キモノナリト又他ノ論者ハ合名會社
 カ他ノ商業會社ト異ナル三種ノ性質ヲ掲ケタリ即チ第一該會社ハ社
 名ヲ以テ商業ヲ營ム(商法第二十條)第二會社カ締結シタル契約ハ社員ニ反
 響シ身上ノ責任ヲ負ハサルヘカラサル(商法第二十二條)第三會社ノ權利者
 ハ各社員ニ對シ連帶ノ訴權ヲ有スルモノナリ是ヲ以テ權利者ハ各社
 員ニ向ヒ其負債ノ全額ヲ要求スルヲ得ルコトナリ
 上文ニ明示シタル第一ノ性質即チ社名ナルモノハ敢テ合名會社特有
 ノ性質ニアラサルナリ何トナレハ余輩カ後ニ陳述スルカ如ク差金會
 社ニモ亦一個ノ社名アリ故ニ其社名ヲ有スルノ性質ハ合名會社ト社
 名ヲ有セサル無名會社及ヒ共分組合トチ分別スルニ過サルナリ
 第二ノ性質即チ身上ノ責任ナルモノハ皮相ノ見解ニ在テハ前說ニ比
 スレハ一層確實ニシテ且ツ之ヲ以テ吾人ハ合名會社ト差金會社並ニ
 無名會社トチ區別シ得ルカ如シト雖モ是レ亦タ余輩カ差金會社及ヒ

無名會社ノ規則ヲ解説スルニ當リ論難スヘキ性質ナリ
 最後ニ存在スル性質ハ連帶義務是ナリ是レ合名會社ヲ他ノ會社ヨリ
 區別スルノ性質ニシテ獨リ該會社ニ限り特有ノ性質ナリ故ニ他ノ會
 社ト合名會社ヲ區別スルモノハ他ナシ會社ノ權利者ノ爲メ總社員カ
 負擔スル所ノ連帶責任是レナリ

現ニ連帶ノ責任ハ合名會社ト差金會社及ヒ無名會社トヲ區別スルモ
 ノナリ差金會社ニ在テハ差金人ノ責任ハ其差入金高ニ止マルモノナ
 リ(商法第三
 十六條第二)又無名會社ニ在テハ社員ハ其利益ノ金額ヲ失フニ過キサ
 ルモノナリ然レモ連帶責任ノ性質ヲ以テ如何シテ合名會社ト共分組
 合トヲ種別スルヤヲ了解セント欲セハ須ラシ該組合ノ極メテ曖昧ナ
 ル性質ヲ研究セサルヘカラス余輩後段ニ至リ之ヲ論述セントス
 此說果シテ其當ヲ得タルモノトセハ合名會社トハ二人以上社名ヲ以
 テ商業ヲ營ミ連帶シテ責任ヲ負フ所ノ會社ナリト解釋セサルヘカラ

ス

然ハ則チ假令特約ヲ以テスルモ合名會社ノ社員ハ連帶責任ヲ免カル
 、ヲ得スト云フヘキ乎

各社員ハ第三者ト契約ヲ爲スニ當リ獨リ其契約ニ限り己レ一身ニ其
 責任ヲ負擔シ敢テ連帶責任ニアラサルヲ特約スルヲ得ルハ敢テ疑
 チ容レサルナリ

然レモ結社契約書中ニ社員ハ連帶義務ヲ負擔セサルヲ特約シ之ヲ
 正當ニ公告スルヲ得ルノ可否ハ人ノ疑ヲ懷ク所ナリ言ヲ換ヘテ之ヲ
 謂ヘハ連帶責任ナルモノハ合名會社ニ必要欠クヘカラサルノ要件ナ
 ル乎將タ單ニ其性質ニ在ルカヲ知ラント欲スルニ在ルナリ
 連帶責任ナルモノハ會社ニ必要欠クヘカラサル要件タルノ說ヲ庇蔭
 スル論者ノ說ニ曰ク抑モ合名會社ナル名ヲ下シタル所以ノモノハ連
 帶責任ナルモノアリテ各社員ヲシテ殆ント一身同体ナラシムルカ故

ナリ社名ナルモノハ連帶ヲ想像セシムルナリ蓋シ會社ト第三者トノ契約ハ獨リ法律ノ支配スルヲ以テ社員ハ法律ノ允許セサル特約ヲ設クルヲ能ハサルナリ且ツ社員ハ商法第四十五條及ヒ社名ヨリ起ル所ノ第三者トノ關係ニ於テハ會社ノ制規ヲ加除増減スルヲ能ハサルナリ抑連帶責任ハ其制規ノ欠ク可ラサル要素ノ一ナリ社員ノ妨害スルヲ能ハサル公ケノ秩序上ノ元則ナリ何トナレハ連帶責任ナルモノハ第三者ヲ利スルモノナレハナリ

又之ニ附言スレハ商法ハ既ニ合名會社無名會社差金會社ノ三種ヲ認メ各之レカ特別ナル保証ヲ設ケタリ連帶責任ナルモノハ乃チ合名會社ニ密着スル保証ニシテ第三者ハ其契約ヲ結ハント欲スル會社ノ名ニ據リ直チニ己レノ享有スヘキ保証ノ何物タルヲ知り得ヘキナリ然ルニ合名會社ノ社員ヲ連帶責任ノ契約ヲ免カル、ヲ得セシムルハ是レ恰モ虛名ヲ構ヘ以テ第三者ヲ欺クモノナリト

以上陳述セル辨論アリト雖モ余輩ハ此意見ヲ至當至適ナルモノト思考セサルナリ法律ハ爰ニ契約ハ自由ナル原則ニ制限ヲ設ケタルノ証跡毫モアラサルナリ元來社員ヲ連帶責任ヲ免カレシムルノ契約ハ一己ノ利益ニ關係ヲ有スルニ過キスシテ毫モ社會ノ德義及ヒ秩序ニ背反スルヲアラサルナリ且ツ其契約ハ彼ノ普通法ノ原則タル契約ハ一身ニ止マリ敢テ連帶セサルノ旨趣ニ復歸スルモノナリ是ニ由テ之ヲ觀ハ其契約ハ適法ノ契約ニシテ遵守セサルヘカラサルヤ必然ナリ然レモ余輩カ曩ニ論述セシ如ク宜ク其契約ヲ公ケニシ以テ第三者ヲノ誤謬ニ陷ラサラシメンヲ要スヘキナリ

此問題タルヤ學術上ノ理論ニシテ實際上ニ於テ顯出スルヲ殆ント罕ナルヘシ

本論ノ當否如何ナラント雖モ合名會社ノ社員間ニ連帶責任ヲ設ケタルモノハ該會社ト結約セル第三者ニ充分ナル保証ヲ與ヘ以テ其會社

ノ信用ヲ博センカ爲メナリ然レモ以上陳述スルカ如ク社員ニ連帶ノ責任ヲ負ハシメント欲セハ二個ノ要件ヲ具備スルヲ以テ必要ト爲スナリ即チ其契約ハ第一契約ヲ結フヲ得ヘキ權利ヲ有スル者第二社名又ハ會社ノ名ヲ以テ結約スルヲ要ス

余輩ハ以下社員ヲノ連帶責任ヲ負ハシムルノ權利ヲ有スヘキ者ハ何人ナルカチ陳述セントス

慣習ニ依レハ社員ハ全社員ノ利害ヲ計リ其會社支配ノ任ヲ其中ノ一名若クハ數名ニ委托スルモノナリ其支配ノ權ヲ屬托セラレタル者ヲ稱シテ支配人ト云フ

會社ノ支配權ハ結社契約ノ條款ヲ以テ或ハ結社後ニ至リ特約ヲ以テ之ヲ委任スルヲ得ヘシ

第一ノ場合ニ於テハ支配人ノ撰任ハ結社契約ノ一要件タルヲ以テ會社ノ繼續セル間ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其職ヲ解除スルヲ得

ス第二ノ場合ニ於テハ支配人ノ權利ハ代理契約ニ過キササルヲ以テ常ニ之ヲ改撰スルヲ得ヘキナリ

會社ノ支配ニ關シ特約アラサルキハ社員ハ互ニ之カ支配ノ權利ヲ與ヘタルモノト看做ス可キナリ(民法第九條千八百一十項)

若シ社員中ノ一名若クハ數名支配人ノ任ヲ受ケタルキハ其支配人ハ他ノ社員ヲノ義務ヲ負ハシムルノ權利ヲ有ス然レモ其支配ニ關シ特約アラサルキハ各社員カ社名ヲ以テ締結セシ契約ハ他ノ社員ヲノ連帶ノ責ヲ負ハシムルヲ得ヘキナリ(民法第八百六十二條)此場合ニ於テハ社員ハ同一ノ權利ヲ以テ會社ノ利益ヲ計ルヲ欲シタルモノト看做ス可キナリ

原則ニ依レハ會社カ義務ヲ負擔スルニハ其支配人ハ必ラス社名ヲ以テ契約ヲ結ハサルヘカラス然レモ其契約書ニ自己一身並ニ他ノ社員ノ利益ヲ計リ契約ヲ結ヒタル旨ヲ明記シタルキハ其契約ハ他ノ社員

ナノ義務ヲ負ハシムルモノナリ實ニ社名ヲ以テ署名スルハ便宜ノ方
 法ニ過キスシテ佛國ノ法律ニ於テハ必要ノ定式アラサルナリ且ツ支
 配人並ニ他ノ社員ノ利益ヲ計リ云々ト記スルキハ之ヲ社名ニ比スレ
 ハ其語意一層明瞭ナレハナリ
 若シ支配人社名ヲ濫用シ自己ノ利益ヲ計ルカ爲メ之ヲ使用シタル時
 ト雖モ既ニ其契約ハ社名ヲ以テ之ヲ爲シタルカ故ニ正當ニ契約シタ
 ルノ義務ナリ故ニ會社ハ假令其契約ニ據リ收利スルコトアラスト雖モ
 亦タ以テ其義務ヲ負担セサルヘカラス且ツ大審院ノ判決例ニ據レハ
 社名ヲ司トル社員ハ他ノ社員ニ賠償ヲナスヘキハ格別自己ノ負債償
 還ノ爲メ隨意ニ之ヲ用ユルヲ得ルモノト決定セリ其意ニ曰ク公平無
 私ノ人ヲ得ルハ乃チ社員ニ在リト商法第二十二條ハ其規則嚴確ニシ
 テ其例外ヲ許サ、ルナリ

然レモ或論者ノ說ニ據レハ契約ノ性質ニ據リ其目的特ニ支配人自己
 ノ事業ノ爲メニシテ決メ會社ノ業務ニ關セサルキハ會社ハ敢テ其義
 務ヲ担当スルニ及ハサルナリト是レ即チ「ボチエー」氏ノ主張セル論旨
 ナリ

若シ支配人自己ノ名ヲ以テ契約シ之カ爲メ會社モ亦タ利益ヲ得タル
 キハ其會社ノ得タル利益ノ高ニ至ル迄ハ會社ハ他ノ契約者ヨリ直接
 ノ訴權ヲ以テ追及セラルヘジトハ數多ノ論者ノ主張スル所ナリ(民法
 第四百六
 十八條)

余輩之ニ答テ言ハシ論者ノ說ノ如ク支配人社名ヲ以テセス自己ノ名
 ナリテ義務ヲ負フタルキハ權利者ハ會社ニ向ヒ直接ノ訴權ヲ行ヒ以
 テ會社ノ得タル利益ヲ要求スルノ權利ヲ有スルニアラスシテ間接ノ
 訴權ヲ有スルモノナリ即チ言ヲ換テ之ヲ言ヘハ權利者ハ己レト契約
 シ義務者ト爲リタル支配人ノ權利ヲ他ノ社員ニ向ヒ行フニ過キサル
 ナリ(民法第六
 十條)商法第三十二條ニ記スル所ハ甚タ明瞭ニシテ會社ヲ

シテ義務ヲ負ハシムルカ爲メニハ其契約ハ必ラス社名ヲ以テセサル
 ヘカラス且法律上ニ於テハ權利者タルモノハ己レト結約シタル義務
 者ニ對スルニアラサレハ直接ノ訴權ヲ有セサルモノナリ民法第千八
 百六十四條ノ記載ニ依レハ其契約カ會社ノ利益ニ歸シタルキハ直接
 ノ訴權ヲ與フ可キナリ然レモ是レ會社ノ利益ノ爲メ會社ノ名ヲ以テ
 契約ヲ締結シタル場合ヲ想像シタルモノナリ

此問題タルヤ適切緊要ナル論題ニシテ若シ債主直接ノ訴權ヲ有スル
 キハ會社ノ權利者ト爲ルヲ得レモ之ニ反シ若シ間接ノ訴權ニアラサ
 レハ該債主ニ許與セサルキ即チ自己ト結約シタル社員ノ名ヲ以テ其
 權利ヲ行フニ過キサレキハ(民法第千百六十六條)其訴權ヨリ生スヘキ利益ハ自
 己及ヒ其權利ヲ行フタル義務者ノ他ノ債主トノ間ニ平等ニ配分セサ
 ルヘカラサルナリ

終ニ會社ノ花押ハ之ヲ第三者即チ社員ニアラサル者ニ依托スルヲ得

ヘシ然レモ其委托ヲ受ケタル者ハ社名ノ首頭ニ代理人ノ文字ヲ記載
 セサルヘカラス若シ其記載ヲ爲サ、ルキハ其義務ハ自己一身ニ負擔
 セサルヘカラス然レモ裁判官タル者ハ宜ク時ノ狀況ヲ計リ及ヒ其善
 意ヲ斟酌スヘキハ勿論ナリ

支配人及ヒ會社業務ノ管理上ニ付特約アラサルキハ社員一同ハ會社
 創立ノ目的タル商業ニ必要ナル契約ハ會社ノ名ヲ以テ之ヲ爲スヲ
 得ヘシ故ニ或ハ商品ヲ賣買シ或ハ支拂ヲ爲シ又ハ之ヲ受領シ或ハ爲
 換手形ヲ振出シ之カ裏書ヲナシ或ハ其支拂ヲ承諾スル等會社万般ノ
 事務ヲ施行ズルヲ得ヘシ

會社所有ノ不動産ニ至テハ假令會社ノ爲メ莫大ノ利潤ヲ與フルコト
 ルヲ信スルモ社員ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ概シテ其不
 動産ノ摸樣ヲ變更スルノ權利ヲ有セサルモノナリ
 會社ノ支配人ハ和解ヲ爲スヲ得ルヤ如何ノ問題ハ論者説チ異ニセリ

第一説ニ曰ク支配人ノ權利ハ他ノ社員ノ承諾ヲ經スシテ會社ノ訴訟ニ關シ和解スルヲ得ルカ如キ重且大ナルモノニアラス其所爲タルヤ
既ニ一般代理人ノ權限ヲ超過シタルモノナリト

第二説ニ曰ク抑モ支配人ハ會社ニ屬スル動産ハ之ヲ隨意ニ處分スルノ權利ヲ有スルモノナレハ隨テ其營業ニ關スル事項ニ至テモ亦タ正當ニ和解スルヲ得ヘシ(民法第二百四十五條)元來支配人ノ權利ハ普通代理人ノ如キ狹隘ナル範圍内ニ檢束セラル、モノニアラサルナリ現ニ支配人ハ日々會社ニ於テ物品ノ讓渡ニ從事スルヲ得ルモノナリ故ニ余輩ハ支配人カ處分スルヲ得サル不動産ノ所有權ニ關スル和解ニ非サレハ總社員ノ承諾ヲ必要トセスト信スルナリ

追加 合名會社ハ其業務ヲ行フ本居ニシテ其主タル建設物ノアル場所ヲ以テ本住所トス(民法第二百三條)故ニ會社ニ對シ訴訟ヲ爲スキハ一般其地ノ裁判所ニ呼出タスヘキナリ

會社ニ關スル訴訟ハ裁判上社名ヲ以テ之ヲ起訴セサルヘカラス會社ニ送達スル召喚狀ハ會社ノ本店又會社ノ本店アラサルキハ社員中ノ一名若クハ其住居ニ之ヲ送達セサル可ラス(民法第六十九條第六項)社名ヲ記シ會社ヲ指示スル謄本一通ヲ以テ足レリト爲シ敢テ之ニ社員一同ノ姓名ヲ記載スルヲ要セサルナリ

○第三章 差金會社

差金會社ナルモノハ其淵源遠ク中古ニ於テ慣用セシ契約ヨリ來ルモノナリ即チ「コンマンド」ノ契約是レナリ「コンマンド」ノ契約トハ商人又ハ航海者ニ資金若クハ商品ヲ委托シ以テ市場ノ設ケアル都府或ハ船舶ノ停泊スル港灣ニ於テ之カ賣買ヲ爲サシムルモノヲ云フナリ而シテ商人又ハ航海者ハ其利益ノ分配ヲ受ケ資金若クハ商品ノ貸主ハ其差入物ノ外敢テ義務ヲ負フニ及ハサルナリ

一千八百七十三年ノ法令ハ此會社ニ特別ナル規則ヲ制定シ之ヲ稱シ

テ差金會社ト言ヘリ

差金會社トハ無限ニシテ且ツ連帶ノ責任アル社員一名若クハ數名ト
差入物ヲ以テ責任ノ制限ト爲ス資本貸主一名若クハ數名トヲ以テ組
織スル會社ヲ云フ

故ニ此會社ニ於テハ第一、一方ニ在テハ少クモ社員中ノ一名無限ノ責
任ヲ負ヒ他ノ一方ニ在テハ社員ノ一名若クハ數名ノ受クル損害ハ其
差入物ヲ制限トナス第二、其社員ノ一名若クハ數名ハ會社ノ支配ヲ爲
シ他ノ社員ハ更ニ會社ノ支配ニ干涉セサルモノナリ

今其一例ヲ舉クレハ甲者一人ニテ商業ヲ營ミ又ハ甲乙二人互ニ協力
シテ商業ヲ營ムニ當リ丙者其會社ニ一万フランノ金圓ヲ拂込ミ又ハ
丙丁二人各一万フランヲ拂込ムト雖モ敢テ會社支配ノ權ニ關與セズ
且ツ其差入物ノ高ニ達スル迄ニアラサレハ決シテ其責ニ任セサルヲ
チ約セリ然ルモ甲者若クハ甲乙ノ二人ハ會社ノ支配人ナルヲ以テ

會社ノ債主ニ對シ無限ノ責任ヲ負フト雖モ丙丁ノ二人ハ更ニ會社ノ
支配ニ關與セサルノ約アルヲ以テ其損失ニ至テハ其差入物ヲ失フノ
危険アルニ過サルナリ

差金會社ノ業務ヲ管理スル者ヲ稱シテ「コンマンダテ」若クハ「コンプ
リマンテール」即チ無限責任ノ社員ト云ヒ又單ニ資本ヲ貸附ケ全ク會
社ノ支配ニ與ラサルモノヲ稱シテ「コンマンダテール」即チ金主ト云フ
余輩カ陳述スルヲアルヘキカ如ク金主カ會社支配ノ權ニ介入スルハ
法律ノ禁制スル所ナルヲ以テ合名會社ノ如ク社員ハ信用ヲ以テ差入
物ト爲スト能ハサルヘシ而シテ其差入物ハ大概金額ナリト雖モ時宜
ニ據リ又商品若クハ不動産等ヲ以テ差入物ト爲スト得ヘシ

差金會社ニ二種ノ別アリ即チ二人ニテ該會社ヲ組織スルヲアリ而シ
テ其一名ハ支配人ニシテ無限ノ責任ヲ負ヒ他ノ一名ハ金主ナリ是レ
純然タル差金會社ナリ又一名若クハ數名ノ無限責任ノ社員ト一名若

クハ數名ノ金主トキ以テ組織スルコアリ然ルキハ二種ノ會社ノ混合物ニシテ一ハ合名會社ニシテ一ハ差金會社ナリ(商法第二十四條第二)又通常差金會社ト株式差金會社トヲ區別セサルヘカラス通常差金會社トハ無限責任ナル社員一名若クハ數名ト金主一名若クハ數名ト締結シ其資本ヲ株式ニ分割セサル會社ヲ云フ株式差金會社ハ其資本ヲ株式ニ分テ創立スルモノナリ余輩ハ株式會社全体ニ關スル原則ヲ列叙シタル後株式差金會社ノ性質ヲ論述セントス凡ソ差金會社ナルモノハ支配人タル社員一名ニ過キサルモノナリト雖モ法律上無形人ヲ組織シ社員ノ權利ト全ク異リタル權利ヲ有スルモノナリ故ニ甲者商業ヲ營ムニ當リ乙者差入金ノ名義ヲ以テ之ニ一萬フランヲ拂込タルキハ甲者ハ獨リ社員ナルヲ以テ爾來私利ヲ計ラズシテ會社ノ利益ヲ計リ營業セサルヘカラス

差金會社モ亦合名會社ノ如ク社名ヲ以テ商業ヲ營ムモノナリ(商法第二十三條第二)其社名ニハ連帶シテ無限ノ責任ヲ負フル社員ノ姓名ニアラサレハ之ヲ記スルコト能ハサルモノナリ若シ己レノ差入金高ニアラサレハ其責ニ任セサル社員ノ名ヲ記スルキハ是レ其社員ノ資産ニ依頼シタル第三者ヲ陷ル、モノナリ(商法第二十五條第二)

若シ金主ノ姓名ヲ社名中ニ記載シタルキハ之ヲ連帶責任ノ社員ト看做シ第三者ハ其金主ヲノ社員タル一切ノ結果ヲ蒙ラシムルヲ得ヘシ是レ蓋シ法律ニ違背シ爲メニ第三者ニ蒙ラシメタル損害ノ至當ノ賠償ト云フヘキナリ

法律ハ其條例中往々金主ニ社員ノ名ヲ附スルヲ以テ金主モ亦タ社員ナリ(商法第二十五條第二)是レ純然タル資金ノ貸主ニ非ルナリ金主ハ眞ノ社員タルニ依リテ左ノ結果ヲ生ス

第一 社員ト金主トノ間ニ起リタル爭論ハ之ヲ商事裁判所ニ於テ

判決セサルヘカラス

第二 差入物ノ取戻ヲ契約シタル金主ハ會社ノ債主ニ對シ之ヲ要求スルヲ得ス蓋シ其差入物ハ會社資本金ノ一部ニシテ債主ノ抵當物タレハナリ

會社ノ支配ニ與ラサル社員ハ其受クル所ノ損害ニ制限アリテ會社ニ差入レ若クハ差入ルヘキ金高ニアラサレハ損害ヲ負担セサルナリ(商法第六條)若シ未タ其差入金ノ一部若クハ全部ヲ會社ニ拂込マサルトキハ其拂込ヲ要求セラルヘキナリ然レモ會社ノ支配人其契約ヲ實行スルキハ社員カ差入金ヲ拂込ミ以テ其義務ヲ完フシタルヤ否ヲ知ルノ點ニ至テハ概シテ權利者ノ配慮スヘキ所ニアラサルナリ或論者ニ至テハ尙ホ一步ヲ進メ會社カ身代限ト爲リ若クハ精算ニ至ラサル間ハ債主ハ社員ニ向ヒ差入ヲ要求スル能ハサルモノト思考セリ之ニ反シ若シ會社カ其支拂ヲ停止シ又ハ身代限ト爲リタルキハ會社ノ債主ハ

社員カ未タ會社ニ拂込マサル金額ヲ要求スルヲ得ルハ敢テ疑ヲ容レサルナリ

然レモ債主ハ金主ニ強迫シ其差入金ヲ支拂ハシムルカ爲メ直接ノ訴權ヲ以テ之ヲ出訴スルヲ得ルカ將タ間接ノ訴權即チ己レノ義務者タル會社ノ權利ヲ行フニアラサレハ之ヲ拂込マシムルヲ能ハサルカナ知ルハ適切ナルヲナリ(民法第六百六十六條)

此問題ノ至重ナル利益ハ未タ仲裁裁判ノ廢止セサル前ニ於テハ權利者ハ此裁判所ニ出訴スルヲ得ルヤ否ヲ知ルニアリキ然レモ此問題タル尙ホ他ニ利益ナキニアラス即チ若シ直接ノ訴權ナルキハ金主ハ其債主ニ對シ支配人ノ權利ニ起因スル抗辨方法ヲ申立ルヲ得ス金主ハ其未タ會社ニ拂込マサル差入金高ト相殺スル爲メ自己ヨリ支配人若クハ會社ニ貸與シタル金額ヲ債主ニ提供スルヲ能ハサルナリ

若シ間接ノ訴權タルトハ金主ニ對シ出訴シタル債主ハ支配人ト同一ノ抗辨方法ヲ受ケサルヘカラサルナリ

第一論者ノ説ニ曰ク會社ノ債主ハ社員ヲシテ差入金ヲ拂込マシムルカ爲メニハ間接ノ權利ヲ行フヲ得ルニ過キス抑モ金主ナルモノハ全ク社外人ト脈絡ヲ杜絶セルモノニシテ金主ハ支配人即連帶シテ無限ノ責任ヲ負擔スル社員ニ對スルニアラサレハ義務ヲ負擔セスシテ其社員ハ獨リ會社ノ債主ノ義務者タルモノナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ會社ノ權利者ハ己レト結約セル會社支配人ノ權利ヲ行フニアラサレハ金主ヲ訴フルヲ能ハサルナリ乃チ商法第四十三條ニ於テ金主ノ姓名ヲ社會ニ公告スルノ義務ヲ免スルハ蓋シ金主ハ社外人ト全ク關係ヲ有セサルヲ以テナリ故ニ社外人ニ對シテハ金主ハ會社ノ資本貸附人ニ過キスシテ會社ノ他ノ義務者ト敢テ異ナラサルモノナリ

第二論者ノ説ニ曰ク金主モ亦タ社員ナリ然ハ則チ其社員タルノ性質

ヨリ基因セル直接ノ義務アルヲ以テ其差入金高ニ達スル迄ハ會社ノ負債ヲ擔當セサルヘカラス又支配人タル者ハ金主ノ代理者ナルカ故ニ其代理者ノ所爲ニ付直接ノ義務ヲ免カル、ヲ得ス故ニ其社員タル性質ヨリ論究スルモ亦代理委任者タルノ性質ヨリ論下スルモ金主ハ會社ノ債主カ起ス所ノ直接ノ訴權ヲ受ケサルヘカラス實ニ金主ノ姓名ハ差金會社ノ公告ニ指示セスト雖モ其差入レ又ハ差入ルヘキ有價物ノ金額ヲ知ラシムルモノハ(商法第三條)蓋シ必要ナルトキニ當リ社外人カ其有價物ヲ差押ユルヲ得ルカ爲メナルヤ敢テ疑ヲ容レサルナリ余輩ハ第二論者ノ説ニ左袒セン

又假令金主ハ商業會社ノ社員ナリト雖モ商人ニアラサルハ大概論者ノ説ヲ同フスル所ナリ

然レモ若シ非商人會社ニ資金ヲ拂込ムトキ契約シ又ハ商業會社ノ株式ヲ申込ミタルトキハ之カ爲メ商事裁判所ノ審判ヲ受ク可キ商業ヲ爲

シタルモノト云フ可キヤ否ノ問題ニ至テハ議論紛々トシテ歸着スル所ヲ知ラサルナリ

第一説ニ曰ク金主カ商業ニ供セシムル爲メ資本金ヲ拂込ムヲ契約スルヤ敢テ商業上ノ義務ヲ負擔スルモノニアラス而シテ其實ハ資金ノ貸主ニシテ恰モ特種ノ貸借ニ過キサルナリ

商業會社ニ資金ヲ拂込ムノ義務ヲ負ヒ又ハ其株式ヲ申込ムモ其所爲ハ商法第六百三十二條及ヒ第六百三十三條ニ規定セル場合ニ包含セサルヲ見ルヘシ故ニ之ヲ商業ト看做スヲ得サルナリ

其他法律ニ差金會社ナルモノヲ設ケタル所以ノ主要ハ充分ナル資金ヲ有スル者アルモ其地位若クハ其職務ノ爲メ商業ニ從事スルヲ欲セス又ハ從事スル能ハサルカ或ハ商業上ヨリ基因スル所ノ不時ノ災害ニ罹ラントチ恐ル、者ヲシテ其資金ヲ以テ商業ニ關與スルノ便ヲ與フルニアルヲ見ルヘキナリ故ニ資金ヲ拂込ミ又ハ株式ヲ申込ムノ

契約ハ其本眞ノ性質ヲ奪ハサルヲ社會ノ公益タルヤ勿論ナリ

第二説余輩ノ意ニ從ヘハ金主ヲ以テ一種ノ異ナリタル資本ノ貸主ト看做スハ正當ニアラサルナリ且ツ金主ヲ以テ社員ト爲スハ法律ノ既ニ明記スル所ニアラスヤ(商法第二十三條第二十條)其資本ノ貸主タルヤ余輩看肯スヘシト雖既ニ社員タルニ妨ケナシ又仮令法文ニ明記スル所アラスト雖モ通常資本ノ貸主ト會社ノ金主トノ間ニ於テハ極メテ巨大ノ差アルニアラスヤ即チ資本ノ貸借ニハ其息銀ニ付法律ノ制限アルモ差金會社ノ金主ハ其制限ニ超過スル利益ヲ受クルヲ得ヘキナリ又貸借ニ於テハ貸主ハ息銀ヲ生スヘキ債主權ヲ得ルト雖モ差金會社ニ在テハ其金主ハ惟ニ會社ノ収益上ニ權利ヲ有スルノミナラス會社解散ノ際其資金ノ共有者ト爲ルヲ得ヘキモノナリ又貸借ニ於テハ貸主ハ其資金ノ返還ヲ受クルノ權利ヲ有スルモ差金會社ノ金主ハ會社ノ負債ヲ支拂フカ爲メ其資金ヲ失フニ至ルヘシ金主ハ會社ノ他ノ

債主ト平等ニ分配ヲ受クルヲ能ハスシテ之ニ先チ他ノ債主ノ負債ヲ償還セサルヘカラス又資本ノ貸主ハ一度其資本ヲ拂込ミタルキハ其息銀ヲ受領シ且其資本返還ノ期限ヲ待ツノ外他事アラサルナリ然レモ差金會社ノ金主ハ損益決算ノ爲メ年々ノ計算或ハ株主集會ノ時之ニ參列スルヲ得ルモノナリ

以上陳述スルカ如ク差金會社ノ金主ハ會社收益ノ配當ヲ受ケ會社精算ノ成績ニ付テ權利ヲ有シ差入資金ヲ失フノ災害ニ罹リ或範圍内ニ於テ自身又ハ其代理者ヲ以テ會社監督ノ權ヲ行フヲ得ルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ其契約ヲ目シテ多少ノ要件ヲ具備セル資金ノ貸借ト爲シ又其金主ヲ目シテ眞ノ社員ニアラストスルヲ能ハサルナリ然レモ若シ其金主社員ノ性質ヲ有スルキハ如何シテ其契約ハ商業ノ性質ヲ有セサルモノト爲ス乎論者曰ク商法第六百三十二條及ヒ第六百三十三條ハ制限法ニシテ該條ニハ會テ其事項ヲ列記セサレハナリト夫レ

然リ而シテ商法第六百三十二條及ヒ第六百三十三條ハ之ヲ敷衍スルヲ能ハサルハ論者ノ言ノ如シト雖モ然レモ本論ノ事實タルヤ該條ノ規則ニ含蓄セサルモノナリ若シ會社ノ目的果シテ該條ニ列記セル事業ノ一ニ在ルキハ其會社ハ即チ商業會社タルモノナリ夫レ金主ノ差入物ハ彼ノ大審院ニ於テ明言セシ如ク會社ノ成立ニ關係セルノミナラス會社ヲシテ無形人タラシムルニ必要ノ一原素タルヲ以テ其性質ヲ受ケ金主ノ契約ハ商業上ノ原因ヲ帶フルノ結果ヲ生スルニ至ラサルヘカラス故ニ反對論者ハ往々金主ノ全ク會社ノ業務ニ關與セス否ニ關與スヘカラサルヲ以テ決シテ商事ニアラスト主張スト雖モ敢テ其効ナカルヘシ何トナレハ余輩カ上文ニ証明セシ如ク會社ニ資本金ヲ拂込ムノ義務ハ商業ノ性質ヲ有スレハナリ

且夫合名會社ニ於テモ其社員中ノ數名全ク會社ノ業務ニ關與セサルヲ契約スルヲ得ルニアラスヤ而シテ此特約ニ基キ其社員ノ義務ハ

乃チ商業上ニアラサルモノト斷言スルヲ得ヘキ乎果シテ然ラハ則チ
 差金會社ノ金主ノ位地ハ其責任輕小ナリト雖モ敢テ前述ノ場合ト異
 ナラサルニアラスヤ

終ニ反對論者ハ差金會社ヲ法律ニ設ケタルモノハ商業ヲ營ムコト能ハ
 サル者又ハ之ヲ欲セサル資本家ヲシテ其資本ヲ商工業ニ供用スルノ
 便ヲ得セシムルカ爲メタルノ旨趣ヲ引証シ以テ余輩ノ說ヲ駁論セリ
 然レモ舊立法者ノ目的ハ吾人カ所持セル資金ヲ商業會社ニ拂込ミ其
 受クル所ノ損害ヲ制限シ其會社ニ關與セサルノ便ヲ與フルニアリ故
 ニ「サバリー」氏ノ説明スル如ク千六百七十三年ノ敕令ヲ以テ非商人間
 ニ於テ組織シタル差金會社ハ商法裁判所ニ記録ス可ラサリシモ此理
 由ヲ以テナリ又タ現今ノ法律ニ於テ金主ノ責任ヲ制限シ社則ノ拔萃
 書内ニ其姓名ヲ公布セサラシムルモ亦タ非商人ノ資本ヲ商業ニ供ス
 ルニ便ナラシムルカ爲メナリ然レモ其言フヘキ理由ハ斯ノ如クニシ
 テ豈ニ論者ノ言ノ如クナランヤ

是ニ由テ之ヲ觀レハ差金商業會社ニ資金ヲ拂込ムヲ約シ或ハ其株式
 ニ申込ミタル非商人ハ其權利并ニ義務ニ制限アリト雖モ之カ爲メ其
 會社ノ社員ト爲リ而シテ其義務ニ至リテハ商事裁判所ノ審判ヲ受ク可
 キナリ

然リ而シテ會社ノ無資力トナルモ其權利者ハ金主カ配當利金ノ名義
 ナリテ受領シタル資金ノ返還ヲ之ニ對シテ訴求スルヲ得ルヤ如何チ
 研究スルハ極メテ必要ナリ例之ハ斯ニ某會社アリ六年間繼續シ毎年
 利益ヲ分配シ第七年目ニ至リ身代限ト爲レリ然ルモ金主ハ前六ケ
 年間ニ受領シタル配當金ヲ返還セサルヲ得サルヤ如何ノ問題是レナ
 リ

第一說ニ曰ク金主ハ己レノ受領シタル純益金即チ配當金ヲ返還セサ
 ルヘカラス蓋シ會社ノ損益如何ハ確定決算ノ後ニ非サレハ之ヲ覺知

スル能ハサル者ニシテ未ダ其決算ヲ爲サ、ルキハ乃チ假リ決算ヲ爲シタルニ過キス若シ社員其利益ヲ保持スルキハ其差入金高ニ至ル迄義務ヲ負擔スヘキノ規則タル差金會社ノ原則ニ違背シテ差入金ノ一部ヲ保有スルモノナリ且ツ債主ニ支拂ヲ爲シ能ハサル會社ノ利益ヲ社員ニ壟斷セシムルハ正理公道ニ戾ルモノト云フヘシ

第二說余輩ノ持論ニ依レハ社員ハ配當金返還ノ義務アラサルナリ抑モ商法第二十六條編纂ノ時ニ當リ之ニ返還ノ義務ヲ明記セントスルノ議論アリシモ遂ニ之ヲ棄却シタリ故ニ該條ハ金主ノ責任ヲ制限シ會社ニ差入レタル金高若クハ差入ルヘキ資金ニ止ルモノト爲セリ是ニ由テ之ヲ觀レハ會社ノ資本ハ之ヲ完具シテ債主ニ屬スヘシト雖モ債主ハ金主カ日々使用シ又ハ其生計活路ノ爲メ費消シタル毎年ノ配當金ヲ返還セシメ以テ其資産ヲ傾覆スヘカラサルナリ且ツ反對論者ノ說ノ如クセハ遂ニ資本案ヲシテ擧テ差金會社ヲ忌避セシムルニ至

ルヲ見ルヘキナリ且ツ其配當金タル果ソ會社ノ實益ナルキハ其配當後ニ於テ始メテ債主ト爲リタル者ハ敢テ其配當金ニ付抵當權ヲ有セサルヲ以テ其返還ヲ要求スルモ敢テ之ヲ受理スヘカラサルモノナリ又配當前ニ債主ト爲リタルモノト雖モ其返還ヲ要求スルヲ能ハサルヲ訴フヘカラス何トナレハ其利益配當ノ時ニ當テハ會社ニハ適當ノ資力アリ權利者ノ抵當物ニ餘贏アリテ配當金ハ其使用法ニ從ヒ分配シタレハナリ

金主ハ全ク會社ノ管理ニ關係スヘカラス若シ否テサルキハ社外人ハ爲メニ錯誤ニ陷ル、ニ至ルヘシ蓋シ社外人ハ金主カ會社ノ業務ヲ支配スルヲ目撃シ以テ他ノ無限責任社員ト混淆シ遂ニ其資産ニ依頼スルニ至ルヘシ而シテ實際金主カ債主ニ提供スル所ノ抵當ハ自ラ制限アルナリ何トナレハ金主ハ差入金高ノ外敢テ義務ヲ負擔セサレハナ

リ(商法第三十七條一千八百六十三年五月六日ノ法律)

法律上ハ金主自己ノ名義ヲ以テ會社ノ業務ヲ管理ス可ラサルヲ明記スルノミナラス尙ホ代理者ト爲リ支配人ノ名義ヲ以テスルモ會社ヲ支配ス可ラサルヲ欲セリ(商法第二十七條一千八百六十年五月六日ノ法律)或ハ之ヲ駁シテ言ハシテ代理者ノ名義ヲ以テスルモ會社ヲ支配ス可ラサルノ禁令ハ敢テ適理ノモノト云フヘカラス何トナレハ若シ金主カ支配人ノ代理委任ニ依リ支配ヲ爲スルハ社外人ハ代理者ヲ信スルニアラステ信ヲ委任者ニ置クハ自然ノ理ナレハナリト余輩之ニ答ヘテ言ハシテ若シ金主代理委任ニ依リ支配スルヲ得ルモノトセハ金主ハ無資無産ノ者ヲ以テ支配人ト爲シ之ヲ社會ニ公示シ之ニ無限ノ責任ヲ負ハシメ而シテ自ラ其代理ノ名義ヲ以テ投機ノ諸業ヲ爲ス可ラサル所ナク而シテ其責任輕キカ故ニ益輕卒ノ投機ニ流ル、ニ至ルハ免カルヘカラサルノ數ナリ而シテ若シ危禍ニ陥リタルハ其眞ノ播造者ハ乃チ金主ナリト雖モ其差入金高ヲ債主ニ抛擲スルニ止マリ債

主ハ無資無産ノ支配人ヲ出訴スルノ外アラサルナリ

然レモ以上陳述スル所ノ禁令ハ金主ハ支配人ノ如ク差金會社ノ代理者ト爲リ締結スル所ノ契約ノミニ適用シ會社カ金主ト締結スル所ノ取引又ハ金主カ會社ト締結スル所ノ契約ニ迄之ヲ適用セサルナリ是レ即チ一千八百六十六年五月十七日參事院判決ノ趣旨ナリ是ニ因テ之ヲ觀レハ金主ハ會社ト賣買ヲ爲スヲ得ルモノナリ

商法第二十七條ハ會社ノ業務ノ爲メ金主ヲ使役スルヲ禁制シタリ然レモ商業上ノ慣習ハ現行法ニ背反セル狀況ヲ呈出シ裁判例及ヒ學說モ其習慣ト符合セリ故ニ確定ノ俸給ヲ金主ニ給與シ以テ會社創立ノ目的タル製造事業ニ從事セシムルヲ得ルカ如キハ普通ノ定說ニシテ金主ヲシテ社外人ト關係ヲ有セサラシムルニ過サリキ又金主ハ會社ノ帳簿役トナリ或ハ勞役者ト爲ルヲ得シナリ然ルニ一千八百六十六年五月六日ノ法律ハ會社ノ業務ノ爲メ金主ヲ使役スヘカラス云

々ノ語ヲ刪除シ以テ尙ホ存在セシ疑團ヲ忽チ氷解セシムルニ至レリ」
 又該法律ハ金主ハ意見評議ヲ發シ監查監督ヲ行フモ決シテ義務ヲ負
 ハサル旨ヲ掲ケ以テ以前ノ判決例ヲ採用シタリ故ニ爾來金主タルモ
 ノハ無異安全ニ支配人ノ議決處分ヲ辨論シ或ハ會社計算ノ會場ニ臨
 席シ或ハ會社ノ業務若クハ其契約ヲ准許スルヲ目的トスル評議會ニ
 立入り或ハ會社資本ノ使用法ヲ監督シ會社ノ帳簿金匱手形會社ノ証
 券等ヲ檢査スルヲ得ルト雖モ然レモ金主ハ之カ爲メ敢テ責任ヲ負ヒ
 金主タルノ資格ヲ失フノ恐アラサルナリ

商法第二十八條ニ據レハ會社ノ事務ニ干涉シタル金主ハ假令一事件
 ニ付支配ヲ爲シタルニ過スト雖モ支配人ノ如ク會社ノ負債及ヒ契約
 ノ全部ニ付キ責任ヲ負擔シ支配人ト連帶シテ其義務ヲ盡サ、ルヲ得
 サリキ即チ金主ハ其結約セル者ニ對シ義務ヲ負フノミナラス尙ホ會
 社ノ其他ノ權利者ニ對シ其義務ヲ負ヒシナリ是レ他ナシ法律規則ヲ

犯シタル金主ヲ所罰スル方法ニ過キス然ルニ一千八百六十三年五月
 六日ノ法律ハ斯ノ如キ商法ノ嚴酷ナル規則ヲ寬ニシ金主カ會社ノ事
 務ニ干涉シタル場合ニ於テハ其責任ヲ分テ二種ト爲セリ即チ一ハ決
 シテ免除スルヲ得サル責任ニシテ他ノ一ハ裁判所ノ隨意ニアルモノ
 ナリ先ツ金主カ會社ノ事務ニ干涉スルヲ禁制シタル所以ハ蓋シ社
 外人カ金主ニ信用ヲ置カンヲ恐ル、ニアルハ余輩カ上文ニ陳述シ
 タルカ如シ然レハ若シ此禁制ニ背戾シタル場合ニ於テハ立法者ハ社
 外人カ契約ノ際其目當トシタル抵當物ヲ供與ス故ニ會社ノ業務ニ干
 渉シタル金主ハ其直接ノ結果其締結シタル契約ヨリ生スル所ノ負債
 并ニ契約ニ付テハ合名會社ノ社員ノ如ク連帶シテ其責ニ任スヘシト
 宣告セサルヲ得ス此外裁判所ハ其干涉ノ多少若クハ輕重ニ隨ヒ其會
 社ノ契約ノ全部又ハ一部ニ付連帶シテ其義務ヲ負擔スヘキ旨ヲ申渡
 スヲ得ヘシ

又金主カ會社ノ業務ニ關與シタルノ所爲無數ニシテ遂ニ裁判所ニ於テ商人タルノ性質ヲ組成スルニ足ル可キ慣行アリト認定シタルハ之ヲ目シテ商人ト看做サ、ルヲ得サルナリ

本論ノ因テ以テ生スル所ノ利益ヲ左ニ開陳セントス蓋シ金主ヲ目ノ商人ト看做スヲ得サルハ假令債主ハ金主ヲ以テ連帶責任アリト爲シ且ツ之ヲ商事裁判所ニ訴フルヲ得ハシト雖モ之ヲ身代限ニ處セシムルノ權利ヲ有セサルナリ何トナレハ商人ノ外此規則ニ從フヘキ者アラサレハナリ之ニ反シ若シ金主ヲ商人ト看做スハ余輩カ右ニ陳述セルカ如ク金主ハ身代限ノ言渡ヲ受クルノミナラス其他數多ノ義務ヲ負擔セサルヲ得ス就中帳簿ヲ備フル（商法第八條）及ヒ婚姻財産ノ制ヲ公告スル義務等ノ如キ是レナリ（商法第十九條第六）

法律ハ會社ノ支配ニ干涉シタル金主ニ對シ責任ヲ設ケタリト雖モ其金主ト支配人トノ關係ハ全ク結社契約ヲ以テ定ムルカ如ク存スル者

ナリ會社ノ支配ニ干涉シタル社員ニ對シ處罰ヲ設ケタルハ獨リ社外人ノ利益ヲ謀ルニ在ルヲ以テ金主ト均ク其社員タル支配人ハ金主ニ對シテ之ヲ効用スルヲ得ス

故ニ金主ハ連帶ノ責任アリトノ言渡ヲ受クルモ其差入金高ヲ超過スルニ至テハ之ヲ支配人ニ要求スルヲ得ルモノナリ

第四章 株式差金會社ノ

佛國商法ハ一千六百七十三年ノ勅令ニ藉來リ其規則ヲ訂正増補シ以テ通常差金會社ヲ制定セリ而シテ其編纂者ハ曾テ舊法ニアラサル所ノ株式差金會社ヲ窺見シタルノミナラス尙ホ商法第三十八條及ヒ第十四條ニ其會社ノ原則ヲ掲載セリ就中第三十八條ニ曰ク差金會社ノ資本金モ亦タ之ヲ數個ノ株式ニ分ツヲ得ヘシト又之ニ附言シテ曰ク但シ此種ノ會社ノ爲メ別段定メタル規則ニ背クヲナカルヘシト是ヲ以テ假令會社ノ資本ヲ株式ニ分ツアリト雖モ敢テ社員ノ義務異

ナルヲナク支配人ハ常ニ連帶ノ責任ヲ免カレス又タ金主ハ其差入金高ノ外義務ヲ負擔セサルモノナリ
右陳述スルカ如ク商法ハ既ニ株式差金會社ヲ認メタルモ其規則ヲ制定セサリキ故ニ此種ノ會社存セリト雖モ法律上一般ノ原則ニ從フノ外他ニ遵守スヘキ規則アラサルヲ以テ殆ント無限ノ自由ヲ有セシナリ

此自由ノ制ニ依リ大ニ組合ノ精神ヲ擴張シ隨テ商工事業モ大ニ發達シタリト雖モ之レカ爲メ亦タ非常ノ横奪ヲ醸成スルニ至レリ
一千八百五十六年ニ至リ立法者ハ其弊害ヲ矯正セシムヲ思考セリ然レモ株式差金會社カ工業社會ニ裨益ヲ與ヘタルヲ甚ナカラサルヲ是認シタルヲ以テ敢テ其用法ヲ廢絶スルヲ欲セサリキ寧ロ此種ノ會社ヲ維持シテ其範圍ヲ設定シ從來契約上ニ於テ其有セシ自由ヲ制限シ且ツ惡意又ハ詐偽ヲ防クノ處分ヲ定メタルハ至當ノ處分ナリト云フヘシ是レ即チ一千八百五十六年七月十七日ノ法律ノ目的トスル所ナリ

一千八百五十六年七月十七日ノ法律規則ノ嚴酷ナルハ大ニ論者ノ駁撃ヲ蒙ル所トナレリ一千八百五十六年以來該會社ハ大ニ進歩ヲ爲シ公衆ハ漸ク其利益ヲ深察シ且ツ一千八百六十三年五月六日ノ法律ハ支配人ノ處爲ヲ監督スルカ爲メ一層ノ自由ヲ與ヘタル等ノ事實ハ社員ニ與フル保証ヲ減シ多少嚴酷ナル規則ヲ寬ニシ且ツ一千八百五十六年ノ法律規則中ニ於テ正實ナル企業ヲ妨害スヘキ數多ノ箇條ヲ刪除セシムルニ至レリ

此等ノ改正ハ一千八百六十七年七月二十四日ノ法律ヲ以テ之ヲ實行セリ故ニ一千八百五十六年ノ法律ハ之ニ余輩カ陳述セシ改正ヲ加ヘテ一千八百六十七年ノ法律ニ挿入シタリ以下余輩カ研究セントスルハ則チ一千八百六十七年ノ法律ヲ以テ規定シタル株式差金會社ナリ

然レモ余輩ハ其規則ヲ詳解シ且ツ一千八百六十七年七月二十四日ノ法律ニ掲クル所ノ原則ヲ説明スルニ先チ株式ノ有スル特殊ノ性質如何ヲ探究シ又其持分高ト異ナル點ヲ觀察スルハ極メテ必要ナリ株式ト持分トノ差異ヲ知ルハ緊要ナルヲ以テ本論ノ説明ヲ始ムルニ當リ先ツ之ヲ研究セサルヘカラス

抑モ持分及ヒ株式ノ兩語ハ各社員カ自己ノ差入物ニ換ヘ會社ニ於テ有スル所ノ權利ヲ指示スルノ點ニ付テハ同一ノ意味ヲ有スルモノニシテ即チ會社ノ存立中ニ在テハ利益ノ配當ヲ得又會社解散ノ時ハ其資本ノ割前ヲ受クルノ權利是ナリ言ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ此二語ハ共ニ社員ノ割前ヲ指示スルモノナリ

夫レ如何ナル會社ニ於テモ結社人ハ各自差入物ヲ爲サ、ルヘカラス是レ會社ニ必要欠クヘカラサルノ條件ニシテ若シ之ヲ欠クキハ會社ヲ爲スヲ能ハサルヘシ故ニ何レノ會社ニ於テモ各社員ハ其差入物ノ

對價物トシテ之カ代リニ會社解散ニ至ル迄其利益ノ配當ヲ受ケ又會社解散ノ時其資本ノ分配ヲ受クルノ權利ヲ有ス此權利ヲ稱シテ持分ト云フ

故ニ株式ト持分トハ利益ノ配當ヲ受ルノ外會社解散ノ時ニ當リ其資本原物ノ割前ヲ受クルノ權利ヲ與フルノ點ニ在テハ彼是相似タルモノナリ

夫レ然リ而シテ持分ハ時アリテ他ノ性質ヲ帶ヒ株式ニ變スルヲアリ又株式モ一種特別ノ持分ナリ（商法第三十三條一千八百九十三年五月廿

三日ノ法律）

然レモ株式ト持分トヲ分別スヘキ特殊ノ性質如何ニ至リテハ乃チ論難ノ端緒ニシテ議論紛々其歸着スル所ヲ知ラス

第一論者ノ説ニ曰ク各社員ノ株式ハ都テ確定同一ノ金額ナルモ持分ハ變更不均ノモノニシテ各社員ニ隨ヒ同一ナラス而シテ其額ハ或ハ

十分一或ハ二十分一タルカ如ク會社精算ニ至ル迄ハ未定ナルモノナリ故ニ一言以テ之ヲ了セント欲セハ株式ノ持分ト異ナルハ其金額定方ノ同一ナルニ在リ以爲ラク商法第三十四條ニ無名會社ノ元金ハ之ヲ同價ノ株式ニ分チ又其株式ヲ更ニ部株ニ分ツヲ得ヘシト記載セルハ蓋シ株式ノ價格同一ナルヲ想像スルモノナリト余輩之ニ答テ云ハン持分ノ割前ニシテ一定ノ金額ナルヲアリ亦株式ニシテ均一ノ金額ナラサルコトアリ且ツ印紙税ノ點ヨリ之ヲ視レハ一千八百五十年六月五日ノ法律第十四條ハ金額確定ノ株式ト一部ノ株式即全額ニアラスシテ分數ナル社員ノ割前トチ同列ニ置ケリ是レ即チ該法ニ於テハ彼是共ニ株式ノ性質ヲ有スルモノト認メタル所以ナリ

第二論者ノ説ニ曰ク株式トハ無名會社若クハ株式差金會社ニ於ケル社員ノ得ヘキ割前チ云フモノナリ而シテ持分ナル語ハ汎ク之ヲ用弗ルキハ何レノ會社チ問ハス社員カ得ヘキ割前ニ適當スト雖モ若シ其語チ株式ナル語ト對比シテ記載スルキハ合名會社ニ在ル社員若クハ其資本金チ株式ニ分タサル差金會社ニ於ケル金主ノ權利ヲ指示スルモノナリト

此定義ハ敢テ其義ヲ定メントスル物ノ特殊ナル性質ヲ示スニアラス株式差金會社タルト通常差金會社タルトニ隨ヒ社員ノ割前ハ或ハ株式ト爲リ又ハ持分ト爲ルト云フハ必竟其語ヲ變換スルモノニシテ敢テ其語ヲ解釋スルコアラサルナリ

第三論者ノ説ニ曰ク株式ノ特別ナル性質及ヒ其持分ト異ナルハ社員ノ責任其差入金額ニ止ルニ在ルナリト論者之ニ答テ曰ク持分チ割前トスル社員ニシテ彼ノ通常差金會社ノ金主ノ如ク差入タル金額若クハ差入ルヘキ金額ニアラサレハ會社ノ負債ヲ負擔セサルモノナルヲ以テ論者ノ主旨ニ據リ株式ト持分トチ

辨別スルヲ能ハサルナリト是レ至當ノ言ト云フヘシ
 第四論者ノ説ニ曰ク株式ニ特別ナル性質ハ其証券移轉ノ方法如何ニ
 在ルナリ而シテ商業上流通シ得ヘキキハ即チ株式ニシテ之レニ反ス
 ル場合ニ於テハ則チ持分ト爲ル可キモノナリ
 故ニ株式ノ性質ハ商法上允許スル所ノ方法ノ一ヲ以テ流通スルヲ得
 ルニ在ルナリ

此論理タルヤ事實上ニ於テハ大ニ通用セリト雖モ未タ以テ正當ナル
 モノト云フヘカラサルナリ且ツ諸條例中往々之ニ抵觸スル所アリ一
 千八百五十年六月五日ノ法律第二十五條ニ曰ク前數條ニ掲ケタル規
 則ハ株式讓渡ノ民法第千六百九十條ニ規定セル條件ヲ履行スルニア
 ラサレハ第三者ニ對シ完全ナラサルモノニ適用セスト該條ニ接スル
 キハ民法上讓渡ノ方法ハ株券ノ性質ト相抵觸セルモノト抗論スルヲ
 得ヘカラサルナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ流通スルヲ能ハサルモ讓渡シ得ヘクシテ法律カ
 株券ト認定シタルモノアリ
 之ニ反シ特部高ニ於テモ亦タ讓渡ヲ爲シ得ルノミナラス流通スルヲ
 得ヘキモノト法律カ認定シタルモノアリ
 第五論者ノ説ニ曰ク社員ノ割前全ク賣買讓渡スルヲ得スシテ結社ノ
 關係ヲ特ニ當初ノ結社人間ニ維持セサルヘカラサルキハ敢テ疑ヲ容
 レサルナリ社員ノ歡察ハ其主眼ニシテ社員中ノ一名退社シ而シ他人
 ナリテ之ニ代ハラシメント欲セハ新ニ契約ヲ結ハサルヘカラス如是
 ノ會社ハ即チ持部高ノ會社ナリ而シ若シ社員ノ割前ハ之ヲ賣買讓與
 スルヲ得ヘキキハ或ハ持部高ノ性質ヲ存シ或ハ株式ト爲ルヲアルナ
 リ蓋シ其持部高ヲ讓與スルノ權利ハ普通法ニ異ナルモノニシテ總社
 員若クハ其社員中ノ數名持約ヲ以テ規定セル便宜法タルニ過キサル
 キハ其割前ハ則チ持部高ナリ之ニ反シ若シ之ヲ讓與スルノ權利ハ之

チ行フノ條件如何ヲ問ハス全ク其株式ノ性質上ヨリ出ツルキハ其割前ハ則チ株式ナリ之ヲ要スルニ持部高ノ讓與ハ結社契約ヲ以テ之ヲ特約スルニアラサレハ之ヲ爲スチ得スシテ其特約ノ廣狹如何ニ拘ラズ持部高タルモノナリ之ニ反シ株式ハ其性質上讓與スルチ得ルモノナリ若シ會社創立ノ時ニ當リ社員割前ノ讓渡ヲ以テ常ニ間斷ナク行フヘキ事ト豫定シ特ニ會社資本金ヲ數個ニ分割シタルキハ其割前ハ乃チ株式タルモノナリ

右ニ陳述スル説ノ重大ナル誤謬ハ如何ナル場合ニ於テハ論者ノ主張セル如ク社員ノ割前ハ性質上讓與スルチ得ヘキモノナルカ又如何ナル場合ニ於テハ特約アルニアラサレハ之ヲ移轉スルチ得サルカヲ認知スルノ方法ヲ更ニ舉示セサルコアルナリ

第六論者ノ説ニ曰ク株式ヲ組成スヘキ特殊ノ性質即チ其持部高ト異ナルハ之ヲ讓與スルチ得ルニ在ルナリ言ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ社員ハ

其權利並ニ資格ヲ第三者ニ移轉シ之ヲ以テ社員ト爲シ己レノ地位ニ代ラシムルノ權利ニ在ルナリ之ニ反シ持部高ハ之ヲ讓與スルチ得サルモノナリ之ヲ詳言セハ持部高チ有スル社員退社シ代リニ其讓受人ヲ以テ社員ト爲スチ得ス是レ法律ノ採用スル所ニシテ現ニ法律カ株式ヲ讓與スルチ得ヘキモノト看做スハ之カ爲メ特別ナル讓與ノ方法ヲ構成確定スルチ以テ見ルヘシ是レ亦タ共和歷七年四月廿三日一千八百五十年六月五日及ヒ一千八百五十七年五月二十三日ノ財政法ニ掲載スル所ナリ然リ而シテ該法律ニ於テ其株式ニ特別減輕ノ租稅ヲ賦課シタル所以ハ蓋シ其株券ハ手ヨリ手ニ遷轉シ世上ニ流通スルノ恰モ商業上ノ証券ニ類似シタルモノナルチ以テナリ

之ヲ要スルニ証券ヲ讓與スルチ得ヘキキハ持部高ニアラスシテ株式ナリ而シテ是レ商法ニ規定シタル方法ヲ以テ即其賣買スヘカラサル時ト雖モ民法(民法第六百九十條)ニ規定シタル方法ニ據リ讓渡スチ得ルキハ尙

ホ株式ナリ

右ニ縷述シタル説ハ大概學者ノ遵奉スル所ニシテ余輩カ前版ニ掲ケタル所ナリ

以上余輩カ陳述セシ法律ノ問題ハ甚タ緊要ナルモノナリ何トナレハ現ニ通常差金會社ト特別ノ規則ヲ以テ支配スル所ノ株式差金會社トノ兩種ノ會社ヲ辨別スルハ社員タル者ノ有スル權利ノ性質如何ニアレハナリ

又財政法ニ於テモ株式ニハ比例印紙稅ヲ賦課スルモ是レ持部高ニ及ハサルナリ(一千八百五十年六月五日ノ法律第十四條)又株式ノ讓與ニハ特別ノ移轉稅ヲ課スルモ是亦タ持部高ニハ敢テ之ヲ及サ、ルナリ(一千八百五十七年六月十六條)

余輩ハ茲ニ株式ヲ商業上ノ証券ト爲スカ爲メ必要ナル要件ヲ舉示セントス是レ商法第三十五條及ヒ第三十六條ニ規定スル所ナリ

株式ニ三種アリ曰ク記名株式曰ク無記名株式曰ク命令株式是レナリ
記名株式トハ其所有者ノ姓名ヲ知ラシムルモノヲ云ヒ無記名株式トハ所持人ノ語ヲ以テ所有者本人ノ名ニ換ユルモノヲ云フ即チ此株式ハ其所持人ノ之レカ所有者タルヘキノ謂ナリ

普通ノ記名株式ノ所有權ハ其讓與ヲ爲ス本人若クハ其代理者ノ署名捺印シタル賣買授受ノ申述ヲ會社ノ簿冊ニ記入シ以テ之ヲ移轉スルモノナリ通常ノ債主權移轉ノ如ク讓受人第三者ニ對シ株式ヲ所有者タルニハ更ニ之ヲ會社ニ通告スルヲ要セサルナリ
無記名株式ニ至テハ之ヲ手ヨリ手ニ移轉シ單ニ証券ヲ引渡スヲ以テ之カ讓與ヲ爲シ得ルモノナリ

加之判決例ハ此種ノ証券ニ夫ノ動産ハ現ニ之ヲ有スルヲ以テ其所有ノ權ノ證書ヲ有スルニ等シキ効アリトノ確言ヲ適用セリ
命令株式ハ其株式ノ裏面ニ讓與ノ語ヲ記入シ以テ所有權ヲ移轉スル

カ故ニ世人之ヲ稱シテ裏書ト云フ
 商法ニハ曾テ此種ノ株券ヲ記載セサリキ何トナレハ其慣用極メテ罕
 レナレハナリ然レモ商法ハ之ヲ禁セサルヲ以テ此種ノ株式ヲ用ヰル
 モ更ニ差支ナキナリ

以上株式會社ノ總論ヲ陳述シタルヲ以テ余輩ハ進ンテ曩ニ通常差金
 會社ヲ陳述スルニ當リ説明シタル一般ノ規則ノ外株式差金會社ヲ管
 理スル特別ナル規則ニ關スル一千八百六十七年七月二十四日ノ法律
 第一章ノ規則ヲ説明セントス

一千八百六十七年七月二十四日ノ法律第一章ニハ夥多ナル規則ヲ掲
 ケタリ

該法律ノ第一段ハ株式差金會社ノ構成組織ニ關係セル條例ニシテ商
 法ノ時並ニ一千八百五十六年ノ法律前ニ在テハ自由ニ此種ノ會社ヲ
 構成組織スルヲ得タリシモ此條例ヲ以テ大ニ之ヲ檢束シタリ

第一ノ檢束法ハ株式ノ金額ニ關係スルモノニシテ即チ其金額ノ最下
 點ヲ定メタル是レナリ

第二ノ檢束法ハ株式ノ体裁ニ關スルモノニシテ即チ多少ノ要件ヲ履
 行スルニアラサレハ該株式ヲ無記名ト爲スヲ能ハサル是レナリ

第三ノ檢束法ハ會社ノ創立スル爲メニハ會社資本ノ全額ノ申込アル
 ヲ要スルヲ並ニ各社員カ申込ノ際拂込ムヘキ金額ヲ定ムルヲ是レナ
 リ

又此第一段ノ條例ハ株式申込人並ニ其讓受人ノ責任ヲ制定シ原物ニ
 テ差入レタル物件ノ評價若クハ或社員ノ約シタル利益ノ査定並ニ其
 評價ノ准許ヲ命シタリ

又會社ノ創立スルカ爲メニハ多少法式上ノ條件ヲ要ス而シテ此條件ハ
 一千八百六十七年七月二十四日ノ法律第一章第一條ノ末項ニ之ヲ記
 載ス

既ニ會社ノ創立シタルモ尙ホ必要ナル一ノ條件アリ而ノ其條件ヲ履行セサルモハ無効タルヘシ即チ會社ノ監督委員ヲ任命スルコト是レナリ

第五條ハ委員會ノ組織并ニ委員任命ノ規定ヲ制定セリ

凡ソ會社ニ必要ナル手續ハ悉ク之ヲ履行シ株式ハ既ニ之ヲ申込人ニ渡シタリト雖モ法律ハ尙一個ノ制限ヲ設ケタリ即チ株主ハ其株式ヲ賣買スルヲ得ス之ヲ詳言スレハ株主ハ多少ノ條件ヲ履行スルニアラサレハ商業上ノ方法ニ依リ其所有權ヲ移轉スルコト能ハサルナリ

以上陳述スル所ノ規則中其一ヲ欠キ若クハ其一ヲ犯シタルモハ會社ハ無効タルヘシ

是ヲ以テ會社ノ支配人監督委員并ニ他ノ社員ハ重大ナル責任ヲ受クルコトアリ

是故ニ會社カ其規則ヲ犯シ若クハ之ヲ欠キタルヨリ生スル所ノ結果

ヲ豫防センカ爲メ第一回ノ會社監督會議ニ於テハ直クニ法律上定ムル所ノ一切ノ規則ヲ正實ニ遵守履行シタルヤ否ヲ審査セサルヘカラス

次ニ法律ハ監督委員ノ職務ヲ掲ケ其委員ノ責任ニ關スル規則ヲ制定シ株主ノ爲メ必要ナル監査法ヲ定メ論者カ極メテ喋々スル所ノ問題即チ會社ノ身代限ト爲リタル時ニ當リ株主其受ケタル配當利益ノ返還如何ノ題問ヲ斷定セリ

又該法律ハ其他數多ノ條例ヲ以テ其規則ノ制裁トシテ諸般ノ所罰法ヲ制定シタリ

終ニ該法律ハ株主全体ニ關スル爭論ノ起リタルモハ省費ナル特別ノ訴訟手續ヲ規定セリ

最後ノ三條ハ一時ノ規則ニ過キサルナリ
以上列舉シタルモノハ株式差金會社ニ關スル千八百六十七年七月二

十四日ノ法令第一章ノ規則ノ概略ナリ以下之ヲ詳説スヘシ
 千八百六十七年七月二十四日ノ法律タル其精神敢テ千八百五十七年
 ノ法律ト異ナラス蓋シ商法ノ未タ改正アラサル時ニ當テハ株式ノ金
 額低キニ失セシヲ以テ雇人若クハ職工ニ至ル迄之ヲ求ムルヲ得シナ
 リ而シテ其株式ヲ以テ投機詐偽ヲ逞フシ雇人職工其犠牲ト爲リシヲ屢
 ナリ依テ小額ノ株式ヲ禁止スルノ主意ナリトス是ヲ以テ該法律ハ凡
 ソ株式若クハ部株ノ金額ハ百フラン〔若クハ五百フラン〕以下ニ降ルヲ
 得サルモノト定メタリ即チ會社資本金額二十万フランヲ超過セサル
 キハ其株式ノ金額ハ百フラント爲シ又其會社ノ資本金額二十万フ
 ランヲ超過シタルキハ其株式ノ金額ハ五百フラント爲セリ
 部株ハ株式ノ半額若クハ四分之一等ノ如ク其一部分ヲ示スモノナリ斯
 ノ如ク株式ヲ分割スルノ目的ハ其賣買ヲ容易ナラシムルニ在ルナリ
 然リ而シテ法律ニ定メタル制限以下ニ下ルヲ得サルハ啻ニ其株式ノミ

ナラス部株ト雖モ亦タ然リ若シ五百フラン〔若クハ百フラン〕ノ株式ヲ
 數多小額ノ部株ニ分ツトナシ許スルハ該法ハ容易ニ之ヲ脱スルヲ得ヘ
 シ
 千八百六十七年ノ法律ハ千八百五十九年ノ法律ノ如ク會社資本全額
 ノ申込ヲ以テ其會社ノ確實ナルヲ認ムヘキ目標ノ一ト看做セリ故
 ニ該法律ニ於テハ株式差金會社ハ其會社資本全額ノ申込アリタル後
 ニアラサレハ確然成立スルヲ得サルモノトナセリ(第二項條)
 又テ該法律ハ株式申込ノ確實ナルヲ確保スル爲メ各社員ハ第一回
 ノ拂込ヲ爲ス可ク而シテ必ラス己レノ申込タル株式總額ノ四分之一ヲ
 拂込ムノ義務アルモノト定メタリ
 若シ株主中若干名ハ己レノ申込ミタル株式金額ノ四分之一以上ヲ拂込
 ミ而シテ他ノ若干名ハ四分之一以下ヲ拂込ミタルキハ先者ノ拂込金ノ四
 分一ニ超過セル金額ハ後者ノ拂込金ノ不足額ヲ補足シ得ヘキヲ以テ

會社資本金額ノ四分之一ハ既ニ其拂込アリタルモノト云フヘシ然レモ未タ之ヲ以テ足レリト爲サ、ルナリ一千八百六十七年七月二十四日法律第一條二項ノ明文ニ據レハ第一回ニ拂込マサル可カラサルモノハ是レ會社株金全額ノ四分之一ニアラズシテ各株主ヨリ其中込ミタル株式金額四分一ヲ拂込ムヘキヲ示スモノナリ

株金ノ申込ヲ募集スルニ先チ會社創立規則ヲ編製シ之ヲ證書ニ調製ス其結社證書ハ公正ノ證書ナルヲアリ或ハ私署ノ證書ヲ以テ之ヲナスコアリ一千八百七十六年ノ新法ハ若シ結社證書私署ノ證書タルハ社員ノ多少ヲ論セス二通ヲ以テ足ルモノト制定シ以テ當時ニ至ル迄議論紛々タリシ問題ヲ斷定シタリ

若シ支配人悉ク申込書ヲ採集シ且ツ各株式ノ金額四分一以上ノ拂込金ヲ受領シタルハ公證人ノ送リタル證書ヲ以テ之ヲ届出ヘシ尙ホ其證書ニ第一申込人ノ姓名録第二拂込金額表第三若シ私署ノ證書ヲ

以テ結社シタルハ結社證書一通又ハ其届書ヲ造リタルモノニアラサル他ノ公證人ノ面前ニ於テ結社證書ヲ調製シタルハ其謄本ヲ添ユヘシ蓋シ株主ノ申込金高并ニ拂込金額ノ届書ヲ領收シタル公證人結社證書ヲ造リタルモノナルニ於テハ敢テ其結社證書ヲ添ユルノ必要アラサルナリ

若シ結社證書私署ノ證書ナルハ他ノ一通ハ之ヲ會社ノ本店ニ保存ヘキモノトス

千八百五十六年ノ法律ニ在テハ株金ノ全額ヲ拂込ミタル後ニアラサレハ株式ヲ無記名トナスコト許サ、リキ蓋シ是ノ如キ規定ヲ爲シタル所以ノモノハ投機ヲ違フスルハ往々會社創立ノ際ニ在ルヲ以テ之ヲ防止セントスルニ在ルナリ

又タ同法律ハ凡ソ株式申込人ハ悉ク其申込株式ノ金額ヲ拂込ムノ責任アルコトヲ明記シ之ニ反スル契約ハ假令ヒ株券申込人ノ責任ヲ株式

金額一部ニ制限スルニ過スト雖モ都テ其契約ヲ禁止シタリ是ノ如ク完全ニシテ輕減スル能ハサル責任ヲ設ケタルハ一千八百六十五年ノ立法者之ヲ以テ其會社ニ誠實ニシテ且ツ眞ニ會社ノ成敗ニ配慮スル人ヲ得ルニ最モ確ナル手段ト觀察シタレハナリ

是故ニ余輩カ上文ニ陳述セシ如ク一千八百五十六年ノ法律ニ於テハ凡ソ株式ナルモノハ其金額ヲ悉皆拂込マサル前ニ之ヲ無記名トナストナサザリキ蓋シ該法律ハ株式ヲ無記名トナスルハ讓渡人其責任ヲ無實トナサソトナシ憂フルニアルナリ

一千八百六十七年ノ法律ニ從ヘハ僅ニ會社ノ創立規則ヲ以テ株式ハ其半額拂込ノ後ハ株主總會ノ決議ニ依リ之ヲ無記名ニ變換セソトナシ契約スルヲ許セリ

次ニ該法ハ原申込人並ニ其株式讓受人ノ責任ヲ制定スルニ當リ謂テ曰ク總會ノ決議ヲ經タル後其株式從前ノ如ク記名ナルニモセヨ或ハ

之ヲ無記名ニ變換スルト雖モ其株式ヲ讓渡シタル原申込人及ヒ株式

金高ノ半額ヲ拂込マサル前ニ其讓渡ヲ受ケタル者ハ共ニ株主總會ノ

決議後二ケ年間其金額支拂ノ責任ヲ免カレサルモノナリト(第三條第

二項)此規則タルヤ蓋シ法律起草ノ際拆中主義ヨリ起リタル結果ニシ

テ其解釋上重大ナル困難ヲ見ルナリ

曩ニ余輩ノ著述シタル一千八百六十七年七月二十四日法律ノ解釋書

中ニ於テ余輩ハ此不明ノ法文ヲ如何ニ解釋シタルヤヲ陳述セントス之ヲ陳述スルニ當テハ三種ノ場合ヲ觀察セサルヘカラス

一會社創立規則ニ於テハ株式金高ノ半額ヲ拂込タル後ハ記名株

券ヲ無記名株券ニ變換スルトナシ許可シ而シテ株主總會ニ於テハ

其變換ヲ爲ス可キモノト決議シタリト假定セン此場合ニ於テ

ハ當初ノ申込人ハ株式ノ半額ヲ拂込ムノ前ニ之ヲ讓渡シタル

カ或ハ其金額拂込後ニ至リ之ヲ讓渡シタルカヲ區別スヘシ

若シ其拂込前ナルキハ當初ノ申込人ハ株主總會ノ決議後二ケ年間ハ其株式金高ノ全額ヲ拂込ムノ義務ヲ免カレサルモノナリ其讓受人モ亦二ケ年間同一ノ義務ヲ負擔セサルヘカラス然レモ株主總會ノ決議後二ケ年ヲ經過スルニ於テハ其株式ノ申込人及ヒ其讓受人ハ最早其義務ヲ負擔セスシテ其株式ノミ其義務者タルモノナリ故ニ若シ其金額ヲ拂込マサルキハ株式ヲ執行スヘシ即チ之ヲ商人集會所ニ於テ賣却シ而シテ其賣却代價ハ株式ノ延滞拂込金ノ義務ヲ免カレシムルモノナリ

若シ其株式ノ讓渡既ニ株式金高半額ノ拂込後ニ在ルキハ當初ノ申込人ハ勿論讓受人モ亦タ毫モ義務ヲ負フ所アラサルナリ

政府ノ意見ハ株式ノ半額ヲ拂込ミタル後之ヲ讓渡シタル申込人ハ最早其責任ヲ免カレ他ノ半額ノ拂込ニ應スヘキハ讓受人ナラソコヲ欲スルモノナリ然レモ法律ハ余輩カ上文ニ陳述セシ如ク申込人ノ義務ヲ免カレシムルノミナラス尙ホ讓受人チシテ其義務ヲ免カラシタリ是レ編纂委員ノ意見ニ適スルモノナリト雖モ政府ノ意見ニ反スルモノナリ

第二 設令ヒ會社ノ創立規則ハ株式ノ半額拂込ノ後ハ記名株券ヲ無記名株券ニ變換スルコトヲ許スト雖モ株主總會ハ其決議ヲ以テ其變換ヲ許サ、ルヲ得ヘシ然ルキハ其株式ハ從前ノ如ク記名タルヘキナリ

上文ニ縷述スル場合ニ於テハ株式ノ申込人其株式ヲ讓渡スヤ未タ毫モ拂込ヲ爲サ、リシキハ其株式ノ全額ヲ拂込ムノ義務アリ又タ若干ノ拂込ヲ爲シタルキハ株主總會ノ決議後二ケ年間其不足金額ヲ拂込ムノ義務アルモノナリ

一千八百五十六年ノ法律前ニ在テハ巴里控訴院ノ判決ニ從ヘハ株式ノ申込人ハ其讓渡ニ據リ全ク其義務ヲ免カルヘキナリ之ニ反シテ里

昂控訴院ノ決議ニ從ヘハ從前ノ如ク其義務ヲ負擔スルモノナリ
 千八百六十七年ノ法律ハ株式申込人ノ義務ヲ免除スト雖モ株主總會
 ノ決議後二ケ年ノ後ニアラサレハ之ヲ免除セサルナリ
 讓受人モ亦タ二ケ年間ハ其株式金額支拂ノ義務アルモノナリ然レモ
 二ケ年ヲ經過シタル後ハ法律ハ亦ク讓受人ヲシテ其一身上ノ義務ヲ
 免カラシム獨リ株式ハ其殘餘金高ノ義務者タルモノナリ

第三 會社ノ創立規則ニ株式金高ノ半額ヲ拂込タル後記名株券ヲ
 變シテ無記名トナスコトヲ特約セサルニ於テハ株主總會ハ其變換ヲ
 許可スルヲ得サルナリ故ニ其株式ハ終始記名株式タルモノナリ
 前述ノ場合ハ大ニ疑惑ヲ醸スト雖モ余輩ノ所見ニ從ヘハ此場合ニ於
 テモ前キノ場合ト同一ノ判斷ヲ下シ申込人其株式ヲ讓渡シタル場合
 ニ於テハ其讓受人ト共ニ二ケ年間ハ株式金高ノ全額若クハ其拂込殘
 餘高ヲ拂込ムノ義務アルモノニシテ其以後ニ至リテハ株式獨リ義務

者タルモノナリト言フヘキカ如シ

巴里府法律學校ノ博學ナル商法講師「ラトウ」氏ハ異ナリタル解釋ヲ下
 ノ曰ク余ノ意ニ從ヘハ立法者ハ暗ニ株式申込人ハ自ラ其株式ノ全額
 ヲ拂込ムノ義務アリ且ツ株式ハ其全額ヲ拂込ムニ至ル迄ハ記名株券
 タル可シトノ二原則ヲ認許シ而シテ會社創立規則ニ從ヒ株主總會ニ於
 テ半額ノ拂込アリタル株式ヲ無記名ニ變換スルコトヲ許シタル場合ニ
 非サレハ前ノ原則ヲ變スルコトヲ欲セサリシナリ申込人及ヒ其讓受人
 カ總會ノ決議後二ケ年ノ後ハ其株式拂込ノ義務ヲ免カル、ハ該會ニ
 於テ此變換ヲ許シタル場合ニ限ルモノナリ若シ否ラサレハ株主拂込
 ノ義務消滅シテ株式獨リ其義務ヲ負擔スルニ當リ余ハ其株式ヲ記名
 タラシムルノ必要及ヒ株主總會ノ決議ノ利益ヲ會得スルコト能ハサル
 ナリ故ニ余輩ノ思惟スル所ニ依レハ第三條第二項ニ記載スル所ノ「株
 主總會ノ決議ノ後其株式尙ホ記名ナルニモセヨ或ハ之ヲ無記名ニ書

換へタルニモセヨ」云々ノ語ハ該法律ノ報告委員ハ「チリビエール」氏カ引語シタル演說中此語ニ株主總會ノ決議如何ニ拘ハラストノ意義ヲ與へシニ似タリト雖モ其大意ヲ得サルナリ余輩ノ意見ニテハ該法律ノ語ハ之ヲ左ノ如ク解釋セサルヘカラス則チ株主總會カ記名株券ヲ無記名株券ニ書換フルヲ許シタル時ハ之ヲ書換へタルニモセヨ或ハ之ヲ書換へサルニモセヨ云々ト

又「テトウ」氏ハ之ニ附言シテ曰ク若シ株主總會ニ於テ無記名ニ書換ユルヲ許シタルキハ株式申込人ニ或ハ拂込ノ義務ヲ負ハシメ或ハ之ヲ免スルカ如キ其地位ヲ異ニスルヲ能ハサルカ如シ是ニ由テ之ヲ觀レハ二ヶ年ヲ經過スルニ於テハ株式金高ノ半額ヲ拂込マサル前ニ其株式ヲ讓渡シタル者并ニ半額ヲ拂込ミタル後ニ之ヲ讓渡シタル者且ツ之ヲ讓渡サ、ル者ト雖モ均シク其一身ノ義務ヲ免カルヘシト思考スルナリ

讓受人ニ至テハ若シ無記名株券ノ讓渡ヲ受タルキハ其拂込ノ責任ヲ免カル、ト雖モ若シ記名株券ナルキハ之ト異ナリ而シテ株式ノ讓渡株式ノ半額ヲ拂込マサル前ナレハ常ニ然リトス此場合ニ於テ讓受人ハ二ヶ年後ニアラサレハ其義務ヲ免カル、ヲ得サルモノナリ故ニ第三條未段ノ意ハ株式ヲ讓渡シタル申込人ノ義務并ニ無記名株式ニ書換ユル前ニ之ヲ讓受ケタル株式讓受人ノ義務ハ其株式ノ書換ヲ許可シタル株主總會ノ決議後二ヶ年間ハ依然トシテ成立スルヲ規定スルニアルナリ

「ブウダン」氏ハ又第三條ノ第二ノ規則ニ左ノ解釋ヲ下セリ凡ソ株式申込人ハ其申込タル株式金高ノ全額ハ資力ヲ盡テ之ヲ拂込ムノ義務アリ又之ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ漸次之ヲ讓受ケタル者及ヒ現時ノ所持人ハ申込人ト共ニ之ヲ拂込ムノ義務アリ而シテ株式ハ其全額ヲ拂込ムニ至ル迄ハ記名株券ヲラサルヘカテサルナリ

然レモ會社ノ創立規則中ニ株主總會ハ特別決議ヲ以テ其株式ノ半額拂込ノ後ハ記名株式ヲ無記名株式ニ書換ユルヲ許スヲ得ヘキノ約定ヲ爲スヲ得ルモノナリ

其書換ヲ許スノ議決ヲシタル上ハ其株式ノ記名ナルニモセヨ或ハ株主ノ求ニ應シ無記名株式ヲ渡シタルニモセヨ株式ノミ獨リ拂込殘額ノ義務者トナルモノナリ然レモ當初ノ株式申込人及ヒ書換ノ議決前ニ其讓渡ヲ受ケタル讓受人ハ二ケ年間尙ホ其株金拂込ノ義務ヲ負擔セサルヘカラサルナリト

千八百六十七年七月二十四日ノ法律ハ凡ソ株式ナルモノハ一回ノ拂込ヲシタル後ニアラサレハ賣買スルヲ能ハサルモノト定メ以テ千八百五十六年ノ法律ノ如ク大ニ株式ノ流通ヲ檢束シタリ然レモ千八百五十六年ノ法律ニ從ヘハ其拂込ハ株式金高五分ノ二以上タルヘキモ方今ニ在テハ其四分之一ニシテ足ルモノナリ乃チ會社創立ヲ爲スニ

要スル拂込ト同金高ノ拂込ヲ要スルモノナリ其一例ヲ舉クレハ株式金額千「フラン」ナルモハ其株式ヲ賣買スル爲ニハ必ラス二百五十「フラン」以上ノ拂込ヲ爲サ、ル可ラサルナリ

然レモ右ノ法律ハ株式四分一ノ拂込ヲ爲サ、ルニハ全ク之ヲ處分スルヲ許サ、ルノ精神ニアラスシテ其禁制スルモノハ他ナシ賣買是レナリ而シテ此賣買ナル語ハ世人ノ熟知セル特別ノ意義ヲ有セリ即商業上ノ方法ニ依リ就中裏書又ハ會社帳簿面ノ書換ニ依リ其所有權ヲ移轉スルヲ示スモノナリ

然レモ株式金額四分一ヲ拂込マサル前ニ於テハ株式ヲ賣買スルヲ能ハスト雖モ之カ爲メ株式ヲ讓渡スヲ能ハサルニアラサルナリ則チ民法上許ス所ノ手續ヲ用井之ヲ讓渡スハ敢テ法律ノ禁制スル所ニアラサルナリ故ニ其株式又ハ部株ハ生存中ノ贈與遺物相續等ニ依リ其所有權移轉スルヲ得ルモノナリ

商法ノ未タ改正アラサル時ニ當リ現出シタル弊害ノ最モ重且ツ大ナルモノハ通貨ニ非サル差入物及ヒ特別利益ノ過度ナルコト是ナリ會社ノ創立者ハ獨リ會社ノ契約書ヲ調成シ次キニ揭示廣告等ヲ以テ申込人ヲ促シ而シ之ニ加入スル者ハ或社員カ其會社ヨリ自己ノ爲メ約シタル利益ノ享有ヲ確保スル爲メ并ニ原物ヲ以テ差入タル物品ノ査定額ヲ確定ノモノト爲スタメ自由ニ完全ナラサル承諾ヲ與ヘサリシナリ

千八百五十六年ノ法律ハ此弊害ヲ矯正センコトヲ求メ而シテ千八百六十年三月二十三日ノ法律ハ其規則ヲ採用シタルモノナリ千八百六十七年ノ法律ニ至リテハ多少ノ増補ヲ爲シ該法律ヲ再述シタルモノナリ

若シ社員一名通貨ニアラサル差入物ヲナシタルトキハ該社員ニ格別ノ利益ヲ附與スルコトヲ約スルモノニシテ其差入物件ノ價格若クハ其利益ノ正否ヲ評定セシムル爲メ株主第一回ノ總會ヲ開カサルヘカラス

此第一回ノ株主總會ノ外差入物件若クハ利益金ノ認諾ヲ得ル爲メ第二回ノ總會ヲ要スルモノナリ法律ハ唯一ノ總會ヲ開クヲ以テ足レリトセス蓋シ初時ノ同意ヲ恐ル、カ故ナリ

第二回ノ總會ハ少クモ會合五日前ニ各株主ノ閱覽スルヲ得ヘキ報告書ヲ刊行シタル後ニ非サレハ議決スルヲ得ス

以上兩度ノ總會ニ於テ多數決ハ二種ノ原素ヲ以テ組織スルモノナリ即チ臨席株主ノ過半ノ外必ラス總社員四分一ノ同意ヲ得又タ其同意シタルモノ、株金高通貨ニテ會社資本金四分一ニ當ラサルヘカラスルナリ

法律ハ讀者ノ見ル如ク社員ノ數及ヒ金額ニテ二重ノ多數ヲ要スルモノナリ

社員ノ數ニテ多數ナル爲メニハ臨席社員半數以上ヲ要シ其他尙ホ其多數ハ必ラス會社ノ總社員ノ四分一以上タラサルヘカラス又タ金額ニテ多數ナルニハ通貨ヲ以テ會社資本ノ四分一以上タラサルヘカラス故ニ例ヘハ其會社ノ資本金二百萬フランナルキハ其議決ニ同意シタル株主ノ株金高ハ五十萬フラン以上タラサルヘカラスカ如シ

然レモ利益ヲ約シ又ハ通貨ニ非サル物ヲ差入レタル社員ニ至テハ其承諾ニ欠瑾アラソトテ恐レ其會議ニ與ルコトヲ禁制シタリ

若シ社員ノ認諾ヲ得サルキハ其會社ハ計畫中ニ屬ス將來ハ勿論現在既往共ニ其會社ノ成立セサルモノナリ

然リト雖モ以上陳述スル所ノ社員ノ差入物ノ評定ニ關スル規則ハ共有者其共有ノ未分物ヲ以テ差入物トナシ其間ニ於テ會社ヲ組織シタル場合ニ適用スヘカラスナリ此場合ニ於テハ株主ハ無根ノ外狀ノ

爲メ錯誤ヲ致タスコト莫カルヘシ

會社ノ確然成立スル爲ニハ結社契約書ヲ造リ會社資本金全額ノ申込アリ且ツ其金額四分一ノ拂込アルモ未タ以テ足レリト爲サルナリ此上尙ホ余輩カ上文ニ陳述セシ如ク差入物及ヒ利益金ノ認諾アルヲ要スルモノナリ

其他會社ハ監督委員ヲ撰任セサル前ニ在リテハ其業務ヲ始ムルヲ得サルモノナリ而シテ此規則ニ違背シ監督委員ノ就職セサルノ前ニ業務ヲ營ミタル支拂人ハ五百フラン以上千フラン以下ノ罰金ニ處セラレ、モノナリ

千八百六十七年ノ法律ノ希望スル所ハ千八百五十六年ノ法律ノ如ク會社確立後直ニ株主總會ニ於テ株主ヲ以テ組織セル監督委員ヲ撰任スルニアリ然レモ其監督委員ノ組織ヲ一層容易ナラシムルカ爲メ法律ハ該委員ノ最寡數ヲ五名ヨリ三名ニ減シ以テ舊法ヲ改定シタリ

其他千八百五十六年ノ法律ニ從ヘハ監査委員ハ五ヶ年以上其職ニ在ルコト能ハスシテ少クモ五ヶ年毎ニ之ヲ改撰シタリ然レモ方今ニ在リテハ會社ノ創立規則ヲ以テ定メタル要件ニ從ヒ時期ニ於テ之ヲ改撰スルヲ得ルモノナリ故ニ該法律ハ依然改撰ノ原則ヲ存スト雖モ其適用ニ至リテハ契約ノ自由ニ放任シタリ

然レモ會社創立ノ始メニ當リ監督委員ヲ撰任セントスルモ其委員ノ任期ハ一ヶ年ヲ超過スヘカラサルナリ

千八百五十六年及ヒ千八百六十七年ノ法律ニ於テ斯ノ如ク制定シタル所以ノモノハ蓋シ社員互ニ未タ相知ラサルヲ以テ多少其任撰ヲ誤ルノ恐ナキニアラサルヲ以テナリ

法律ハ株主總會ニ於テ監督委員ヲ任撰スヘキヲ明記スルト雖モ其委員ヲ撰任スヘキ投票者ノ員數并ニ其株金高ニ至リテハ毫モ指示スル所アラサルナリ余輩ハ其任撰會議ニ臨席シタル株主ノ多數決ヲ以テ之ヲ撰任スルモノト思考ス蓋シ特別ノ規則アラサルモ普通法ニ販入スヘク而シテ集會ニ於テハ會員ノ多數ヲ以テ其決ヲ取ルハ普通ノ元則ナレハナリ

然レモ會社ノ創立規約ヲ以テ定メタル規則ニ準據スヘキハ勿論ナリ」

千八百六十七年ノ法律ハ之ヲ千八百五十六年ノ法律ニ比スレハ一層明瞭ナル規則ヲ掲ケ且ツ制裁ヲ設ケテ會社ノ基本タル規則ヲ普テ遵守シタルヤ如何ヲ檢査スルノ義務ヲ第一回ノ株主總會ニ命シ以テ支配人ノ義務及ヒ責任ヲ共擔セシム

實ニ會社組織ノ要件ヲ精密ニ遵奉スルハ極メテ緊要ナリ何ントナレハ若シ之ヲ遵守セサル場合ニ於テハ會社ハ無効ナレハナリ故ニ左ノ場合ニ於テハ會社ハ無効ナリトス

第一 會社ノ資本二十万フランヲ超過セサル場合ニ於テ一株式ノ金高百フラン以下ナルモ又反對ノ場合ニ於テ其金高五百フラン以

下ナルキ

第二 會社資本ノ全額ノ申込アラサルキ若クハ各社員ヨリ其株式ノ四分一ヲ拂込マサルキ

第三 支配人ノ申述ヲ記載スル公證人ノ證書ヲ以テ株式申込及ヒ拂込ヲ認記セサルキ但シ之ニ申込人姓名録拂込金高表及ヒ私署ノ證書ナルキハ會社契約證書一通又或ハ公證人ノ證書ニシテ支配人ノ申述ヲ造リタル者ニアラサル他ノ公證人會社契約書ヲ作リタルキハ其贖本ヲ添ユヘシ

第四 若シ結社證書私署ノ證書タルキ二通ヲ調製セス若クハ之ヲ會社ニ備ヘ置カサルキ

第五 會社創立規約書ニ株金四分一ヲ拂込マサル前ニ株券ヲ賣買スルヲ得ヘキヲ契約シタルキ

第六 記名株券ヲ無記名株券ニ書換ユルヲニ關スル規則ニ違背シタルキ

第七 差入物若クハ特別利益金ヲ正當ニ組織シタル前後第二回ノ株主總會ノ評定ニ附セサルキ

第八 差入物ノ價值若クハ利益金ヲ議定スル爲メ招集シタル第二回ノ總會ニ於テ會合五日前ニ株主ノ閱覽ニ供シタル刊行ノ報告書アラスシテ評議シタルキ

第九 監督委員ヲ設ケス若クハ法律ニ定ムル方法ヲ以テ監督委員ヲ組織セサルキ

以上陳述スル諸般ノ場合ニ於テハ會社ハ無効タリ而シテ社員間互ニ之ヲ申述シ且ツ社外人ハ社員ニ對シ之ヲ申述スルヲ得ヘシト雖モ決シテ社員ヨリ第三者ニ向テ之ヲ申立ツルヲ得サルモノナリ

此規則ハ商法第四十二條ヲ採用シタルモノニシテ該條ハ結社證書ノ公告ニ關スル手續ヲ履行セサル者ニ對シ右ト同一ノ罰ヲ科セリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ千八百六十七年ノ法律ニ掲ケタル會社無効ノ性質ハ概シテ商法ニ記載スルモノト同一ナリ則チ余輩カ後日ニ至リ陳述大ヘキカ如ク其無効ハ完全公益上ノ無効ニシテ隨意ノ執行ヲ以テスルモ亦タ明示ノ追認ヲ以テスルモ之ヲ完補スルヲ能ハサルナリ然レモ社則チ公告セサルカ爲メ會社ノ無効ハ將來ニノミ及ホスモノニシテ既往ニ溯リ其効ヲ生スルモノアラス而シテ恰モ會社ノ無効タラサルカ如ク既ニ結了シタル事業ニ付テハ其契約社員ノ間効力ヲ有スルモノナリ

千八百七七年八月二十四日法律ノ解釋書中ニ余輩ハ其第七條ヲ適用スルニ當リ同一ノ原則ヲ遵奉シ會社無効ノ請求前ニ結了シタル事業ニ依リ關係者間ニ於テ爲ス可キ精算整理スヘキ事况アルキハ已ニ取消シタル會社契約ヲ以テ其精算ヲ爲シ事况ヲ整理スヘキ乎將タ如何ノ問題ヲ掲載シタリ

余輩ノ意見ハ之ヲ不可トスルモノナリ

商法第四十二條及ヒ千八百六十七年ノ法律第七條ハ全ク相異ナル二種ノ思想及ヒ事實ニ係ルモノナリ第四十二條ニ從ヘハ會社ハ正當ニ成立シ又其成立ノ爲メ必要ナル條件ヲ具備シ只タ其成立ヲ公衆ニ知ラシムルニ關スルモノナリ一語之ヲ言ヘハ外部ノ要件乃チ公告ノ手續ヲ爲スヲニ關セリ

之ニ反シ千八百六十七年法律第七條ニ於テハ法律ハ會社ノ成立ニ必要クヘカヲサル要件ノ一ヲ脱漏シタルヲ想像スルモノナリ是故ニ該條ニ會社ハ無効ニシテ其關係者ニ向テ更ニ効アラサルモノナリト云ヘリ是ニ由テ之ヲ觀レハ其無効ハ完全ニシテ過去將來ヲ包容シ毫モ社員間ニ契約ヲ存立セシムルヲ能ハサルナリ故ニ實際ニ存シタル組合ハ性法ノ原則ニ基キ之ヲ支配スヘキモノニシテ決シテ曾テ成立セサリシ契約ノ條件ニ從フモノニアラサルナリ

「ラトウ」氏ハ先キニ此意見ヲ教ヘタリシモ方今ニ至リテハ大ニ疑惑ヲ懷クニ至レリ其言ニ曰ク若シ會社ニ於テ利益ヲ得タルキハ株主其利益ノ分配ヲ要求スルヲ得ヘキモノ、如シ果シテ此說當ヲ得タルモノトスルキハ如何ノ法律ノ背反ニ原因セス他ノ事故ヨリ生シタル損失ヲ社員ニ分擔セシメサル哉裁判官損害ノ原因ヲ探ルヲ許サス社員中ノ數者ヲシテ他ノ社員ニ對シ賠償ノ責任ヲ負ハシムルハ余意ニ於テ過酷ナルカ如シ且ツ該條ニ掲クル會社ノ無効ハ商法第四十二條ニ記シタルモノト異ナラサルハ數回明言シタル所ナリ

會社ノ契約ヲ取消シタル時ニ當リ之カ爲メ會社若クハ第三者ニ損害ヲ釀シタルキハ第一回ノ監督委員ニ支配人ト共ニ其責任ヲ負ハシムルヲ得ヘキナリ而シテ裁判所ハ其過失ノ輕重及ヒ損害ノ多少ニ從ヒ其賠償ヲ量定スルノ權利ヲ有スルモノナリ

千八百六十七年ノ法律第八條ニ記載セル前文ノ規則ハ千八百五十六年ノ法律第七條ニ於テハ一層嚴酷ナル條件ヲ以テ之ヲ掲ケタリ乃チ監督委員及ヒ支配人ハ連帶ノ責任ヲ有シタリキ

新法ニ於テハ意思上及ヒ事實上其間更ニ關係ヲ有セサル支配人及ヒ監督委員ノ兩者ノ過失ニ連帶責任ヲ適用スルヲ欲セサリシナリ

千八百六十七年七月二十四日ノ法律ノ編纂委員ハ監督委員ノ職務及ヒ義務ニ關スル千八百五十六年ノ法律規則ニ其注意配慮ヲ用井タリ蓋シ論者ノ頗ル駁撃ヲ受ケシハ概テ該法律規則中監督委員ノ義務及ヒ其責任ノ廣狹如何ニ關スル規則ナリキ

然レヒ千八百六十七年七月二十四日ノ新法ハ余輩カ下文ニ示スカ如ク多少ノ更正ヲ加ヘタリト雖ヒ概テ千八百五十六年ノ法律ニ掲ケタル原則ヲ採用シタリ

該法律ハ監督委員ノ職務ヲ定メ又タ精密ニ其責任ヲ規定シタリ

監督委員ハ會社ノ簿冊金匱現有証券ヲ檢査スルノ任アルモノナリ

該委員ハ年々株主總會ニ報告書ヲ提出スヘキモノニシテ該報告書ニハ會社ノ財産目錄書中ニ其發見シタル不當不規律ノ點ヲ記載スヘキモノナリ而シテ事宜ニ依リテハ支配人ヨリ通告シタル收益配當ヲ拒ムヘキノ理由ヲ記入セサルヘカラス

利益金ノ配當ハ必ラス會社ノ收益ヲ以テ之ヲ爲シ決シテ資本ヲ以テ之ヲ爲ス可ラス

收益金ノ配當ニ關シ千八百六十七年ノ法律ハ從來議論紛然タリシ虛設ノ配當金返還ノ問題ヲ決定シテ凡ソ配當利金ナルモノハ目錄帳ヲ備ヘス若クハ目錄帳ニ記入シタル成績外ニ於テ之ヲ分配シタル場合ニアラサレハ株主ニ向ツテ其返還ヲ行フコト能ハサルモノトセリ(第十

條三項)

配當利金返還ノ訴權ハ分配ノ日ヨリ五ヶ年ヲ以テ期滿免除トナルモノナリ

監督委員ノ報告ヲ聽聞スヘキ株主總會ノ準備ヲナス爲メ必ラス其開會十五日前ニ各株主ハ自身若クハ代理人ヲ會社ノ本店ニ至ラシメ會社ノ其簿冊監督委員ノ報告ヲ閱覽スルヲ得ヘシ株主ハ以テ事ノ詳細ヲ知り明察ノ投標ヲナスヲ得(第二十條二)

終ニ監督委員ハ株主總會ヲ開キ會社ノ解散ヲ發言スルノ權利ヲ有スルモノナリ然レモ會社ノ解散ハ株主總會カ監督委員ト意見ヲ同フスルニアラサレハ之ヲ訟求スルヲ能ハサルナリ故ニ株式總會ハ會社ノ解散ヲ准許スル爲メ全權ヲ有スルモノナリ(第十條)

千八百五十六年ノ法律ハ監督委員ハ社員ノ代理者ナリトノ思想ニ基キ普通法ニ於テ代理ノ任ヲ帶ヒタル者ニ負ハシムル責任ヲ監督委員ニ負ハシメタリ然レモ特別ノ場合ニ其規則ヲ適用シタリ故ニ解釋上ノ困難ヲ生シタリ然レモ千八百六十七年法律ノ編纂委員ハ單ニ普通ノ原則ヲ掲クルヲ以テ優レルモノトセリ故ニ該法律ニ曰ク監督委員

ハ管理事務及ヒ其結果ニ依リ決シテ責任ヲ負フモノニアラスシテ各自其代理ノ任ヲ行フニ當リ普通法ノ原則ニ從ヒ一身ノ過失ノ責ニ任スルモノアリト(第九條)

千八百五十六年ノ法律ノ時ニ在テハ監督委員ノ責任ハ尙ホ他ニ紛議アリタリ蓋シ監督委員ハ支配人ノ犯シタル犯罪ニ付キ民事上ノ責任ヲ有スルモノトシテ輕罪裁判所ニ引出サレタルコトアリシニ監督委員ハ之ヲ拒ンテ曰ク監督委員ハ支配人ノ上ニ權力ヲ有セサルヲ以テ民法第千三百八十四條ニ定メタル民事上ノ責任ハ之ヲ適用スヘカラスノ刑事裁判所ニ引出サル可キニ非スト右ノ辨論ハ大審院ノ採用スル所ト爲ラスシテ支配人ノ犯罪ニ付キ監督委員ハ民事上ノ責任ヲ負フヘシトノ判決ヲ下シタリ

千八百六十七年ノ法律ハ右ノ論題ヲ決シ監督委員ハ支配人ノ犯シタル犯罪ニ付テハ民事上ノ責任ヲ負ハサルモノト斷定シタリ

蓋シ立法者ノ精神ハ監督委員ヲ目シテ家父主人及ヒ代理委任者ニ准スルコト能ハサルモノト思考シタルニ據ルナリ何トナレハ監督委員ハ支配人ヲ監督スルニ止マリ敢テ之ヲ指揮スル能ハサルナリ監督委員ハ支配人ヲ指揮スルノ權力ヲ有セス而シテ民事上ノ責任ハ獨リ此權力ニ根據スルモノナリ

千八百五十六年及ヒ千八百六十三年ノ法律ノ編纂委員ニ倣ヒ新法ノ編纂者ハ其規則ヲ確守セシムル爲メ單ニ民事上ノ制裁ヲ置クニ止マラスシテ會社ノ創立規約ニ於テ或ハ其業務管理上ニ於テ犯スコトアルヘキ犯罪ヲ防遏スル爲メ尙ホ刑事上ノ制裁ヲ置ケリ
則チ會社カ新法第一條二條及ヒ三條ニ基キ創立セサルキ即チ之ヲ詳言セハ株券ノ價格百フラン若クハ五百フラン以下ナルキ或ハ資本金高全額ノ申込アラサル前若クハ各株主ヨリ申込株金全額ノ四分一ヲ拂込サル前ニ會社ヲ立テタルキハ或ハ其申込若クハ拂込ヲ規定ノ手

續ニ准ヒ認記セサルモ或ハ又法律上規定ノ手續ヲ踐行セスシテ株式
ヲ無記名トナシタルモ株式券又ハ部株ヲ發行シタル者ハ五百フラン以
上一萬フラン以下ノ罰金ニ處スルモノナリ

上文ニ掲ケタル罰金ニ處スルハ敢テ株式ノ發行ノミナラス法律上規
定ノ額以下ノ株式ヲ賣買シ或ハ之ヲ賣買スル前ニ株式金高四分一ノ
拂込アルヲ要スルモ其拂込アラスシテ株式ヲ賣買シ或ハ法律上規定
ノ要件若クハ手續ヲ踐行セスシテ記名株式券ヲ無記名ニ書換ヘタル時
ト雖モ前文ノ罰ヲ免カレサルモノナリ

又總テ右株式ノ賣買ニ媒介シタル者及ヒ其株式價格ノ公告ヲナシタ
ル者モ亦タ處罰セラル、モノナリ故ニ此公告ノ語ハ裁判所カ公告ヲ
爲シタル新聞社主ニ迄時ノ情況ニ從ヒ其罰金ヲ申渡スヲ允許スル
モノナリ

監督委員ノ未タ就職セサル前ニ於テ會社ノ業務ヲ始メタル支配人モ

亦タ五百フラン以上一萬フラン以下ノ罰金ニ處セラル、モノナリ
左ニ掲クル者モ亦タ同一ノ罰金ニ處ス

一 自己ノ所有ニ屬セサル株式ヲ以テ自ラ所有者ナリト詐稱シ株
主總會ニ於テ遂ニ最多數ヲ組織シタル者但シ場合ニ依リテハ
會社若クハ社外人ニ對シ損害賠償ノ責ヲ免レサルナリ

二 是ノ如キ虚偽ノ處爲ヲ行フノ目的ヲ以テ株式ヲ渡シタル者
右第一及ヒ第二ノ場合ニ於テハ罰金ニ處スルノ外尙ホ十五日ヨリ少
ナカラス六十日ヨリ多カラサル禁錮ニ處スルヲ得ルモノナリ
其他尙ホ重大ナル犯罪ノ處爲ヲナスヲアリ而シテ法律モ之ヲ罰スル
一層嚴酷ナリ

則チ其所爲トハ株式ノ申込若クハ拂込アラサルモ之ヲ偽ハリ若クハ
惡意ヲ以テ無根ノ申込或ハ拂込ヲ公告シ其他申込若クハ拂込ヲ促カ
ス爲メ總テ詐僞ノ所爲ヲ行フヲ云フナリ

右掲クル所ノ犯罪ハ詐僞取財ノ罪ニ處スルモノナリ
 此所罰法ハ株金ノ申込若クハ拂込ヲ促ス爲メ惡意ヲ以テ會社ニ加名
 セサル者ヲ加入シ又ハ加入セントスル者ノ如ク僞テ其姓名ヲ公告シ
 タル者ニモ亦タ之ヲ適用スルモノナリ
 又會社ノ支配人ニシテ財産ノ目錄帳ヲ備ヘズ若クハ詐僞ノ目錄帳ニ
 基キ現存セサル收益金ノ配當ヲナシタル者ニモ同一ノ罰ヲ適用スル
 モノナリ蓋シ是レ支配人ノ犯スチ得ヘキ犯罪中最モ重大ナルモノナ
 レハ法律モ亦タ最モ嚴酷ニ之ヲ處罰セサルヘカラス
 然レモ以上余輩ノ看過シタル場合ニ於ケル如ク此最末ノ場合ニ於テ
 モ酌量減輕ノ情狀アルキハ其刑ヲ輕減スルコトアルヘシ
 千八百五十六年ノ法律前ニ在テハ支配人ト共利益ノ爲メ一同起訴ス
 ル總株主トノ間ニ爭論起リタル時ニ當リ之カ出訴手續ヲ定ムル爲メ
 往々實際上困難ヲ生シタリ乃チ株主ノ多數ナル其所在ヲ知ルノ困難

ナル其住居ノ遠隔ナル等ハ數多ノ時日ト巨額ノ費用ヲ要スルノ弊ヲ
 醸シタリ斯カ故ニ其弊害ヲ矯正スル爲メ千八百五十六年ノ法律編纂
 委員ハ千八百三十六年ノ法律ノ草案中ヨリ委員ヲ以テ裁判所ニ代理
 スルノ手續ヲ採用シタリ
 千八百六十三年ノ法律ハ多少ノ更正ヲ加ヘテ千八百五十六年ノ法律
 條例ヲ再述シタルモノナリ
 千八百六十七年ノ法律編纂者モ亦タ右同一ノ意見ヲ採レリ乃チ少ク
 モ會社資本ノ二十分一ヲ代表スヘキ株主カ其全体ノ利益ヲ謀リ或ハ
 原告トナリ或ハ被告トナリ以テ支配人若クハ監督委員ニ對スル訴訟
 チ爲サントスルトキハ株主ハ自己ノ費用ヲ以テ一名若クハ數名ノ代
 理者ヲシテ裁判所ニ於テ其代理ヲ委任スルチ得ルモノナリ然レモ是
 レ各株主カ各自ノ名義ヲ以テ訴訟ヲ起スコト妨クルモノニアラサル
 ナリ

若シ社員ノ一部ト他ノ一部トノ間ニ起ル所ノ爭論ニ關スルハ前顯ノ出訴手續ヲ遵奉スルヲ得サルナリ此意見ハ余輩カ既ニ數々陳述セシ所ニシテ極メテ精當ナルモノ、如シ而シテ其意見ノ精當ナルヲ証明セン爲メ余輩ハ千八百五十六年ニ該法律ヲ以テ制定シタル社員ノ支配人ニ對スル出訴手續ハ佛國ニ於テハ何人ト雖モ代人ヲ以テ出訴スルヲ得スト云フ規則ノ例外タリト云ヘリ此意見ハ新法ノ立案及ヒ討議ノ時ニ當リ數度顯出シタルモノナリ然レハ一般變例ノ如ク此訴訟手續ハ特ニ之ヲ定メタル場合ノ外他ニ普及スヘカラサルモノナリ又千八百六十七年ノ法律第十七條ニ定ムル特別ノ訴訟手續ハ之レヲ一名ノ社員ヨリ支配人ニ對スル訴件ニ適用スヘカラサルナリ蓋シ右規則ノ目的タルヤ數名ノ株主ヨリ起スヘキ訴訟ヲ一ニ合集シ其訴訟ヲ簡易迅速ニシ且ツ其費用ヲ輕減スルニアレハナリ然レモ若シ一名ノ株主ヨリ訴訟ヲ起シタル時ニ當リ此特別ナル訴訟手續ハ其爭論ヲ

簡易迅速ナラシムルニアラヌシテ反テ之ヲ錯雜ナラシメ且ツ其判決ヲ延滯セシムルニ過キサルナリ

是レ千八百六十六年四月二十六日アンジョー控訴院ニ於テ判決シタル所ナリキ故ニ今日ニ於テモ尙ホ代人ヲ以テ出訴セントスル社員一人ニシテ會社資本金ノ二十分一ヲ代表スルト雖モ此決定ヲ遵守セサルヘカラサルナリ

千八百六十七年ノ法律第一章末段ノ三ヶ條ハ一時ノ規則ヲ掲ケタリ其規則ノ一ハ千八百五十六年ノ法律前ニ創立シタル株式差金會社ニシテ監督委員アラサルモノニハ此法律ノ規則ニ基キ六ヶ月内ニ之ヲ設クヘキノ義務ヲ負ハシメタリ蓋シ是ノ如キ會社ハ極メテ罕レナルヘシ若シ其期限ヲ經過シ尙ホ之ヲ設ケサルハ各株主ハ會社ノ解散ヲ言渡サシムルノ權利ヲ有スルナリ(第十條)他ノ規則ニ於テハ新法頒布以前ニ設立シタル株式差金會社ニシテ其

社則ニ政府ノ允許ヲ以テ無名會社ニ變體セシテ豫定シタルモノハ其變體ノ爲メ社則ヲ以テ定メタル要件ヲ踐ミ新法ノ期限内ニ無名會社ニ之ヲ變換スルヲ許シタリ(第九條) 最後ノ條ハ以上陳述スル所ノ解説中ニ散見スルカ如ク無數ノ駁撃アルニ拘ハラヌシテ千八百六十七年七月二十四日ノ法律ノ基本トナリタル株式差金會社ニ關スル千八百五十六年七月十七日ノ法律ヲ廢止スルモノナリ(第二條)

第五章 無名會社

無名會社ト云フハ社員全ク社外ニ知ラレスシテ其社名ニモ差金會社ノ支配人ノ如ク會社ノ債主ニ對シ無限ノ責任ヲ帶ヒタル社員ノ姓名ヲ公示セサレハナリ一語之ヲ言ヘハ資本金ノ聚合ナリ是ノ如ク單ニ資本金ノ集合ニ過ギサルモ社名ヲ有スルノ妨ケトナラス何トナレハ該會社ト雖モ一個ノ無形人タレハナリ然レモ其社名ニハ其會社業務ノ目的物ヲ用ユルモノニシテ例ヘハ里昂鐵道會社或ハ佛朗西銀行等ト稱スルカ如シ

無名會社ノ差金會社ト異ナル所以ノモノハ無名會社ニ於テハ社員ハ悉ク公衆ノ眼ニ觸レサルモ差金會社ニ於テハ公衆ノ知ラサルモノハ社員ノ一部ニ過ギサルコト是ナリ

無名會社ノ資本金ハ概テ均一ノ株式又ハ部株ニ分ツモノナリ(商第三條) 立法院ニ於テ千八百六十七年七月二十四日ノ法律ヲ討議スルニ當リ商法ニ定ムルカ如ク資本金ヲ均一ノ株式又ハ部株ニ分ツコトハ此法律ニ於テモ之ヲ遵守シ之ヲ維持スル哉且ツ其資本金ヲ均一ノ株式ニ分ツハ無名會社ニ必要ニシテ欠クヘカラサル原則ノ一タルヘキ哉如何ノ問題ヲ議シタリ

或論者ノ説ニハ商法第三十四條ノ規則ハ命令法ナリト 余輩ハ千八百六十七年七月二十四日ノ法律註釋書ニ於テ反對ノ意見

ヲ示シタリ該條ノ規則タルヤ敢テ命令法ニアラス又タ禁止法ニモアラサルナリ

余輩ハ前ニ株式差金會社ヲ説明スルニ當リ如何ナルモノヲ株式ト云ヒ又タ賣買スルヲ得ヘキ株式トナスニハ記名株式無記名株式命令株式ノ間ニ於テ如何ナル區別ヲナスヘキヤヲ陳述シ又株式ハ如何ナル方法ヲ以テ其所有權ヲ移スヘキヤヲ述ヘタリ余輩カ説明シタルモノハ悉ク之ヲ無名會社ノ株式ニ適用スヘキナリ

然レモ余輩カ讀者ノ注意ヲ促サ、ルヘカラサルモノハ千八百六十七年七月二十四日法律第二十一條一項ハ無記名株式ノ体制及ヒ其移轉ノ手續ヲ示ス所ノ第三十五條ニ送リテ爲サス且ツ第四十七條第二項ハ之ヲ廢止セサルコトナリ

此欠文ハ之ヲ辨明スルヲ得ヘシ千八百六十七年ノ法律ハ差金會社ニ於ケルカ如ク無名會社ニ於テモ無記名株式ヲ發行スルコトヲ許シタリ

然レモ會社ノ始メニ於テ之ヲ許サス該法第三條ニ定メタル手續ニ從フニアラサルハ無記名株式ノ發行ヲ准許セサルモノナリ

千八百六十七年ノ法律討議ノ時ニ當リ株式ハ會社ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ之ヲ讓渡スヲ得サルコトヲ會社規約ヲ以テ定ムルヲ得ルヤ如何ノ問題顯出シタリシカ當時ノ國務卿ハ之ヲ是認シタリ余輩モ亦株式ノ讓渡ヲ會社ノ承諾如何ニ據ラシムルヲ得ヘシト思考ス况ンヤ法律中ニ於テ其實例アルニ於テオヤ

又余輩ノ意見ニハ無名會社ノ株主ノ証券ハ會社ノ規約ヲ以テ讓渡スヘカラサルモノト定ムルヲ得ルモノナリ然レモ此意見ハ頗ル駁撃ヲ受ケタリ

反對論者ノ說ニ曰ク若シ讓渡スヘカラサル株式ヲ發行スルキハ無名會社ノ資本金ハ之ヲ株式即チ性質上讓渡スヲ得ヘキ証券ニ分ツヘキ旨記載スルトコロノ商法第三十四條ニ違背スルモノナリ

尙ホ之ニ附言シテ曰ク會社ノ資本金ヲ株式ニ分ツハ無名會社ニ避ク
 ヘカラサルモノナリ是レ即チ卓織ナル諸家ノ常ニ決定シタル所ナリ
 又該法討議ノ時ニ當テハエミール、オリビエー氏此說ヲ主張シタリ
 國務卿ハ反對說ヲ維持シタリ而シテ余輩モ亦タ株式ヲ讓渡スヘカラサ
 ルモノトスルハ法律上有効ノ契約タルヘキハ敢テ疑ヲ容レサルナリ
 其契約ハ毫モ社會ノ秩序ニ背反スルモノニアテサルナリ反對論者カ
 論據トスル商法第三十四條ニ至リテハ余輩カ既ニ陳述セシ如ク其法
 文禁止法ニアラサルナリ

余輩ハ株券ノ讓渡ヲ會社ノ承諾如何ニ據ラシムルヲ得ルモノト斷定
 シタリ然リ而シテ此約束ト夫ノ之ヲ觀レハ株式ヲ讓渡スヘカラサルモ
 ノトナス規約トハ其間大ナル懸隔アラサルナリ

民事會社若クハ商事會社ニ於テ各社員若クハ社員中ノ或者其割前チ
 他人ニ讓渡スチ得ヘキ旨契約スルヲ得ルカ如ク亦タ無名會社ニ在テ

モ申込人ノ証券ヲ讓渡スヘカラサルモノトナスノ契約ヲ爲スニ於テ
 何ソ妨ケアラシヤ一語之ヲ言ヘハ株式ヲ讓渡スチ得ルト讓渡スヘカ
 ラサルトハ契約ノ常性ニシテ敢テ必要ノ本性ニアラサルナリ

前顯ノ問題ノ利益タルヤ要スルニ千八百六十七年七月二十四日法律
 第二章ノ規則ハ無名會社ニシテ其規約ヲ以テ申込人ノ証券ハ讓渡ス
 ヘカラサルモノト定メタル會社ニ適用スヘキ哉如何ヲ知ルニ在ルナ
 リ

此點ニ付テハ異說アルヘシト雖モ余輩ハ註釋書ニ於テ之ヲ是認シタ
 リ而シテ會社ノ規約書中ニ其契約アリト雖モ余輩カ下文ニ説明スル
 所ノ無名會社ノ規則ニシテ苟モ讓渡スヘカラサル規約ニ抵觸セサル
 モノハ悉ク遵奉セサルヘカラサルノ意見ハ固ク執ル所ナリ元來千
 八百六十七年ノ法律ハ其法意擴濶ニシテ更ニ區別スル所アラサルナ
 リ該法律規則ハ立法者カ社外人若クハ社員ノ權利ヲ擔保スルノ精神

ヲ以テ設ケタル保護ナリ故ニ會社ノ株式ヲ讓渡スヘカテサル時ト雖
 此之ヲ讓渡スヲ得ヘキ場合ト均ク社外人若クハ社員ヲ保護セサルヘ
 カテサルナリ

商法ハ制定スル所ニ據レハ無名會社ハ政府ノ准許ヲ得且其結社証書
 ノ允可ヲ得ルニアラサレハ成立スルコト能ハサリシナリ
 商法編纂委員ハ資本ノ集合ナル無名會社ニ於テハ一身上ノ責任ヲ有
 スルモノアラス又結社契約ヨリ起ル所ノ責任ハ其會社ノ資本金額ニ
 止マルヲ以テ社外人若クハ社員ノ利益ヲ保護スル爲メ無限責任ハ代
 リニ他ノ條件即政府ノ准許ヲ命スルヲ必要ナリト思考セシモノナリ
 斯カ故ニ政府ハ其准許ヲ請願スル者ニハ信憑ヲ置クニ足り且ツ其業
 務ハ成功ノ望アルモノト認定シタル時ニアラサレハ之ヲ許可セサリ
 シナリ其他會社ノ創立規約ヲ監査シ又其規約ノ實踐ヲ監督セシモ同
 一ノ目的ニ出テタルモノナリ

千八百六十七年七月二十四日ノ法律編纂委員ハ政府ノ許可ヲ經スシ
 テ無名會社ヲ創立スルモ亦タ政府ノ監督ヲ受ケスシテ之カ業務ヲ管
 理スルモ敢テ弊害アルニアラス又危險アルニアラス故ニ政府ノ干渉
 ニ換ユルニ適當ナル法律規則ヲ以テセハ社員并ニ社外人ノ利益ヲ調
 和シ保護スルニ足ルヘシト思考シタルモノナリ
 是ヲ以テ爾來無名會社ハ政府ノ准許ヲ要セス其業務ハ聊カ政府ノ監
 督ヲ受ケサルナリ而シテ此結果ハ商法第三十七條ヲ廢止シタル千八百
 六十七年七月二十四日法律第二十一條一項及同第四十七條第二項ニ
 記載シタリ

又商法ノ制定スル所ニ依レハ無名會社ハ公正ノ証書ヲ以テスルニア
 ラサレハ之ヲ設立スルヲ得サルモ新法ニ於テハ私署ノ証書ヲ以テ之
 ヲ設立スルヲ得ル者ナリ且ツ社員ノ多少ヲ論セス二通ノ原本ヲ以テ
 足レリトス(一) 律第四百六十七年七月二十四日(二) 項

余輩カ曩ニ陳述セシ如ク無名會社ニ於テハ差金會社ノ如ク當然會社ノ支配ヲ爲ス可キ人アラサルヲ以テ其業務ヲ支配スル爲メ代人ヲ撰任セサルヘカラス

無名會社ノ支配人ハ會社ヨリ委任ヲ受ケタル普通ノ代理人タルニ過キサレハ隨意ニ解任スルヲ得ルモノナリ(第一千八百七十六年法律第二十八百七十六條一項)

其支配人ヲ解任スルヲ得ルハ無名會社ノ本姓然ラシムルヲ以テ之ヲ變スルヲ能ハサルモノナリ乃チ支配人ハ會社ニ從屬スヘキモノニシテ會社カ支配人ニ從屬スヘキニアラサルナリ若シ解任スルヲ得サルキハ支配人ハ主トナリ會社ハ從タルニ至ルヘキナリ

結社契約後ニ至リ支配人ニ撰任サレタルモノニ限り隨意ニ解任スルヲ得ルノミナラス結社證書ヲ以テ任撰シタル者ヲ解任スルニ當テモ敢テ其理由ノ正當ナルヲ證明スルヲ要セサルナリ是レ結社證書ヲ以テ撰任シタル支配人ヲ解任スルニ當リテハ正當ノ理由ヲ證明スルニ

アラサレハ許可セサル所ノ民法第千八百五十六條二項ノ原則ニ反スルモノナリ千八百六十七年七月二十四日ノ法律第二十二條ハ結社證書ヲ以テ支配人ヲ撰任シタル場合并ニ其後ニ至リ之ヲ撰任シタル場合ヲ包含スルモノナリ

反對論者ノ説ニ據レハ結社證書ヲ以テ任撰シタル支配人ヲ解任スル爲メニハ正當ノ原因ヲ證明セサルヘカラス其説ニ曰ク支配人タル社員ノ意思ニ在リテハ會社ヲ支配スルノ條約ハ結社契約ヲ完結シタル要件ニシテ其之ヲ承諾シタルモノハ明日隨意ニ解任シ以テ其會社規約ノ一ヲ廢滅スルヲ得サルナリト

支配人ハ任期ヲ限ルニアラサレハ代理ヲ承諾スル能ハサルモノニシテ法律ハ之ヲ稱シテ有期代理者ト云ヘリ(一千八百六十七年七月二十)元來無名會社ノ社員ハ性質上絶ヘス變更スルモノナレハ代理ヲ委託シタル本人既ニ一變シタルニ拘ラス代理人ノ權限ヲ尙ホ永遠ニ及ホ

スヘカヲサルナリ是ノ如ク代理者任期ノ制限ハ之ヲ解任シ得ヘキトハ全ク異ナリタル保護法ニシテ支配人ハ其再任ヲ請求シ且ツ其管理ハ頗ル會社ニ利益アリタルヲ證明セサルヘカラス
 法律ニ曰ク支配人ハ俸給ヲ受ケ又ハ無給タルモノナリト(一千八百六十二年七月二十四日法律第一項)此法文タルヤ方今既ニ廢止サレタル商法第三十一條ヨリ取りタルモノニシテ新法律ニ於テハ之ヲ刪除ス可キモノナリ何トナレハ是レ全ク無用ノ法文タレハナリ
 支配人ハ社員中ヨリ撰任スルモノナリ(一千八百七十二年七月二十日商法ニ於テハ之ヲ社外人ヨリ撰任スルヲ許可セリ)
 蓋シ會社ノ利益ニ與カルモノハ之ヲ社外人ニ比スレハ一層刻苦黽勉注意シテ其業務ヲ行フヘキヲ以テ千八百六十七年ノ法律ハ直接ニ會社業務ノ効績如何ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルモノニアラサレハ會社ノ支配ヲ委托スルヲ欲セサルナリ

然レモ是ノ如ク撰任ノ區域ヲ制限スルニ於テハ社外人ニシテ從來ノ經驗ニ由リ會社ノ爲メ貴重ナル人アリト雖モ之ヲ用ユルノ便ヲ失フヲ以テ法律ハ若シ會社ノ定款ニ背カサルキハ支配人ハ社外人ヲ以テ其代理者トナスヲ許シタリ而シテ社外人ノ過失ハ支配人其責任ヲ負擔セサルヘカヲサルナリ(一千八百六十七年七月二十日法律第二十七條第二項)
 支配人ハ會社ノ代表者ナリ然レモ契約スルニ當リ其權限ハ更ニ普通ノ代理人ト異ナラサルナリ故ニ契約書ニハ會社ノ名義ヲ以テ署名シ且ツ代理人タルカ故ニ自ラ義務ヲ負擔セスシテ會社ヲシテ其義務ヲ負ハシメ其代理ヲ委托サレタル事業ヲ實施スルノ責任アルニ止マリ社外人ハ會社ニ向ツテ訴權ヲ有スルノミニシテ支配人ニ對シテハ更ニ訴權ヲ有セサルナリ(商法第三十二條)
 無名會社ニ於テハ總社員ハ株式會社ニ在ル金主ノ如ク其會社ニ有スル資金ノ外他ニ損失ヲ受ケサルモノナリ(商法第三十二條)

無名會社ニ於テモ株式會社ト同一ノ問題起レリ第一會社ノ權利者ハ直接ノ訴權ヲ以テ社員ノ差入金ヲ要求スルヲ得ル哉第二社員ノ受領シタル利益金ハ再ヒ之ヲ債主ニ返還セサルヲ得サル哉如何此疑點ニ付テハ差金會社ト同一ノ判斷ヲ下サ、ルヘカラス

無名會社ニ於テハ無限ノ責任ヲ負フ者アラズ各社員ハ其差入金高ノ外責任ヲ負擔セス其會社ヲ設立スルニモ政府ノ准許ヲ受クルヲ要セス又其業務ハ政府ノ監督ヲ受ケサルヲ以テ立法者ハ社外人并ニ其社員ノ利益ヲ保護スルニ適當ナル規則ヲ制定スルノ必要ヲ感シタリ是レ則チ余輩カ今縷述セントスル千八百六十七年七月二十四日法律(第二章)ニ定ムル所ノ規則ナリ

千八百六十七年七月二十四日ノ法律ハ最初ニ無名會社ノ組織ヲ定メタリ

此法律無名會社ヲ創立スルニハ七名以上ノ社員ヲ要求セリ若シ此定

數以下ナルハ合名會社又ハ差金會社ヲ設立スヘキモノナリ

余輩カ差金會社ノ部ニ於テ詳説シタル株式ノ金高會社資本ノ申込及ヒ株式金高ノ四分一ヲ各社員ヨリ拂込ムル會社資本ノ申込及ヒ拂込ノ證明并ニ支配人ヨリ差出ス申述書ニ添ユヘキ書類等ニ關スル規則ハ悉ク之ヲ無名會社ニ適用セリ然レモ無名會社ニ於テハ其申述書ハ創立委員ヨリ差出シ之ニ添ユヘキ證明書類ト共ニ第一回ノ株式總會ニ提出シ該會ニ於テ其眞否ヲ審査スルモノナリ

又法律ハ株式ノ体制申込人及ヒ讓受人ノ責任、株式ノ賣買前後二回ノ株主總會ニ於テ定ムヘキ差入金及ヒ特別利金ノ認諾等ニ關スル差金會社ノ規則ハ之ヲ無名會社ニ適用シタリ然レモ該總會ニ於テ議決ヲ爲スニ必要ナル多數決ヲ採ルノ方法ニ至リテハ自ラ差アルナリ余輩他日之ヲ説明セン

終ニ無名會社ニ於テハ差金會社ニ於ケルカ如ク第二回ノ株主總會ニ

於テ差入金并ニ特別利金ノ認諾ヲ得タル後ニアラサレハ其會社成立セサルモノナリ尙ホ第一回ノ支配人并ニ監督委員ヲ撰任シ共ニ其職ヲ承諾スルニアラサレハ會社ハ未タ確然成立セシモノニアラサルナリ

評價スヘキ差入物ノ有無ヲ問ハス會社資本ノ申込及ヒ金圓ニテ資本四分一ノ拂込アリタルヲ証明スヘキ證書ヲ調成シタル後會社創立者ハ必ラス株主總會ヲ招集セサルヘカラス該會ニ於テハ第一回ノ支配人ヲ撰任シ尙ホ第一年期ノ監督委員ヲ任命スルモノナリ

會社ノ支配人及ヒ監督委員ヲ任命スルハ極メテ緊要ナル事件ナレハ株主總會始末書ニ之ヲ登錄ス

支配人ノ任期ハ六ケ年以上タルヘカラス然レモ若シ會社ノ定款ヲ以テ禁止セサルキハ之ヲ再撰スルヲ得ルモノナリ

支配人ノ任撰ハ專ラ之ヲ株主總會ニ放任シタリ然レモ會社支配人ノ

撰任ヲ株主總會ノ認諾ニ附セサルノ明約ヲ以テ會社ノ定款ニ第一回ノ支配人ヲ指定スルヲ得ヘシ

前項ノ規則ニ基キ創立者ハ會社ノ定款ヲ以テ自ラ其支配人トナリ或ハ他ニ會社業務ノ成効ヲ確ムルニ適當ナリト認定シタル人物ヲ支配人ニ撰任スルヲ得ルモノナリ

是ノ如ク會社ノ定款ヲ以テ撰任シタル支配人ノ權限ハ三ケ年以外ニ出ツルヲ得ス

又其支配人ハ會社ノ定款ヲ以テ定ムル如ク多少ノ株式ヲ所持セサルヘカラス而シテ其株式ハ悉ク其管理事務ハ勿論特ニ支配人中一名ニ係ル事業ト雖モ其保証ニ充ツルモノナリ

此株式ハ記名株式トナシ讓渡スヘカラス由テ記載シタル印標ヲ押捺シ且ツ會社ノ金匱ニ保存スルモノトス

此保証金ノ中各支配人ノ所持スル株式ノ割合ハ均一ナラサルヲ得ヘ

シ然レモ保証金ハ管理ノ全体ニ由リ又ハ各個ノ所爲ニ由リ生シタル損害ノ賠償ニ充ツルヲ以テ是ノ如キ規則アルモ敢テ弊害アラサルナリ(一千八百六十七年七月二十四日法律第二十六條)

此保証金ハ社外人并ニ會社ニ安寧ヲ與フルニアルモノナリ法律ハ支配人カ一身ノ利益ト會社ノ利益トノ間ニ介在スルヲ欲セサルヲ以テ特ニ株主總會ノ許可ヲ受ルニアラサレハ會社ノ爲メ又ハ會社ト爲ス場合若クハ辨用ニ付キ躬ヲ直接若クハ間接ニ利益ヲ有スルヲ禁止シタリ

然レモ此禁止ノ及フ所ハ各個ノ取引ニ非スシテ訴用若クハ請合ニ關セリ故ニ數月ニ渉ル數回ノ事業又ハ用達ニ非スシテ一回ノ取引ヲナスニ至リテハ其ノ緊切如何ニ拘ラス法律ノ許ス所ナリ此外支配人ハ年々株主總會ニ該會ノ准許ヲ受ケタル請合又ハ辨用ノ實施ニ關スル特別計算書ヲ差出スヘシ(一千八百六十七年七月二十四日法律第四十七條)

余輩カ曩ニ陳述セシ如ク無名會社ノ支配人ハ普通ノ代理者ナリ故ニ會社ノ名義ヲ以テ契約ヲ爲スト雖モ毫モ自ラ義務ヲ負ハサルモノナリ

方今支配人ハ株主中ヨリ撰任スルト雖モ躬ヲ義務ヲ負擔セサル所以ノモノハ蓋シ株主タルノ資格ト支配人タルノ資格ト取テ混淆スルヲアラサレハナリ支配人ハ社員タルモ之カ爲メ決シテ其差入金高外ニ於テ義務ヲ負擔セス又支配人タルノ資格ニテモ會社ノ爲メ自カラ其名義ヲ以テ爲シタル契約ニ付テハ躬ヲ主タル義務モ又從タル義務モ負擔セサルナリ

然レモ此一身上ノ無責任ハ代理ヲ委托サレタル事業ヲ誠實ニ實行シタルヲ要スル者ニシテ若シ其委任サレタル事業ヲ實施セサルカ或ハ其權限ヲ越ヘタルキハ支配人ハ其代理ノ任ヲ實行セサルカ爲メ若クハ其越權ノ處爲ニ付テハ會社ニ對シ又ハ第三者ニ對シ一身上無限

ノ責任ヲ負ハサルヘカラス
 又支配人ハ普通法ノ原則ニ從ヒ千八百六十七年ノ法律規則ニ違背シ
 或ハ其社務管理中ニ爲シタル過失ニ付テハ事ノ情況ニ從ヒ各自別々
 ニ若クハ連帶シテ責任ヲ負ハサルヘカラス
 支配人カ爲ス所ノ過失中ニ於テ殊ニ立法者ノ注目シタルモノ一アリ
 即チ支配人カ無實ノ配當ヲ分配シ若クハ其分配ヲ抗拒セスシテ規則
 ニ背反スルコト是レアリ而シテ之ヲ分配スルニ當リ惡意ナシト雖モ尙
 ホ其責ニ任スルナリ
 此責任ハ支配人一同ニ之ヲ負ハシメ自ラ不法ナル配當ニ干涉セサル
 者ト雖免カル、能ハス是レ蓋シ利益金配當ノ如キ重要ナル事件ハ全
 ク社務ノ管理ヲ擔任シタル者一同ニテ之ヲ行ヒタルモノト看做スニ
 由ルナリ而シテ其責任ヲ免レント欲スル者ハ明カニ之カ故障ヲ爲サ
 サルヘカラス

無名會社ノ利益ヲ監督スルハ株主ノ多數ニ屬スルモノニシテ株主ハ
 委員ヲ撰ミ代人ヲ以テ監督ヲ行フモノナリ
 監督委員ハ年々株主總會ニ於テ社員中若クハ社外人ヨリ之ヲ任撰ス
 ルモノナリ若シ株主總會ニ於テ任撰セサルキ又ハ該會ニ於テ指定シ
 タル者故障アリ或ハ之ヲ拒ム場合ニ於テハ關係者ノ要求ニ依リ支配
 人ヲ呼出シタル上會社所在ノ商事裁判所長ノ命令ヲ以テ其任撰ヲ行
 フモノトス
 株主總會ヲ開ク爲メ會社定款ヲ以テ定メタル期限前ニ係ル三ヶ月間
 ハ該委員ニ於テ會社ノ利益ヲ謀ルニ適當ナリト認定シタルキハ會社
 ノ帳簿ヲ閱覽シ且ツ其業務ヲ檢査スルノ權列ヲ有スルモノナリ
 該委員ハ年々支配人ヨリ提出シタル報告書及ヒ計算書并ニ會社ノ狀
 況ニ關シ株主總會ニ報告書ヲ差出スノ任アルモノナリ若シ其報告ヲ
 爲サ、ル前ニ支配人ノ報告書及ヒ計算書ヲ認可シタル議決ハ更ニ其

効ナカルヘシ

以上讀者ノ視ルカ如ク該委員ハ絶ヘズ社務ヲ監督スルニアラサルヲ以テ該委員カ其監督ヲ行フ期節外ニ於テ至急株主總會ヲ開クノ必要起ルコトアリ是ノ如キ至急ノ場合ニ於テハ委員ハ常ニ之ヲ招集スルヲ得ルモノナリ(日一千八百六十七年七月二十四日法律第二十三條)

監督委員ハ株主ノ代理者ナリ而シテ該委員ハ年々之ヲ改撰シ且ツ三月間ニアラサレハ其監督ヲ行フ能ハサルヲ以テ其權限狹隘ニシテ且ツ其期限短キモノナリ

其責任ハ之ヲ差金會社ノ監督委員ニ比スレハ一層輕クシテ普通ノ代理規則ヲ以テ之ヲ定ム該社員ハ其職ヲ行フニ當リ共ニ犯シタル過失ヨリ生シタル損害ニ付テハ連帶責任ニアラスト雖モ各自全部ニ付キ賠償ノ責ニ任ス

今ヤ余輩ハ以上ノ規則ト均シク社外人及ヒ會社ヲ保護スルヲ以テ目

的トスル所ノ他ノ條例措置ヲ述ヘントス

第一法律ハ支配人ニ毎週會社ノ財産及ヒ負債ノ略表ヲ調製スルノ義務ヲ命シタリ此至當ノ規則ハ支配人ノ爲メ有益ニシテ且ツ監督委員社務ヲ監督スルニ大ニ便利ヲ與フヘシ

又タ支配人ハ商法第九條ノ明文ニ基キ各商人カ調製スルノ義務アル所ノ財産目錄帳ヲ年々調製セサルヘカラス

其目錄帳報告書及ヒ損益計算書ハ遅クモ株主總會ヲ開ク四十日前ニ監督委員ニ渡スヘシ是レ該委員ニ於テ之ヲ檢査シ且ツ委員カ其書類ニ基キ株主總會ニ提出スヘキ報告書ヲ調製スルニ必要ナル材料ヲ採收スルノ時日ヲ與フルカ爲メナリ(一千八百六十七年七月三十一日法律第三十四條)

第二其他株主ハ株主總會ヲ開ク十五日前ニ會社ニ至リ財産目錄帳及ヒ株主姓名録ヲ閱讀シ財産目錄帳ヲ畧記シタル報告書ノ寫及ヒ委員ノ報告書ノ寫ヲ渡サシムルヲ得ルモノナリ(一千八百六十七年七月三十一日法律第三十七條)

第十五條 故ニ株主ハ總會ニ於テ投票ヲ爲スノ前既ニ會社ノ情況如何ヲ
確知スルニ餘アリト云フヘキナリ

第三他ノ規則ハ準備金ヲ貯蓄スルコト是レナリ蓋シ以前ニ在テハ概
テ無名會社ノ定款ヲ以テ之ヲ定メタリ故ニ年々純益金ノ二十分一
ヲ扣除シ以テ準備金トナセリ若シ準備金ノ高會社資本ノ十分一ニ
至リタルキハ純益金ヲ扣除スルノ義務ハ止息スルモノナリ（一千八百

七年七月二十四日
法律第三十六條）

第四會社資本ノ四分ノ三ヲ失ヒタル場合ニ於テハ支配人ハ株主總會
ヲ開キ以テ會社ヲ解散スヘキヤ如何ヲ決セシムルノ義務アルモノ
ナリ此他會社カ非常ニ其資本金ヲ減シタルキハ全ク倒産ニ至ラサ
ル前ニ其營業ヲ停止スルヲ槩子得策トス
株主總會ニ會社解散ノ問題ヲ提出スヘキハ會社カ實際醜集シタル
資本ノ四分一ヲ失ヒタル場合ニアラスシテ會社資本申込高ノ四

分一ヲ損失シタル場合ヲ云フモノナリ編纂委員ハ前ニ述ヘタル如
キ改正案ヲ提出シタリシモ採用セラレサリキ

株主總會ハ會社ヲ解散ス可キヤ如何ノ問題ヲ受クルモ之ヲ解散セ
サルヲ得ルハ法律ノ認許スル所ニシテ宜シク注目セサルヘカラス
會社ノ業務ノ種類ニ據リ假令ヒ其資本金四分一ニ減スルモ必シモ
其業務ヲ繼續スルヲ能ハサルノ理由トナラサルヲアリ現ニ鑛山事
業ノ如キハ其資本金四分一ニ減スルモ其營業ヲナスヲ得ヘキニ却
テ損失恢復ノ時期ニ臨ミ其業ヲ停止スルハ嚴酷ニ失スルヲアラソ
株主總會ノ決議ハ必ス之ヲ公布セサルヘカラス而シテ正當ニ總會ヲ
組織セサル場合ニ於ケル如ク支配人ニ於テ之ヲ招集セサルキハ凡
ソ會社ニ關係アル者ハ裁判所ニ出テ其解散ヲ請求スルヲ得ヘシ（一
八百六十七年七月二十
四日法律第三十七條）
第五無名會社ヲ組織スル爲メニハ七名ノ社員ヲ要スルモノト定ム

ルヲ以テ若シ社員七名以下トナリ會社ノ株式五名若クハ六名ノ手ニ歸シタル後チ一ケ年ヲ經過シタルキハ其關係者ノ請求ニ基キ會社ノ解散ヲ申渡スヲ得ルモノナリ(一千八百六十七年七月二)裁判所ハ宜シク時ノ情况及ヒ解散ノ當否ヲ査定スヘシ

會社ノ定款ヲ以テ定メタル期節ニ年々必ラス株主總會ヲ開カサルヘカラス(一千八百六十七年七月二十)年々ノ株主總會ハ通常會ニシテ該會ニ於テハ前年間ニ經理シタル事項ヲ株主ニ報告スルモノナリ又余輩カ囊ニ陳述セシ如ク監督委員カ其報告ヲナシ計算書ノ正否ヲ承認シ且ツ配當利金ヲ定ムルモ亦タ該會ニ在ルモノナリ

年々ノ總會ノ外尙ホ株主總會ヲ開設スルコトアリ一ハ會社創立ノ際ニ招集スルモノニシテ一ハ會社成立間ニ開クモノナリ

第一ノ株主總會ニ於テハ差入物ヲ検査シ當初ノ支配人ヲ撰任シ會社創立者ノ申述書ノ誠否如何ヲ検査スルモノナリ

第二ノ株主總會ハ會社定款ノ改正定款ヲ以テ定メタル期限外ニ之レヲ繼續スルコト若クハ會社ノ終期前ニ之レヲ解散スル等ノ發議ヲ討議評決スル爲メ開クモノナリ此區別ヲ立ツルハ甚タ緊要ニシテ讀者宜シク遺忘スルコト勿レ

是ノ如ク株主總會ノ別アリト雖モ該會ハ都テ多數決ヲ以テ其議事ヲ決スヘキ原則ニ違カハサルヘカラス是レ都テ評議會ニ適用スヘキ一般ノ規則タリ

而シテ株主總會ニハ出席帳ヲ備置キ株主ノ姓名住居及ヒ各株主ノ所持スル株主金高ヲ之ニ記載スヘシ

該帳ハ總會ノ理事員ニ於テ確証シタル上會社ニ備置キ請求スル者アルキハ之ヲ閲讀セシメサルヘカラス(一千八百六十七年七月二)是レ往々株主總會ヲ招集スルニ詐僞ヲ用ユルヲ以テ之ヲ豫防セント欲スルニアルナリ

凡ソ株式ヲ所持スル者ハ何人ト雖モ總會ニ出席スルヲ得ル哉各投票者ノ有スル投票權ノ數ハ幾許ナル哉總會ノ議決有効ナル爲メニハ其會議ニ臨席シタル株主ノ所持スヘキ株式金額ハ會社資本金ノ幾許ニシテ足レル哉其評議ノ有効ナルニ必要ナル資本金額ヲ所持スヘキ株主會合セサルモ如何ナル規則ヲ遵守スヘキ哉

以上掲クル所ノ四問題ハ千八百六十七年法律ヲ以テ之ヲ決定シタリ既ニ會社ノ創立シタル時ニ當リ招集スル株主總會ニ關スルモ悉ク株式所有者ノ臨席ヲ許スモノニアラス該會ニ臨席シ且ツ評議ノ權ヲ有スルニ必要ナル株式金額ハ會社ノ定款ヲ以テ定ムルモノナリ(第二條一)然レモ若シ差入物ノ認諾第一回ノ支配人及ヒ監督委員ノ撰任ニ關スル總會ナルモハ株主タルモノハ其所有株式金高ノ如何ヲ問ハス其評議ニ與ルヲ得ルモノナリ(第二十七條二項)

第二ノ問題ハ各員カ該總會ニ於テ有スヘキ投票ノ數ハ幾許ナルカヲ

知ルニアルナリ而シテ法律ハ各社員ニ屬スル投票ノ數ハ其ノ所持スル株式金額ニ割合ハセ會社ノ定款ヲ以テ定ムルモノトナセリ故ニ投票ハ人頭ヲ以テ計算スルモノニアラスシテ各社員カ會社ニ有スル所ノ利益ニ割合ハセ之ヲ定ムルモノナリ

各投票者ノ有スヘキ投票ノ數ハ其所持スル株式金高ニ割合ハセ會社ノ定款ヲ以テ之ヲ定ムルノ自由ヲ與ヘタリト雖モ法律ハ差入物ヲ檢査シ第一回ノ支配人ヲ撰任シ或ハ會社創立者ノ申述書ノ誠否如何ヲ檢査スル所ノ株主總會ニ關シテハ其自由ヲ制限シタリ此場合ニ於テハ全ク自由ナルニアラスシテ社員中最モ多數ノ株式ヲ所持スル者ト雖モ定款ヲ以テ之ニ十點以上ノ投票ヲ與フルヲ許サ、ルナリ蓋シ法律ハ金額ヨリ寧ロ人ヲ重シタルモノニシテ巨額ノ資本ニ對シ少額ノ資本ヲ保護スルニアルナリ

株主總會ノ決議有効ナルカ爲ニハ各投票者ノ所持スヘキ資本金高幾

許ナルヲ要スルヤ如何ノ問題ニ至リテハ以下ノ區別ヲナサ、ルヘカ
ラス

若シ株主ノ通常會ニ關スルキハ會社資本金四分一ヲ代表スヘキ社員
ノ員數ニシテ足ルモノナリ

然レモ若シ差入物ノ検査、會社創立者ノ申述書ノ誠否如何ヲ檢定シ又
ハ第一回ノ支配人ヲ撰任スル爲メ株主ヲ招集シタル總會ニ關スル時
若クハ會社定款ノ改正、會社ノ繼續若クハ期限ニ至ラサル前ニ會社ヲ
解散スル等ノ評議ヲ開ク爲メ招集シタル總會ニ關スルキハ少クモ會
社資本金ノ半額ヲ代表スヘキ社員ノ會合ヲ要スルモノナリ
若シ株主總會ノ評議有効ナルカ爲メ必要ナル資本高ヲ代表スル株主
會場ニ在ラサルキハ如何ナル手續ヲ遵奉スヘキ哉

此問題ヲ決スル爲メニハ法律ト共ニ左ノ三種ノ場合ヲ參觀セサルヘ
カラス

第一ノ場合、年々ノ通常株主總會ヲ開キタルニ會社資本金ノ四分一ヲ
代表スヘキ株主會合セサリシナリ

依テ會社定款ヲ以テ定メタル期限ニ於テ規定ノ手續ヲ踐ミ新ニ株主
總會ヲ招集セリ而シテ該會ノ決議ハ臨席株主ノ代表スヘキ資本金高ノ
多少ニ拘ラス法律上効力ヲ有スルモノナリ(第二十九條)

第二ノ場合、差入物件ヲ検査シ第一回ノ支配人ヲ撰任シ會社創立者ノ
申告書ノ正否ヲ検査スル爲メ株主總會ヲ招集シタリ

若シ該會場ニ會社資本金ノ半額ヲ代表スヘキ株主會合セサルキハ該
會ニ於テハ只タ假リ議決ヲ爲スヲ得ヘシ然リ而シテ新クニ總會ヲ開ク
モノニシテ開會期一ヶ月前ニ法律上ノ公告ヲナスヘキ新聞紙ノ一ニ
八日間ヲ隔テ兩度廣告ヲ掲載シ以テ第一回ノ總會ニ於テ採用シタル
假議決ヲ普ネク株主ニ知ラシムルモノナリ而シテ若シ新ニ開キタル總
會ニ於テ會社資本金五分一ヲ代表スヘキ株主其假議決ヲ承認シタル

其ハ確定ノ議決トナルモノナリ(第三項十條)

第三ノ場合會社定款ノ改正規定ノ期限外ニ會社ヲ繼續シ或ハ之レヲ期限前ニ解散セントスルノ發議ヲ評決スル爲メ株主總會ヲ開キタリ此場合ニ於テハ會社資本金ノ半額ヲ代表スヘキ株主ヲ以テ總會ヲ組織スルニアラサレハ其議決ハ有効ナラサルモノナリ(第三十一條)

法律ニハ明文ナシト雖モ最初ノ總會ニ會社資本金半額ヲ代表スヘキ株主アラサルヲ以テ決議ヲ終ハラサルキハ新ニ株主總會ヲ開クヲ得ルモノナリ然レモ其議決ノ有効ナル爲メニハ該會モ最初ノ總會ト同様ノ要件ヲ遵守スヘキモノニシテ會社資本金ノ半額ヲ代表セサルヘカラス

法律ニ定メタル緊切ナル規則ヲ遵奉セサル場合ニ於テハ株式差金會社ニ關シ定メタル制裁法ト同一ノ制裁アリ即チ會社契約ノ無効タルト是ナリ(一千八百六十七年七月三十一日法律第四十一條)

余輩カ曩ニ株式差金會社ノ規則ヲ説明スルニ當リ列舉セシ會社契約ノ無効タル場合ノ外尙ホ無名會社ニ付テハ左ノ場合ヲ加ヘサルヘカラス

- 一 會社ニ於テ撰任シタル支配人有期代理人ニアラサルキ或ハ之ヲ解任スヘカラサルキ若クハ支配人カ社員ニアラサルキ
- 二 七名以下ノ社員ヲ以テ無名會社ヲ組織シタルキ
- 三 創立者ノ申告書及ヒ之ニ添ユヘキ書類ヲ株主總會ニ差出サ
ハリシキ
- 四 第一回ノ支配人及ヒ監督委員ヲ撰任スル爲メ必要ナル手續及ヒ條件ヲ遵守セサルキ
- 五 支配人及ヒ監督委員ニ於テ其職ヲ承諾セサル前ニ會社ヲ創立シタルキ

會社契約ノ無効ノ性質及ヒ其効果ハ株主差金會社ノ無効ト同一タル

へキナリ

會社契約ノ無効トナリタル結果ハ其之ヲ釀シタル者ノ責ニ皈スルモノナリ創立者ノ過失ニ歸スルキハ創立者ハ其責任ヲ負ヒ其由テ生シタル損害ヲ賠償セサルヘカラス他ノ一方ニ在リテハ法律ハ支配人ノ責任ヲ會社無効トナリタル時現ニ在職ノ者ニ限レリ元來創立者ハ會社無効ノ直接構成者タルヲ以テ其責任ヲ負ヒ支配人ハ法律ノ違背ヲ防過スルヲ得ヘキニ反ツテ之ヲ傍觀シタルヲ以テ其責ヲ免カレサルナリ

是ノ如ク兩者共ニ過失アルヲ以テ法律ハ其過失ヨリ損害ヲ蒙リタル第三者ニ對シ創立者及ヒ支配人一同ニ連帶ノ責任ヲ負ハシメタリ但シ株主モ其權利ヲ行フニ妨アルコトナシ
此連帶ノ責任ハ差入物件若クハ利益ヲ檢定認諾セシメサル社員ニ迄モ及ホセリ

然レモ其連帶責任ヲ申渡スト否トハ裁判官ノ檢察如何ニ在ルモノナリ

株式差金會社ニ於テ新法カ准許スル所ノ代理人ヲ以テ裁判所ニ出訴スルノ手續ハ無名會社ニ於テモ亦タ緊要ニシテ且ツ同一ノ利益アルモノナリ

故ニ會社資本金ノ二十分一ヲ代表スヘキ株主ハ全体ノ利益ヲ謀リ自己ノ費用ヲ以テ或ハ原告トナリ或ハ被告トナリ支配人若クハ監督委員ニ對スル訴訟ヲ一名若クハ數名ノ代理者ニ委託シ裁判所ニ於テ代理セシムルヲ得ヘシ然レモ是レ各株主カ自己ノ名義ヲ以テ起サントスル所ノ訴權ヲ妨害スルモノニアラサルナリ

又法律ハ刑事上ノ制裁ヲ設ケ以テ此緊要ナル規則ノ實施ヲ確實ナラシメタリ蓋シ其處罰スヘキ事實及ヒ罰科ハ株式差金會社ニ於ケルモノト同一ナリトス乃チ法律ニ違背シテ株券ヲ發行賣買シ其賣買取引

ニ立入り株式ノ價格ヲ廣告シ株主總會ニ於テ虛偽ノ多數ヲ作り資本
 金申込若クハ拂込ヲ偽ハリ或ハ惡意ヲ以テ虛偽ノ申込若クハ拂込ヲ
 廣告シ其他資本金ノ申込若クハ拂込ヲ受クルノ手段トシテ詐偽ノ所
 爲ヲ行ヒ株金ノ申込若クハ拂込ヲ促ス爲メ惡意ヲ以テ會社ニ加入セ
 サル者ノ姓名ヲ加入シ或ハ加入セントスル者ナリト偽ハリ之ヲ公告
 シ支配人財産目錄帳ヲ備ヘ付ケス或ハ詐偽ノ目錄帳ニ基キ無實ノ利
 益金ヲ配當スル等是レナリ

以上記ス所ノ諸規則ハ惟ニ新法律發布後ニ至リ設立スヘキ無名會社
 ニ適用スルノミナラス該法發布ノ時ニ當リ既ニ成立シタル無名會社
 ニモ之ヲ適用スルヲ得ル者ナリ(一千八百六十七年七月二
 十四日法律第四十五條)
 會社身代限トナリタル時ニ當リ株主ニ向ツテ配當利金ノ取戻シヲ要
 求スルノ訴權ハ無名會社ニ於テモ株式差金會社ニ於ケルト同一ノ原
 則ヲ以テ之ヲ決定スルモノナリ

千八百六十七年ノ法律第二章末段ノ二ヶ條ハ一時ノ規則ヲ掲ケタル
 モノナリ

千八百六十七年ノ法律第二章末尾ノ兩條ハ一時ノ條別ヲ包含セリ
 千八百六十七年七月二十四日法律ノ頒布前ヨリ成立スル無名會社ハ
 其成立ノ期限間ハ依然從前ノ規則ヲ以テ之ヲ支配スルモノト定メタ
 リ蓋シ此條則ハ全ク契約ヲ重ニスルヨリ出テタルモノナリ
 然レモ其新法ニ服従スルヲ制止スルヲ得サリシナリ故ニ從前成立シ
 タル會社ハ新法律ヲ採用シ該法ノ明文ニ從ヒ無名會社ニ變体スルヲ
 得ルモノナリ然レモ之ヲ變体スルニ當リテハ政府ノ准許ヲ受ケサル
 ヘカラス何トナレハ其設立シタルハ政府ノ准許ニ基キ且ツ其准許ハ
 契約者カ心算シタル必要ノ保護法タレハナリ他ノ一方ニ在リテハ法
 律ハ其變体ニ付テハ會社定款ヲ改正スル爲メ定メタル規則ノ外敢テ
 他ノ要件ヲ要求セサルナリ(一千八百六十七年七月二
 十四日法律第四十六條)

新法律頒布ノ時ニ當リ既ニ成立セル有限責任會社モ亦タ社則改正ノ爲メ約シタル要件ニ從ヒ此法律ヲ守リ以テ無名會社ニ變更スルヲ得ルモノナリ(一千八百六十七年七月二十一日法律第四十七條一項)

最後ノ箇條ハ商法第三十一條第三十七條及ヒ四十條并ニ有限責任會社ニ關スル千八百六十三年五月二十三日ノ法律ヲ廢止ス

千八百六十三年五月二十三日ノ法律ハ有限責任會社ト稱スル一種ノ會社ヲ設立シタリ是レ一種ノ組合ニシテ其組合員ハ各其差入物ノ外義務ヲ負フモノアラスシテ政府ノ准許ヲ受ケサルノ差アルノ外商法ニ定メタル無名會社ト異ナル所アラサリシナリ

是レ其實無名會社ノ一種ニシテ該會社ニ於テハ政府ノ准許ヲ得且ツ政府ノ監督ヲ受クルノ保護法ニ換ヘ株主及ヒ社外人ヲ保護スヘキ規則ヲ設ケタルモノナリ

千八百六十三年五月二十六日ノ法律ヲ編纂スルニ當リ立法院ノ編纂

委員ハ此新設ノ會社ヲ有限責任會社ト稱センヨリ寧ロ之ニ換ユルニ無名會社ノ名稱ヲ附セシメテ發議シタリト雖モ參事院ニ於テ之ヲ棄斥シタリ然レモ千八百六十三年ニ採用セサルモノハ千八百六十七年ノ立法者ノ決定スルトコロトナレリ該立法者ハ無名會社ノ制ヲ改メ政府ノ准許ヲ廢シ併セテ政府ノ准許ヲ受クヘキ無名會社ニ關スル商法ノ諸規則及ヒ其准許ヲ要セサル會社ニ關スル千八百六十三年五月二十三日ノ法律ヲ廢シタリ但シ六十三年ノ法律ノ條文ハ或ハ原文ニテ或ハ修正ヲ加ヘテ概子之ヲ刑法ニ再述セリ

第六章 資本増減社會

資本増減會社トハ社員ノ數回ノ拂込又ハ新社員ノ加入ヲ以テ會社ノ資本金ヲ増シ又ハ差入物ノ全部若クハ一部ヲ採リ以テ其資本金ヲ減スルヲ得ヘキヲ會社定款ヲ以テ定ムルモノヲ云フ(一千八百六十七年七月二十四日法律第四十八條一項)

普通會社ニ在リテハ現存ノ資本金ヲ以テ目的トスルモノ千八百六十七年ノ法律第三章ニ記載スル所ノ會社ハ之ト異ナリ其目的ハ蒐集中ノ資本金ナリ故ニ其會社ノ目的ハ多額ノ資本金ノ増加、聚集ヲ容易ニスルニ在リ故ニ普通ノ會社ニ於テハ其資本金ノ確定セルモ資本増減會社ニ於テハ其資本金ニ増減アルモノナリ

此會社ノ社員タルモノハ概テ職工等ニシテ移住常ナク且ツ商業恐慌ノ時ニ當リ自己ノ所持金ヲ使用スル必要アレハ社員ニ社外人及會社ノ利益ヲ害セサルニ於テハ隨意ニ退社シ以テ其差入物ノ全部若クハ一部ヲ採ルノ便ヲ與ヘサルヘカテサルナリ故ニ其社員ハ普通ノ會社ニ於ケルカ如ク會社ノ成立スル間ハ終始其差入物ヲ會社ニ置クヘキノ義務アラサルナリ

共力會社ト題シタル千八百六十七年法律第三章ノ規則ハ始メ政府ヨリ提出シタル再度ノ草案ニ在テハ確定ノ法律ニ於ケル如ク其區域廣潤ナラサリシカ其精神ヲ擴張シ都テ商工業ノ業務ニシテ正當ニ會社ノ目的トナルモノニハ悉ク之ヲ適用スルモノトナセリ

然レモ保險ヲ業務トスル無名會社ノ性質ハ特異ナルトコロアルヲ以テ立法者ハ資本増減會社ニ關スル第三章ノ規則ヲ此會社ニ適用スヘカテサルモノト斷定スルニ至レリ

資本増減會社ニハ一種固有ノ原素アリ且ツ特別ノ規則ヲ以テ之ヲ管理スルト雖モ然レモ通常ノ會社ト同一ノ組織ヲ帶フルニアラサレハ成立スルヲ能ハサルモノナリ

千八百六十七年七月二十四日法律第四十八條第二項ハ尙ホ之ニ附記シテ曰ク資本増減會社ハ各種ノ會社ニ適用スヘキ一般ノ規則ノ外此法律第三章ノ規則ニ準據セサルヘカテラスト

又タ該規則ハ合名會社若クハ差金會社ノ組織ヲ採用シタル資本増減會社ニモ適用ス可キモノ、如シ何ントナレハ第四十八條第二項ニハ

諸會社ト云ヒ特ニ株式會社ト云ハサレハナリ然レモ第四十九條以下ニ至リテハ明カニ合名會社及ヒ通常差金會社ニ適用スルコト能ハサル規則アルカ如シ

此點ニ關シ立法院ノ議事ヲ審議シ余輩遂ニ資本増減會社ナルモノハ合名會社又ハ通常差金會社ノ組織ニ倣ヒ之ヲ設立スルヲ得ヘシト雖モ其會社ヲ支配スルトコロノ原則ニ據ラサルヘカラサルモノト斷定スルニ至リタリ且ツ其會社ノ資本ハ増減シ其人員ハ變更スヘシト雖モ其會社ハ千八百六十七年七月二十四日法律第三章ノ規則ヲ以テ之ヲ支配スヘカラサルモノナリ

蓋シ立法者ハ合名會社ノ社員若クハ支配人ノ無限責任ヨリ起ル所ノ保証ハ十分ナルヲ以テ縱令ヒ其會社ノ資本金増減スルコトアリト雖モ普通法ノ外他ノ規則ヲ遵守セシムルハ無益ナルコト信スレハナリラトウ氏ハ此說ヲ駁シテ曰ク余輩ハ社員及ヒ資本ヲ増減スヘキ合名

會社若クハ通常差金會社ヲ組織スルヲ得ルハビエール氏ト全說ナリ然レモ其會社ハ千八百六十七年ノ法律第三章ノ規則ヲ以テ管理スルコトヲ得サルナリト現ニ無記名株式ヲ發行スルノ制禁二十万フランクニ最初ノ會社資本金ヲ該會社ニ適用スルコトヲ拒否スルハ實ニ至當ナリ是レ事物自然ノ理ヨリ生スルモノニシテ加フルニ立法院ニ於テ討議ノ際無記名株式ヲ禁止シ其資本金ヲ制限スルノ豫防法ハ獨リ株式會社ノ弊害ヲ防カント欲スルニ出テタルモノナリ然レモ余輩ノ意見ニ於テハ會社資本金ノ最寡度ヲ定ムヘキ該法律第五十一條ハ資本増減會社ニ適用スヘキナリ蓋シ本條ノ規則ヲ以テ法律カ避ケントスル所ノ危險ハ獨リ株式會社ノミニ顯出スヘキモノニアラサルナリハバーストール氏ノ說ニ憑レハ千八百六十七年ノ法律第五十條ハ獨リ該法律中株式會社ニ關係ヲ有スルモノナリ故ニ特ニ株式會社ノミニ適用スヘキモノハ該條ニ止マルモノニシテ其他第三章ノ箇條ハ諸會社

ニ通用スヘキモノナリト云フ

斯ノ如ク假令ヒ種々ノ異説アリト雖モ株式差金會社若クハ無名會社ノ組織ヲ採用シタル資本増減會社ハ此二種ノ會社ニ固有ナル規則ノ外余輩カ下文ニ示サントスル規則ヲ以テ管理スルモノタルヤ又疑ヲ容レサルナリ而ノ其規則タルヤ社外人及ヒ社員自身ヲ保護スルヲ以テ目的トスルモノナリ

第一ノ保護法ハ會社組織ノ始メニ於テ資本金額二十万フラン以上ニ至ルヲ禁止スルコト是ナリ

然レモ創立後一ケ年間ハ斯ノ如ク資本金高ヲ制限スルト雖モ漸次増加シ進長スルハ法律上許ス所ナリ毎年總會ノ決議ヲ以テ二十万フランノヲ増加スルヲ得（一千八百六十七年七月二

十四日法律第四十九條）該會社ノ株式ハ其全額拂込ノ後ト雖モ記名株式タルヘキナリ法律ハ相場ノ弊ヲ恐レ無記名株式トナスヲ許サ、ルナリ

又株式會社ニ關スル通則ノ例外トシテ其株式ヲ五十フランノト定メタリ然レモ決シテ其價格ニ下ルヘカラス又タ其株式ハ千八百六十七年ノ法律第一章及第二章ニ説明シタル規則ニ基キ會社確立シタル後ニアラサレハ賣買スヘカラサルナリ（一千八百六十七年七月二十

四日法律第五十條一項二項）然レモ資本増減會社ニ於テ會社成立ノ爲メ必要ナルハ敢テ株式金高四分一ヲ拂込ヲ要セス唯タ十分一ニシテ足ルモノナリ

其他株式ノ賣買ハ會社ノ帳面書換ヲ以テスルニアラサレハ行フコト能ハサルモノナリ而ノ會社定款ヲ以テ會社ノ經理委員或ハ株主總會ニ其移轉ヲ拒ムノ權利ヲ與フルヲ得ルモノナリ

各社員ニ會社ニ差入タル物件ヲ取戻スノ便宜ヲ與ヘ以テ會社ノ資本金ヲ減スルコトヲ許スト雖モ社外人及ヒ會社自身ノ利益ヲ計ル爲メニハ宜シク適當ノ定限ヲ設ケ其會社資本金ヲ減ス可ラスト定ムルハ極メテ必要ナリト云フヘシ

其定限ハ會社ノ定款ヲ以テ定ムルモノナリト雖モ之ヲ會社資本金ノ十分一以下ニ下スヲ得サルモノナリ然レモ現ニ會社業務ノ目前又ハ將來ノ要用ニ從ヒ十分一以上ニ定ムルヲ得ルモノナリ
 余輩ハ讀者ト共ニ既ニ知ルカ如ク資本増減會社ニ在ル社員ハ普通ノ會社ニ於ケルカ如ク會社ノ成立期限間ハ終始差入物ヲ會社ニ置クノ義務アラスシテ其差入物ノ全部ト雖モ之ヲ取戻スヲ得ルハ法律上該社員ニ許ス所ナリ然ルニ社員其差入物全部ヲ取戻シタルキハ既ニ社員ニアラサルナリ然レモ法律ハ疑惑ノ存セサランカ爲メ之ヲ明言シテ曰ク各社員ハ自カラ適當ナリト認ムルキハ脱社スルヲ得ルモノナリト然レモ會社ノ定款ヲ以テ多少退社ノ權利ヲ檢制スルヲ得ヘク且ツ退社人ノアリタルカ爲メ會社ノ資本金定款ヲ以テ定メタル定限以下ニ下ルヘカラサルノ要件ニ遵據セサルヘカラサルナリ(第五十二條第一項)
 社員ハ往々鄭重ニ其職ヲ盡サ、ルヲアリ又々此種ノ會社ニ於テ極メ

テ必要ナル徳義廉耻ヲ守ラサルヲアルヲ以テ會社ノ定款ニ之ヲ推測シ株主總會ニ社員ノ一名若クハ數名ヲ退社セシムルヲ得ルノ權利ヲ與フルヲ得ヘシ是ノ如キ重大ナル決議ハ會社ノ定款ヲ改正スル爲メ定メタル多數決ヲ以テ決セサルヘカラス(第五十二條第二項)
 社員ハ自己ノ隨意ト強制ニ由ルトヲ論セス凡テ退社セシ者ニ在リテハ特約ヲ以テ契約シタル義務又ハ己レノ帶ヒル所ノ社員タル性質上ノ結果タルヘキ義務等ハ之レヲ免カル、ト能ハサルナリ故ニ退社ノ時ニ當リ己レノ帶ヒタル義務ハ會社或ハ社員ニ對シ悉ク之ヲ盡スベキモノニシテ退社後五ケ年ヲ經過セサレハ其義務ヲ免カレサルモノナリ

資本増減會社ハ商事タルヲ得ルト雖モ概テ民事會社ナリトス
 大審院ハ民事會社カ支配人ヲ以テ裁判所ニ出訴スルヲ許サス各組合員ハ各々自ラ出席スルヲ要求セリ

法律ハ資本増減民事會社ヲシテ大審院ノ規則ニ從ハサラシメンカ爲メ正當ノ代理者タル支配人ヲ以テ裁判所ニ出訴スルノ權利ヲ與ヘタリ(第五十條)終ニ普通法ノ原則ニ從ヘハ社員中ノ一名他ノ社員ト社内ノ關係ヲ繼續スルヲ能ハサル場合ニ至ラシムル事件ハ會社ノ解散ヲ致スモノトス

故ニ會社ハ社員中一名ノ死去、法律上若クハ裁判上ノ治産ノ禁若クハ身代限ニ由リ解散スルモノナリ社員中一名ノ家資分散モ亦タ會社解散ヲ請求スルノ權利ヲ與フルモノナリ資本増減會社ニ於テハ社員ノ死去禁治産身代限若クハ家資分散又ハ社員ノ退社アリト雖モ會社ハ依然他ノ社員間ニ成立スルモノナリ(第五十四條)蓋シ該會社ハ概シテ協誼戮力以テ事業ヲ成サントスルノ會社タルヲ以テ日々其成立如何ノ問題ヲ生スヘキ民法第千八百六十五條ノ

管理ヲ受クルノ精神ヲ有セサルニ基クモノナリ是レ即チ新設法律ノ説明書ニ記載スル所ノ理由ナリ然レモ會社ノ定款ヲ以テ之ニ反スル意思ヲ定ムルヲ得ルモノナリ

第七章 會社ノ證據ノコ

合名會社差金會社及ヒ無名會社ハ依令ヒ其會社ノ目的百五十五ヲラシ以下タル時ト雖モ證據ヲ以テスルコアラサレハ證據ヲ立ルヲ得ス是レ普通法ノ原則ノ例外ニシテ(民第千八百三十四條)以上ノ諸會社ニ在リテハ其關係ノ錯雜ナルカ爲メ証人ヲ用ユルヲ許サ、ルナリ其他結社證書ヲ調製スルハ商業會社ニ命シタル公告ノ義務上避クヘカラサルモノトス其證書ヲ調製スルニアラサレハ公告ヲナスヲ能ハサレハナリ(商第百二十九條、法律第百六十七條、第七項)合名會社、差金會社又ハ無名會社ハ私證書又ハ公正證書ヲ以テ之ヲ記載スルヲ得ヘシ

商法ハ無名會社ニ限リ公正証書ヲ以テスルニアラサレハ組織スルヲ
 ナ許サ、リキ(商第四十條)是ノ如キ特別ノ規則ハ契約者ノ自由ヲ損傷スル
 モノト看做セシヲ以テ千八百六十七年ノ法律ハ商法第四十條ヲ廢止
 シ爾來該會社ハ私証書并ニ公正証書ヲ以テ組織スルヲ得ルモノト定
 メタリ

今余輩ハ私証書ヲ以テ結社証書ヲ作ルキハ何通ノ証書ヲ要スル哉ヲ
 説明セシ

若シ其合名會社ナルキハ利害ヲ異ニスル契約者即社員ノ數ニ應シテ
 証書ヲ調製セサルヘカラス

通常差金會社ニ於テハ其証書ノ數如何ハ議論紛々トシテ歸スル所ヲ
 知ラス第一說ニ曰ク常通差金會社ニ於テハ無限責任社員ノ爲メ一通
 金主ノ爲メ一通并セテ二通ヲ以テ足レリトス何トナレハ實際上ニ於
 テハ二人ノ契約者更ニ之ヲ言ヘハ二種ノ利益即チ無限責任社員ノ利

益及ヒ金主ノ利益アルニ過キサレハナリ故ニ此二種ノ原素ニ對シテ
 ハ全ク二通ヲ以テ足ルモノナリ即チ一通ハ支配人ノ証書ニシテ一通
 ハ金主ノ証書ナリ

是レ千八百三十年大審院ニ於テ判決シタル所ニシテ至當ナリト云フ
 ヘシ且ツ千八百六十七年七月二十四日ノ法律ハ株式差金會社ニ關シ
 前述ノ如キ決定ヲ與ヘ此說ノ爲メニハ極メテ確固ナル論理ヲ與ヘタ
 リ余輩ハ此說ヲ採用スヘシ

第二說 第一論者ノ說ハ差金會社ノ無限責任社員ニ關スルモノニ至
 リテハ法律ノ明文ニ反スルナリ何トナレハ商法第二十四條ニハ無限
 責任社員數名アルキハ其間合名ノ會社アリト看做ス云々ト明記スレ
 ハナリ然リ而シテ私証書ヲ以テ合名會社ヲ約セント欲セハ宜シク社員
 ノ數ニ應シ証書ヲ調製セサルヘカラスハ昭々ナリ加之金主ニ至リ
 テモ亦タ各々利益ヲ異ニセサルモノト觀察スルヲ能ハサルナリ否ナ

其契約ニ依リ金主ハ互ニ權利者ト爲リ義務者ト爲ルモノナリ是レ殊ニ金主直ニ其差入物ヲ拂込マスシテ唯其拂込ヲ約スルキハ明著ナリ又各金主ハ共同ノ資本ヨリ生スル利益ノ分配ヲ請求スルニ付テモ其利益ヲ異ニス此請求ヲ爲スヤ他ノ社員即チ他ノ金主又ハ無限責任社員ト爭論スヘク而シテ此爭論ヲ決スル爲ニハ結社証書ノ條件ニ基クテ以テ必要トスヘキナリ

株式差金會社若クハ無名會社ナルキハ法律ノ明文ヲ以テ此點ヲ決定セリ乃チ千八百六十七年七月二十四日法律ノ起艸者ハ其証書ヲ二通トナシ一ハ公証人ノ作りタル會社資本ノ申込申告書ニ添付シ他ノ一通ハ會社本店ニ備置キ以テ足レリト思考セリ(一千八百六十七年七月二十四日法律第一條五項第二項)

商事會社ニ於テ証書ノ必要ナルハ其成立ノ公式ナル乎將タ証據ノ方法ナル哉如何ノ問題ハ議論ニ屬セリ

第一說 余輩ノ意見ニ從ヘハ百五十フラン以下ノ金額ニ關スル時ト雖モ証據ニ代用スヘキモノナリ各社員ハ仮令ヒ証書ノ端緒トナルヘキモノアリト雖モ証人ヲ用ヰルヲ得ス又自認若クハ誓ヲ以テ其會社ノ成立ヲ証明スルヲ得サルナリ參事院ニ於テ該法律ヲ審議スル時ニ當リテモ亦タ精神ナリキ

第二說 千六百七十三年勅令第四章第一條モ亦タ會社ニハ証書ヲ調製スルヲ必要トセリ然レモ必ラス証書ヲ差出サハルヘカラスト主張シタル者ナシ商法第三十九條ハ民法第千八百三十四條ノ規則ヲ再出シタルモノニシテ該條モ亦タ同法第千三百四十一條ヲ再出シタルニ過キサルナリ然リ而シテ千三百四十一條ノ明文アルニ拘ラス凡ソ義務ナルモノハ裁判上ノ自認其他証人ニアラサル以上ハ何等ノ供証法ヲ以テスト雖モ之ヲ證明スルヲ得ルモノナリ

終ニ商法第四十一條ハ普通法ノ原則ニ從ヒ會社ニ管シタル訴ニ付テ

ハ仮令ヒ百五十フラン以下ノ金額ニ關スル時ト雖モ會社ノ證書ニ記シタル所ト相反スル事又ハ其外ノ事又ハ其契約書ヲ記スル前後又ハ當時ニ言説シタリト云フ事ニ付キ証人ヲ以テ證明スルヲ許サ、ルモノト決定セリ

然レモ此禁令ハ會社ノ證書ニ爲シタル變更ヲ證明スルニ其證據ヲ會社ノ帳簿ヨリ採ルノ妨トナラサルナリ而シテ商事ニ關スル供証法ヲ定ムル所ノ商法第九條ニハ帳簿並ニ往復書狀若クハ私ノ證書ヲ供証トナスヲ得ルモノタルヲ記載スレハナリ

第八章 廣告ノ手續其廣告ノ手續ヲ遵守セサル時ノ制裁

會社ハ毎々會社ノ創立證書ヲ呈出スルノ勞ヲ避クル爲メ且ツ社外人トノ關係極メテ繁多ナルヲ以テ其業務ヲ容易ニ實行スル爲メニハ社外人ニ關係ヲ及ホスヘキ約束ヲ普ク公衆ニ知覺セシムルヲ甚ク緊要ナル故ニ廣告ノ手續ヲ要スルモノナリ言ヲ換ヘテ云ヘハ會社ノ組

織資産并ニ其他社外人カ知ルノ必要アルモノハ悉ク廣告セサルヘカラス

商事會社ノ契約書公告ニ關スル手續ハ之ヲ商法第四十二條乃至第四十六條ニ定メタリ然レモ是レ方今ニ於テハ廢止セラレタリ(一千八百七十二年七月六十五日法律第六十五條)

其廣告ノ手續ハ若シ合名會社若クハ差金會社ニ關スルキハ會社ノ證書ノ日附ヨリ十五日内ニ其證書ノ拔萃書ヲ其他商事裁判所ノ書記局ニ差出タシ之ヲ簿冊ニ登記シ而シテ三ヶ月間之ヲ傍聽室ニ揭示スルニ在リキ而シテ其他右ノ拔萃書ハ縣令ヨリ指定シタル一種若クハ數種ノ新聞紙ニ掲載セサルヘカラス(商法第四十二條)

無名會社ニ至リテハ會社創立允許狀及ヒ會社ノ契約書全文ヲ他ノ會社ト均シク三ヶ月間揭示セサルヘカラス但其揭示ノ前裁判所ノ書記局ニ之ヲ登記スルヲ要セサリキ

新法律ハ新タナル公告法ヲ定メタリ是レ數多ノ利益中公告法ヲ一定シタルノ利益アリ

若シ私証書ナルキハ商事會社設立ノ月内ニ結社証書一通若シ公正証書ナルキハ其謄本ヲ會社設立地ノ治安裁判所及ヒ商事裁判所ノ書記局ニ差出スヘシ(一千八百六十七年七月二十一日法律第五十五條一項)若シ其會社ノ舖店數郡下ニ散在スルキハ會社設立ノ月内ニ其舖店所在ノ各郡下ノ書記局ニ差出サ、ルヘカラス(第五十條一項)

若シ其會社カ株式差金會社ナルキハ余輩カ上文ニ示シタル官衙ニ差出ス所ノ會社設立契約書ニ尙ホ左ノ書類ヲ添付セサルヘカラス

- 一 會社資本金ノ申込及ヒ四分一ノ拂込ヲ證明スヘキ公正証書ノ寫(資本増減會社ナルキハ十分一)
- 二 差入物若クハ利益金ノ檢査評定ニ關スル株主總會評議書ノ寫

又其會社カ無名會社ナルキモ同シク會社設立証書ニ右ノ書類ヲ添付セサルヘカラス然レモ尙ホ第一會社資本金全額ノ申込及ヒ拂込ヲ証明スヘキ支配人ノ申告書ノ誠否如何ヲ檢査スル爲メ招集サレタル第一回ノ株主總會決議書ノ寫第二各社員ノ姓名、身分、住居及株式所持高ヲ掲ケ正當ノ檢認ヲ經タル姓名錄ヲ添ヘサルヘカラス(第五十五條三項)

第二ノ條件ハ前段ト均シク會社設立ノ月内ニ實行セサルヘカラサルモノニシテ法律上ノ公告ヲナスヘキ指定ノ新聞ヲ以テ會社設立契約書及ヒ之ニ添付スヘキ書類ヲ公告スルニ在リ

此公告ヲ證明スルニハ印刷人ノ保証シ邑長ノ檢印シ且ツ發兌ヨリ三ヶ月内ニ記録シタル新聞紙一號ヲ以テスヘシ

今ヤ余輩ハ新聞紙ヲ以テ公告スル所ノ拔萃書ニハ如何ナルヲ掲記スヘキヤチ陳述セントス若シ其會社カ合名會社ナルキハ左ノ事項ヲ記載セサルヘカラス

- 一 合名會社ナルヲ明言スルヲ
 - 二 社名ヲ指示スルヲ
 - 三 會社ノ本店ヲ指示スルヲ
 - 四 社員ノ姓名身分及ヒ住居
 - 五 會社ヲ管理支配シ及ヒ之カ爲メ署名スヘキ社員ヲ指定スルヲ
 - 六 會社ノ開始及ヒ解散ノ期
 - 七 治安裁判所及ヒ商事裁判所ノ書記局ニ差出シタル日附
- 若シ其會社カ通常差金會社若クハ株式差金會社ナルキハ其拔萃書ニハ第二三五六七ノ事項ヲ記載スルニ止マル者ナリ第一項ニ記載スヘキ事項ハ之ニ換ユルニ其會社ノ通常差金會社若クハ株式差金會社タルヲ記シ第四項ニ換ユルニ會社資本金高及ヒ株主ヨリ拂込ミ若クハ拂込ムヘキ金額ヲ記スルモノナリ其社員ハ決シテ之ヲ示スヘカラス

ス何トナレハ其會社ハ株主ノ差入物ニ據リ組織スルモノニシテ其人ニ據リテ成立スルモノニアラサレハナリ

然レモ會社ノ契約ニ付キ自己ノ財産全部ヲ以テ義務ヲ盡スヘキ責任アル社員ノ姓名ハ之ヲ示サ、ルヘカラス

無名會社ニ至リテハ第三五六及七項ヲ存シ第一項ノ事項ニ換ユルニ無名會社タルヲ記載シ第二項ノ事項ニ換ヘテ會社ノ營業業務ヲ記シ第四項ニ換ヘ會社ノ資本金額及ヒ株主ヨリ拂込ミ若クハ拂込ムヘキ金額ヲ記載スルモノトス而シテ其事項ヲ記スルニ當リテハ通貨其他ノ物件ニテ資本幾許ナル哉ヲ示サ、ルヘカラス終ニ尙ホ準備金ヲ組織スル爲メ收益金ヨリ扣除スヘキ金額ヲ附記スヘシ

右ノ拔萃書ノ第二款ニハ若シ其會社カ株式差金會社若クハ無名會社ナルキハ差入物並ニ特別利益ノ評定ニ關スル株主總會ノ決議ヲ記シ第三款ニハ支配人若クハ創立者ノ申告書ヲ知ラシメサルヘカラス

若シ資本増減會社ナルキハ必ス拔萃書ニ其由ヲ記載セサルヘカラス
 若シ株式差金會社若クハ無名會社ノ体制ニ倣ヒ資本増減會社ヲ設立
 シタルキハ會社資本高キ減スルヲ能ハサル最寡金額ヲ示サ、ルヘカ
 ラス

書記局ニ差出シタル契約書及ヒ書類ノ拔萃書ハ公正証書ニ付テハ公
 証人署名シ私証書ニ付テハ合名會社ノ社員差金會社若クハ無名會社
 ノ支配人之ニ署名スルモノナリ
 契約書ヲ差出シ且ツ拔萃書公告ノ手續ヲ遵守セサルニ於テハ關係者
 ノ爲メニハ其契約無効タルヘシ然レモ其手續ノ一チ欠クト雖トモ何
 レモ社員ヨリ社外ニ向ツテハ無効タルヲ得サルナリ此ニ
 千八百六十七年七月二十四日法律第五十六條第二項ノ規則ハ商法第
 四十二條末項ノ法文ヲ再出シタルモノニシテ其精神モ一ニシテ又々
 同一ノ制裁ヲ掲クルモノナリ

公告ノ手續ヲ定ムルハ主トシテ社外人ノ利益ヲ保護スルニアルヲ以
 テ契約差出ノ手續或ハ公告ヲナサ、ルヲハ社外人乃チ會社ト契約ヲ
 爲シタル者ヨリ申立ツルヲ得ルヤ明カナリ
 又其手續ヲ實行スルノ義務ヲ負ヒタル社員ニシテ其義務ヲ盡サ、ル
 キハ過失ノ責ヲ免レサルヲ以テ社外人ニ對シ其無効ヲ申立ツルヲ得
 サルヤ明瞭ナリ

終ニ未タ商法ノ改正アラサル前ニ於テハ社員ハ互ニ其會社ノ無効タ
 ルヲ口實トスルヲ得ルヤ如何ノ問題起リシカ其疑點并ニ關係者ニ
 對スル云々ノ語意ニ付テハ議論紛然タリキ

第一說 關係者ナル語ニテ立法者ハ社外人ヲ指スヲ欲スルモノニ
 シテ社員ヲ示スニアラサルナリ社員タル者ハ會社ノ無効タルヲ述ル
 コトヲ得サルヘシ何トナレハ社員ハ其契約書ニ署名捺印シ自ラ署名
 シタル契約書ニ記載セルモノヲ知ラスト言説スルコト能ハサルヲ以

テ公告ノ手續ヲ要セサレハナリ其手續ヲ盡サンコトニ付キ利益アルモノハ獨リ社外人ニシテ社外人ノ利益ヲ計ル爲メ定メタル手續ヲ遵守セサルヲ以テ社員カ互ニ其契約ヲ無効トナスノ理ハ更ニ了解スルヲ得サルナリ

第二説 余輩カ同意スル所ノ第二論者ノ説ニ從ヘハ社員ハ公告ノ手續ヲ踐マサルカ爲メ起リタル契約ノ無効ヲ他ノ社員ニ向ツテ申立ツルヲ得ルモノナリ果シテ立法者ノ精神第一論者ノ説ノ如クハ社外人ノ利益トシテ無効トスルモ社員ヨリ社外人ニ向ツテ無効トスルヲ得ス云々ト記載セサルヘカラス然ルニ其語氣ノ是ノ如クナラサルハ全ク立法者ノ精神ハ蓋シ社員間ニ於テモ無効タルコトヲ明記スル所ノ千六百七十三年ノ勅令第四章第六條ニ記シタル原則ヲ採用シタルニ在リ且ツ參事院ニ於テ討議ノ際採用シタルモ亦タ此意見ナリキ是レ概テ論者ノ説及ヒ判決例ニ於テ商法第四十三條ノ社外人ノ爲メ

云々ノ語ヲ解釋スルハ右同一ノ意義ニシテ千八百六十七年ノ法律ニ記載シタル語意モ亦タ此意義ナリキ若シ公告ヲナサ、ル會社ニ於テ事業ヲ始メ其事業タルヤ社員舉リテ之ヲ爲シ且ツ若シ其會社正當ニ成立シタルカ如ク業務ヲ爲シタルキハ其所爲ハ如何ナルヘキヤ即其會社ハ將來ハ勿論過去ニ付テモ無効タルヘキ哉ハ論者ノ説ヲ異ニスル所ナリ

第一説 是レ都ヘテ會社全ク成立セサルモノ、如ク規定セサルヘカラス無効ナル會社ノ證書ハ過去將來共ニ其結果ヲ生スヘカラス現ニ立法者ハ將來過去ノ別ナク斷然之ヲ無効トシタルヲ見ルヘキナリト此説ニ從ヘハ全ク會社ノ證書ヲ顧ミスシテ恰モ會社ノ成立セザリシカ如ク各社員ノ權利ヲ定メサルヘカラス故ニ利益ノ配當ハ會社ノ證書ヲ以テ定メタル基礎ニ據ラスシテ普通法ノ原則ニ基キ行フヘクシテ各社員ノ割前ハ其差入物ニ相應スヘシ故ニ其損失モ亦タ同一

ノ基礎ニ從ヒ分配スヘシ即チ財産共通ノ規則ニ從フヘクシテ會社ノ規則ニ據ラサルナリ只單ニ社員ノ差入物ヨリ生スル所ノ收益其差入金ノ利息并ニ社員ノ勞動ニ報スル酬勞金ヲ酌量算付スヘキモノナリ」

第二說 會社ノ無効タルコトハ將來ノ外及ホスヘカラサルナリ正理上ニ於テモ亦タ第四十二條ノ制裁ニ過度ノ結果ヲ生セシムルコトヲ許サ、ルナリ過キタルコトハ之ヲ取消スヲ得ス既往ノ事ハ永ク其形迹ヲ存スルモノナリト余輩カ同意ヲ表スル所ノ第二論者ノ說ニ於テハ既ニ經過シタル事業ニハ會社ノ規則ヲ適用スルモノナルカ故ニ損益ノ分配ヲ定ムルニ當リテハ契約ヲ參酌セサルヘカラス會社ヲ無効トナスノ訴訟ハ會社所在地ノ裁判所ニ差出サ、ルヘカラス

會社ノ成立ハ既往ノ事トシテ承認セサルヘカラサルカ故ニ其事業ヲ分割スヘカラサルナリ正理上ニ於テモ亦タ斯ノ如クナルヘキモノナリ蓋シ財産共通ノ如キ確實ナラサル原則ヨリ寧ロ契約者ノ準據シタ

ル會社ノ規則ヲ適用スルハ遙ニ優レルモノト云フヘキナリ

之ヲ要スルニ公告ノ手續ヲ遵守セサルカ爲メ會社ノ無効タルコトハ將來ニ於テハ社員ヨリ他ノ社員ニ向ツテ申立ツルヲ得ルト雖モ然レモ過去ニ至リテハ會社ノ規則ニ從ヒ利害ヲ定メサルヘカラス

社員一人ノミノ權利者ハ其義務者タル社員ニ代ハリ其權利ヲ行ヒ以テ公告ヲナサ、ルカ爲メ生シタル會社ノ無効タルコトヲ他ノ社員ニ向テ申立ツルヲ得ルハ毫モ疑ヲ容ル、所アラサルナリ

然レモ社員一人ノ權利者ハ會社ノ權利者ニ其無効タルコトヲ申立ルヲ得ヘキ哉蓋シ此論題ノ由テ起ル所ノ實益ヲ左ニ開陳セントス若シ會社正當ニ成立スルトキハ是レ一ツノ無形人ナルヲ以テ各社員ノ權利負債ト異ナル所ノ權利負債ヲ有スルモノナリ故ニ會社ノ權利者ハ社員ノ權利者カ未タ毫モ要求スルヲ得サル前既ニ會社ノ資産ヲ以テ支拂ヲ受クルモノナリ之ニ反シテ公告ヲナサ、ルカ爲メ其會社無効タ

ルキハ會社ハ成立セス且ツ特別ナル資産ヲ有セサルヲ以テ社員自身ノ權利者ハ其社員ノ割前ニ付テハ會社ノ權利者ト共ニ支拂ヲ受クルモノナリ

第一說 會社ノ無効タルコトハ社員自身ノ權利者ヨリ申立ツルヲ得ルモノナリ何トナレハ法律ハ單ニ其會社ノ無効タルコトヲ申立ツルヲ得サルハ社員ニ限ルト言ヘレハナリ其他法律ハ關係者乃チ規定ノ手續ヲ踐マサルモノトナスニ於テハ利益ヲ受クヘキ諸人ニ對シテ會社ヲ無効ト看做セルナリ且ツ社員ノ權利者ハ社員自身ノ如ク之ニ責ムヘキ過失アラサルナリ余輩ハ此說ニ左袒セン

第二說 社員自身ノ權利者ハ社員ノ代權者ナルヲ以テ其社員ヨリ餘分ノ權利ヲ有スヘカラサルナリ商法第四十二條ニ云ヘル(方今ニ於テハ千八百六十七年七月二十四日法律第五十六條二項)然レモ社員ヨリ第三者ニ對シ法式ノ不遵守ヲ申立ツルヲ得ストノ語

ハ全ク關係者ナル文字ノ意義ヲ社員及ヒ社外人ニ制限シタル者ノ如シ故ニ關係者ナル文字ハ社員自身ノ權利者ヲ包含スルモノニアラサルナリ且ツ其証據タルヤ公告書中ニ記載スヘキ事項ハ社員ノ權利者ニ益スルモノナリ其利益トナルヘキ差入物記載スルニアリト雖モ拔萃書中ニ之ヲ記載スルヲ要セサルニアルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ其公告ハ毫モ社員ノ權利者ノ爲メニ爲スモノニアラス之カ利益トナル所アラスシテ其公告ノナカリシコトヲ申立ツルヲ得サルヤ明カナリ終ニ會社公告ノ爲メ定メタル手續ハ社會ノ秩序ニ關スルヤ其手續ヲ遵守セサルカ爲メ生シタル會社ノ無効ハ社員ノ隨意ノ執行ヲ以テ之ヲ完補スルヲ得ルヤ如何ノ論題アリ

或論者ノ說ニ曰ク商法第四十二條(一千八百六十七年七月二十)ノ嚴則ハ之ヲ度外ニ推極スヘカラス其設ケタル無効ヲ以テ公ケノ一秩序ニ關シ決シテ完補スルヲ得サルモノニシテ社員一名ハ何時ニテモ他ノ社

員ニ向ツテ之ヲ申立ツルヲ得ヘシト爲ス可ラスト
 他ノ論者ハ其無効タルハ決シテ之ヲ完補スルヲ能ハサルモノト決定
 シタリ蓋シ會社ヲ無効トナス所以ノモノハ契約者一己ノ利益ヲ計ル
 モノニアラスシテ社會一般ノ利益ヲ計ル爲メ設ケタル規則ノ遵守ヲ
 確實ニスル爲メナリト云フニ在リ此說優レルカ如シ
 契約書ヲ差出シ及ヒ之カ公告ヲ爲スノ手續ハ管ニ會社設立ノ爲メ必
 要ナルノミナラス左ニ掲クルヲ目的トスル諸件及ヒ決議ニ關スル
 時ニ當テモ亦タ必要ナリ

- 一 定款改正ノヲ
- 二 最初定メタル期限外ニ會社ヲ繼續スルヲ
- 三 其期限前ニ會社ヲ解散スルヲ及ヒ會社結算ノ方法ノヲ
- 四 社員ノ更替若クハ退社ノヲ
- 五 社名變更ノヲ

左ニ掲クル事項ヲ目的トスル決議ニ付テモ亦必要ナリ

- 六 千八百六十七年前ニ株式差金會社タリシ會社ヲ無名會社ニ
 變スルヲ及ヒ該法頒布ノ際ニ成立シタル無名會社ヲ變更ス
 ルヲ若シクハ從來ノ有限責任會社ヲ無名會社ニ變更スルヲ
- 七 會社資本金四分ノ三ヲ失ヒタル場合ニ於テ無名會社解散ニ
 關スル株主總會ノ決議ノヲ
- 八 資本増減會社ノ資本金増加ノヲ

余輩カ上文ニ列舉シタル種々ノ場合ヲ再ヒ茲ニ説明セントス
 會社定款ノ改正當初ノ公告ヲ以テ社外人ニ知ラシメタル條件ノ變更
 ヲ爲シタル契約ハ何等ノ契約ト雖モ公告セサルヘカラス然レモ其公
 告ノ要ハ最初ノ公告ニ必要ナラサル條件ニ生シタル變更ニ迄及ホス
 ヘカラサルナリ

最初定メタル期限外ニ會社ヲ繼續スルヲ○會社ノ設立ヲ社外人ニ知

ラシムルヲ要スヘキノ理ハ會社ノ爲メ最初定メタル期限外ニ之ヲ繼續スルヲ知ラシムルト同一ノ理ナリ

社員ニ向ヒ公告ヲ爲サスシテ會社成立ノ期限ヲ延期シタルヲ申立テントスル社外人ハ一切ノ證據法即証人ハ勿論思料ニ據リテモ證據ヲ立ツルヲ得ルモノナリ

期限前ニ會社ヲ解散スルヲ若シ期限ヲ定メ會社ヲ組織シタルキハ會社ニ於テ公告スヘキ拔萃書ヲ以テ解散ノ原因ハ豫知セラル、モノナリ故ニ社外人ハ其公告ニ據リ會社ノ解散スヘキ時期ヲ知ルモノナリ故ニ新ニ公告ヲ以テ其解散ヲ社外人ニ知ラシムルノ要アラサルナリ斯ル場合ニ於テハ會社ハ先ニ公告シタル拔萃書内ニ示シタル期限ニ至レハ當然解散スルモノナリ

未タ商法ノ改正アラサル前ニ於テハ重大ナル論題起リシカ方今ト雖モ尙ホ之ヲ論スルヲ得ヘシ即チ其公告ハ社員カ先キニ示シタル期限

前ニ會社ヲ解散スル諸件ニ限レルカ將タ之ニ反シテ都テノ事項ニ及フモノニシテ社員ノ意ニアラスシテ解散スルモノニ迄及ホスヘキ哉ヲ知ルニアルナリ

第一說 是レ拔萃書内ニ豫メ解散ノ原因ヲ示シタル場合ト之ヲナサル場合トヲ區別セサルヘカラス若シ曩ニ公告シタル會社契約書ノ拔萃書内ニ解散ノ原因ヲ掲ケタルキハ新ニ其解散ヲ公告スルヲ要セサルヘシト雖モ若シ之ニ反シテ其原因ヲ記ルサ、ルキハ其公告ヲナスヲ必要ナリ社外人ノミナラス社員ト雖モ往々會社解散トナルヘキ原因ヲ知ラサルコトアリ是故ニ契約ノ効力ヲ評定スル爲ニハ証人ニ據ラサルヘカラス何トナレハ社外人及ヒ社員ノ善意ヲ斟酌セサルヲ得サレハナリ然ルニ証人證據ハ法律カ會社ノ解散並ニ其設立ノ際ニ當リテハ明カニ許サ、ル所ナリ故ニ其公告ヲナサ、ルヘカラスナリ

第二說 會社解散ノ期限前ニ之ヲ解散セントスル諸件ニ限リ獨リ公

告ノ手續ヲ要スルモノナリ千八百六十七年ノ法律ニ從ヘハ尙ホ會社ノ解散ヲ目的トスル決議書モ亦タ公告セサルヘカラス
 公告ノ手續ヲ法律外ノ他ノ場合ニ及ホスハ正當ニ法律ヲ解釋スルモノト述フルモ註釋者自ラ法律ヲ制定スルモノト云フヘキナリ
 余輩カ常ニ主持シタル所ノ第二論者ノ説ニ於テハ社員中ノ一名死去シタルカ爲メ起ル所ノ會社ノ解散ノミナラス社員中ノ一名治産ノ禁ヲ受ケ或ハ身代限トナリ會社ヲ解散スル時ト雖モ敢テ公告スルヲ要セサルモノナリ

立法者ハ以上述ル所ノ事實ヨリ起ル所ノ會社ノ解散ニ付テハ之カ公告ノ義務ヲ免シタリ何トナレハ其事實タル極メテ公然タル事項ニシテ公衆ノ眼ヲ避ケ之ヲ隱蔽スルコト能ハサルモノナレハナリ
 又「ボルドウ」ノ控訴院ハ千八百五十六年三月三日ノ判決ヲ以テ法律ハ裁判上ノ判決ヲ以テ會社ノ解散ヲ申渡シタル場合ニ於テハ敢テ其公

告ヲ要セサルモノト決定シタリ

論者アリ或ハ説ヲナシテ曰ク若シ會社ニ於テ其組織ノ際之ヲ公告セサルキハ其會社ヲ解散スヘキ原因ヲ公告スルヲ要セサルナリ元來其會社ナルモノハ之ヲ公告セサルニ如何シテ其解散ヲ公告スルヲ得ヘキ哉是レ一個ノ事實ニシテ其始終ヲ同フスヘシト

此説ハ斷然裁判所ニ於テ之ヲ付ケタリ
 會社ハ假令ヒ公告ヲナサ、ル時ト雖モ社外人ニ對シテハ依然トシテ成立スルモノナリ何トナレハ余輩カ曩ニ陳述セシ如ク社員ハ社外人ニ向ツテ公告ヲナサ、ルコトヲ中立ツルヲ得サレハナリ若シ會社ニ於テ公告ヲナサ、ルキハ元來社外人ハ各自ノ意思ニ從ヒ會社ヲ解散シタルモノトナシ或ハ自己ノ利益アルニ於テハ常ニ之ヲ成立スルモノト觀察スルヲ得ヘキヲ以テ其解散ヲ公告セサルハ其設立ヲ公告セサルト同一ナリ社員タルモノハ第二回ノ違法ヲ辨明スル爲メ其始メノ

違法ヲ口實トナスヲ得サルナリ

法律上ハ會社ノ決算方法モ亦タ之ヲ公告スルヲ欲セリ余輩後ニ至リ會社ノ決算トハ如何ナル事ヲ指スヤヲ説明スヘシ
社員ノ更替若クハ退社 社員中ノ一名タリトモ社外人ヲ己レノ代人トシ其位地ニ代ラシメタルキハ其變更ハ之ヲ公告セサルヘカラス然レモ是レ人ヲ以テ組織スル會社ニアラサレハ然ラサルナリ株式會社ニ於テハ其株式ヲ讓渡シ讓受人ヲ以テ讓渡人ノ地位ニ換ユルモ其會社ヲ組織スル所ノ原素ニ變動ヲ生セサルヲ以テ之ヲ公告スルノ必要アラサルナリ

余輩後ニ資本増減會社ニ於テハ隨意ヲ以テシ或ハ強制セラレ社員ノ退社スルモノ、爲メ法律ノ定ムルトコロ如何ヲ説明スヘシ
社名ノ變更 社名ノ變更ハ亦タ之ヲ公告セサルヘカラス否サレハ舊社名ヲ以テ結ヒタル契約ノ義務ハ社外人ノ爲メニハ法律上有効ニシ

テ又タ新社名ヲ以テ結ヒタル契約ノ義務モ有効タリ何トナレハ社員ハ其公告ヲナサ、ルヲ社外人ニ對シテ主張スルヲ得サレハナリ
會社ノ變體 若シ舊株式差金會社ヲ無名會社ニ變シ或ハ從來ノ無名會社若クハ有限責任會社ヲ千八百六十七年法律ノ明文ニ從ヒ無名會社ニ變シタルキハ其會社ノ設立其組織若クハ其會社ニ欠クヘカラスル必要ノ原素並ニ其會社ノ規則ニ重大ナル變動改正ヲ來スヲ以テ假令ヒ會社ノ定款ヲ以テ其會社ヲ變體スルヲ豫定シタリト雖モ其變體ヲ公衆ニ知ラシムルハ緊要ナリト云ヘキナリ

無名會社解散ノ問題ニ關スル株主總會ノ決議 無名會社ニ於テ會社資本金ノ四分一ヲ損失シタル場合ニ於テハ其會社ヲ解散スヘキ哉如何ノ問題ニ關スル株主總會ノ決議ハ均シク之ヲ公告セサルヘカラス其公告ハ皆ニ株主總會ニ於テ會社ヲ解散セサルヘカラサルモノト議定シタル場合ノミナラス尙ホ之ヲ繼續スヘキモノト定メタル時ト雖

之ヲナサ、ルヘカラス(第一千八百六十七年七月二十四日法律第六十一條三項)
 資本増減會社ノ資本増加ノ一 千八百六十七年法律第四十九條第二
 項ニ於テ年々會社ノ資本ヲ増スヲ許スカ如ク資本増減會社ニ於テ
 資本金ヲ増スヲ以テ目的トスル所ノ株主總會ノ決議ハ之ヲ裁判所ニ
 差出シ且ツ其拔萃書ヲ公告スヘキヲ法律上ニ明記シタリ(第六十條)其
 他該會社ノ支配人ノ退社ヲ証スル証書ニ付テモ其手續ハ同一タルヘ
 シ然レモ隨意ナルト強迫ナルトヲ問ハス其他ノ社員ノ退社ヲ証スル
 証書ハ裁判所ニ差出タシ公告スルニ及ハス又社員ヨリ漸々拂込ミタ
 ル資金ニ因リ若クハ新社員ノ加入ニ因リ生シタル會社資金ノ増加
 若クハ其差入物ノ一部ヲ引取リタルカ爲メ生シタル資本金ノ減少ヲ
 証スル証書ニ至リテモ此兩種ノ手續ヲ遵守スルニ及ハサルナリ
 以上余輩カ枚舉詳説シタル各場合ニ於テ証書ヲ裁判所ニ差出シ且ツ
 之ヲ新聞紙ニ掲載スルノ手續ハ裁判所ニ差出シ及ヒ之ヲ公告スヘキ

事件ノ起リタル日ヨリ一ヶ月内ニ行ハサルヘカラス加フルニ新聞紙
 ノ同號ハ其日附ヨリ三ヶ月内ニ之ヲ記録セサルヘカラス
 此等ノ決定ハ千八百六十七年七月廿四日ノ法律第六十一條ハ同法第
 五十五條及ヒ第五十六條ニ送ルヲ以テ之ヲ知ルナリ
 右ノ手續ヲ遵守セサル場合ニ於テハ其制裁法ハ會社設立ノ際ニ於テ
 其手續ヲ盡サ、ルモノニ對シ定メタルモノト同一タルヘキナリ
 法律ハ株式差金會社若クハ無名會社ノ公告ノ可成的完全ナランヲ
 欲スルヲ以テ該會社ニ關スルキハ何人ニモ治安裁判所及ヒ商事裁判
 所ノ書記局ニ差出シタル書類ヲ閱覽スルノ權利ヲ與フルノミナラス
 尙ホ各自閱覽者ノ費用ヲ以テ其原本ヲ所持スル書記若クハ公証人ヲ
 シテ寫書若クハ拔萃書ヲ授與セシムルノ權利ヲ許シタリ
 又何人タリトモ會社ノ舖店ニ至リ「フラン」ニ超ユヘカラサル手数料
 ヲ以テ會社定款ノ寫書ヲ渡サレノヲ要ムルヲ得ルモノナリ

終ニ裁判所ニ差出シタル書類ハ最モ見易キ方法ヲ以テ會社ノ事務所ニ揭示セサルヘカラス
 又只是ノミナラス株式差金會社若クハ無名會社ヨリ出タス所ノ諸証書價付告知書公告書其他肉筆又ハ印刷ノ書類ニハ會社ノ名稱ノ前或ハ後ニ於テ最モ分明ニ字ト株式差金會社無名會社ノ文字ト會社資本金トヲ記セサル可ラス

若シ其會社ニ於テ資本ヲ増減スヘキキハ余輩カ上文ニ示シタルヲ記載スルノ外左ノ語ヲ附記セサルヘカラス「資本増減ノ」云々

以上陳述スル所ノ諸規則ヲ犯シタル者ハ五十フラン以上千フラン以下ノ罰金ニ處ス(一千八百六十七年七月二日法律第六十四條)

第九章 共分組合

凡ソ商法中ニ於テ共分組合ノ性質ヲ定ムルニ當リ顯出スルカ如キ議論紛然タルモノハアラサルナリ

大審院ハ法律上ノ釋義アラサルヲ以テ此論題ハ須ラク裁判官ノ事實判定如何ニ歸スヘキモノナリト決定シタリ

實ニ外見上ニ於テハ共分組合ナルモ其實他ノ會社ノ僭伏スルヲ認定スル爲メニ事實裁判官ニ於テ其事實ヲ判定スヘキハ聊カ疑フ所アラスト雖モ然レモ一旦事實ヲ認定シタル後ニ至リ其事實共分組合ノ性質ヲ帶ルキハ其種ノ會社ニ固有ノ原則ヲ適用セサル判決ハ法律ニ違背スルモノタルヲ以テ之ヲ破毀セサルヘカラサルナリ

余輩ハ此問題ニ關スル重要ナル二說ヲ左ニ開陳セントス

第一說 商業上ノ共分組合トハ一個若クハ數個ノ制限アル事業ヲ目的トスルモノナリ故ニ合名會社若クハ差金會社ハ商業ヲ營ムヲ以テ目的トスルモ共分組合ハ商業トナルヘキ一事業若クハ數事業ヲ行フヲ以テ目的トセルモノナリ今其一例ヲ舉レハ甲乙兩者五年間共ニ麥類ノ營業ヲ爲サンコトヲ契約セリ即チ此二者ハ合名會社ヲ組織スルモ

ノナリ之ニ反シテ若シ其甲乙兩者何港ニ輸入セントスル某船ノ麥ヲ買入レタル後チ之ヲ轉賣シ以テ其利益ヲ共ニセンコトヲ約束セリ即チ此二者ハ共分組合ヲ組織スルモノナリ此說ヲ主張スル所ノ論者ノ理由チ左ニ開陳セントス其說ニ曰ク先ツ商法第四十八條ノ明文ハ甚タ判然タリ該條ニ曰ク共分組合ハ一個若クハ數個ノ商事ニ關スルモノナリト而シテ此第四十八條ヲ全法第二十條ニ對照スルキハ共分組合ナルモノ、性質ヲ組織スルモノハ制限アル業務ヲ目的トスルニ在ルヲ知ルコト容易ナリ現ニ商法第二十條ハ合名會社ノ解釋ヲ下スモノナルカ合名會社トハ一個若クハ數個ノ商業ヲナスモノト云ハスシテ反テ社名ヲ以テ商業ヲ營ムモノト云フニアラスヤ又タ之ニ附言シテ曰ク其他商法草案ヲ受ケタル諸裁判所ニ於テモ亦タ右ノ性質ヲ主張シタリ就中「ユルマール」ノ裁判所ハ此組合ヲ解釋シテ曰ク該組合ハ常ニ格別ナル事業ヲ以テ目的トスルモノナリ今其一例ヲ舉レハ森林ヲ伐採

ナルカ如ク家畜仕入ノ請合ヲナスカ如ク卸賣ヲ以テ商品ヲ買入レ之ヲ小賣ニ轉賣スルカ如ク其事業ヲ終レハ直ニ解散スルモノヲ云フナリト
 上文ニ陳ル所ノ第一說ノ同意者ナルブラバール氏ノ說ニ從ヘハ共分組合ナル語ハ合名會社差金會社及ヒ無名會社等ノ如ク常ニ一定不變ノ契約ヲ示スモノニアラスシテ原來舊法中ニハ或ハ會社ノ性質ヲ有シ或ハ會社タルノ性質ヲ有セス極メテ性質ノ異ナリタル夥多ノ契約ヲ包含セシ混同錯雜セル名稱ニ代用シタルモノナリト
 又タ氏ノ言ニ曰ク商法編纂委員カ共分組合ヲ商事會社ノ種類中ニ掲載セサルモ亦タ前陳ノ理由アル所以ナリ即チ共分組合ハ往々會社ノ一種タラサルコトアレハナリ而シテ商法第四十八條ニ云フカ如ク此組合ナルモノハ一個若クハ數個ノ商事ニ關スル云々ト言フハ實ニ至當ノ言ト云フヘシ